

松本市住宅マスタープラン見直しに関する アンケート調査結果

令和5年10月

目 次

1. 調査概要	1
2. 集計結果	3
【あなた自身について（回答者の属性）】	3
問1. 性別	3
問2. 年齢	3
問3. 世帯	4
問4. 同居人数	4
問5. 松本市での居住年数	5
問6. 居住地区	6
【住宅と周辺環境について】	7
問7. 住宅の種類	7
問8. 住宅の敷地面積と建物の延べ床面積	9
問9. 住宅の建築時期	15
問10. 住宅の満足度	17
問11. 居住環境の満足度	29
【住み替えについて】	45
問12. 居留意向	45
問13. 現在の居住地に住み続けたい理由	47
問14. 住み替える場合の条件	50
(1) 住み替える場合の居住地選択で重視する点	50
(2) 住み替える場合の転居したい地域	52
(3) 住み替える場合の住宅の種類	55
【住宅の耐震化について】	58
問15. 住宅の耐震化	58
(1) 住宅の安全性（耐震性）に対する考え	58
(2) 耐震改修の意向	60
【中心市街地の住まいやまちづくりについて】	62
問16. 松本市の中心市街地における人口減少の原因	62
【コロナ禍を契機とした新しい住まい方について】	64
問17. 新型コロナウイルス感染症による住生活への影響	64
問18. コロナウイルス感染症の影響の内容	66
問19. 実践したい将来の住まい方や暮らし方	68
【住宅の環境対策・省エネ対策・再エネ導入について】	72
問20. 住宅の環境対策として重視すること	72
問21. 省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費	74
【今後の住まいやまちづくりに関する施策について】	76
問22. 行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策	76

【自由記入欄】 80

問23. 住宅施策に関する意見及び要望 80



1. 調査概要

(1) 調査の目的

本アンケート調査は、松本市住宅マスタープランの見直しにあたり、市民の方の住まいに関する意見を把握し、今後の住宅施策の参考とするために実施した。

(2) 調査期間

令和5年8月7日（月）郵便発送

令和5年8月21日（月）投函期限

(3) 調査対象

市内にお住まいの18歳以上の方から2,100人を無作為抽出法により抽出。

(4) 調査方法

郵便配布・回収、およびWEB

(5) 回収状況

アンケート区分	回収数	回収率
郵送アンケート	463	22%
WEBアンケート	137	7%
総計	600	29%

(6) クロス集計項目

種別	設問	単純集計	クロス集計				
			年齢別	地域別	世帯種類別	住宅種類別	同居人数別
属性	問1 性別	●					
	問2 年齢	●					
	問3 家族構成	●					
	問4 同居人数	●					
	問5 松本市の居住年数	●					
	問6 居住地区	●					
住宅と周辺環境	問7 住宅の種類	●	●	●	●		
	問8 住宅の敷地面積と建物の延べ床面積	●	●	●	●	●	●
	問9 住宅の建築時期	●	●	●		●	
	問10 住宅の満足度	●	●	●		●	
	問11 居住環境の満足度	●	●	●	●		
住み替え	問12 居住意向	●	●	●	●	●	
	問13 現在の居住地に住み続けたい理由	●	●	●		●	
	問14 住み替える場合の条件 (1) 住み替える場合の居住地選択で重視する点	●	●	●		●	
	(2) 住み替える場合の転居したい地域	●	●	●	●	●	
(3) 住み替える場合の種類の住宅	●	●	●	●	●		
住宅の耐震化	問15 住宅の耐震化 (1) 住宅の安全性(耐震性)に対する考え	●	●	●		●	
	(2) 耐震改修の意向	●	●	●		●	
中心市街地の住まいやまちづくり	問16 松本市の中心市街地における人口減少の原因	●	●	●			
コロナ禍を契機とした新しい住まい方	問17 新型コロナウイルス感染症による住生活への影響	●	●	●		●	
	問18 コロナウイルス感染症の影響の内容	●	●	●		●	
	問19 実践したい将来の住まい方や暮らし方	●	●	●		●	
住宅の環境対策・省エネ対策・再エネ導入	問20 住宅の環境対策として重視すること	●	●	●		●	
	問21 省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建築費	●	●	●		●	
今後の住まいやまちづくりに関する施策	問22 行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策	●	●	●	●		
自由記入	問23 松本市の住宅施策に関するご意見・ご要望	●					

《集計結果における留意点》

- ・集計結果は小数点第2位を四捨五入、または小数点第1位を四捨五入しているため、合計が100%に満たない、または超える場合がある。
- ・複数回答の設問は、集計結果の合計が100%を超えることがある。
- ・無回答には、無効回答（選んだ選択肢の判別が困難なもの、択一回答の設問で複数の選択肢を選んでるものなど）が含まれる。
- ・Nは各設問における回答者数である。
- ・クロス集計のうち全体の1%に満たないサンプル数が少ない項目は、参考値とする。
(年齢別：20歳未満、地域別：安曇地域、奈川地域)

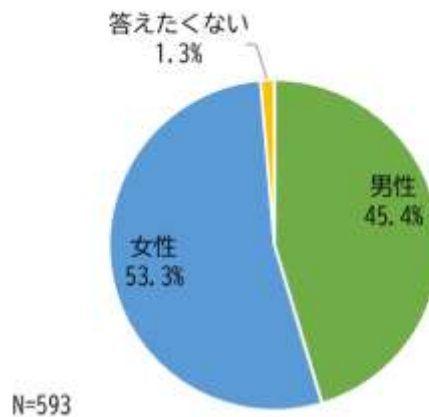
2. 集計結果

【あなた自身について（回答者の属性）】

問1. 性別

あなたの性別をお答えください。[記入は任意です]

回答者の性別は「男性」が45.4%、「女性」は53.3%であった。

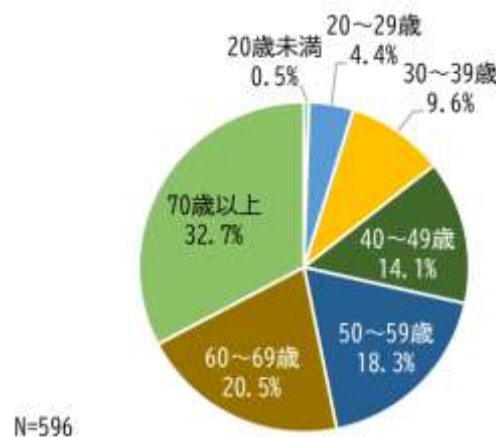


図－回答者の性別

問2. 年齢

あなたの年齢をお答えください。[該当するもの1つに○]

回答者の年齢は、年代が上がるほど回答者が多くなっており、70歳以上が全体の約1/3を占めている。

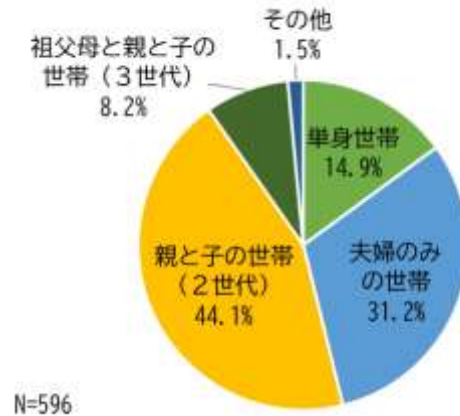


図－回答者の年代

問3. 世帯

あなたの家族構成をお答えください。[該当するもの1つに○]

回答者の世帯は、「親と子の世帯（2世代）」が44.1%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が31.2%、「単身世帯」は14.9%となっている。

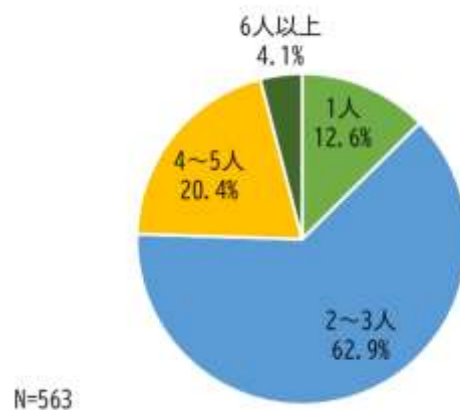


図－回答者の世帯

問4. 同居人数

一緒にお住まいの方は、あなたを含めて何人ですか。[具体的な人数を記入]

回答者の同居人数は、自分を含めた同居人数は、「2～3人」が62.9%と大半を占めており、次いで「4～5人」が20.4%、1人が12.6%となっている。

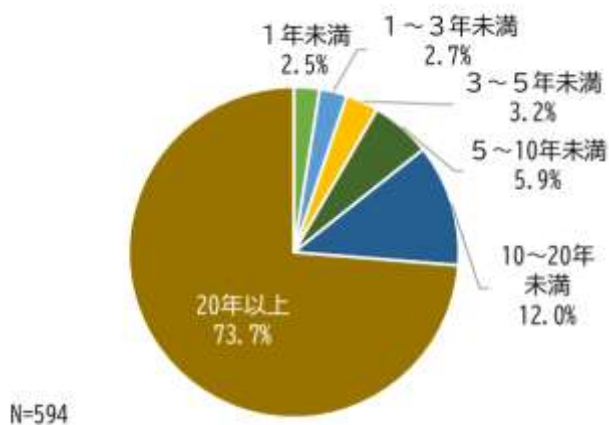


図－同居人数

問5. 松本市での居住年数

あなたは松本市にお住まいになってから何年になりますか。[該当するもの1つに○]

回答者の松本市での居住年数は、「20年以上」が73.7%と大半を占めており、次いで「10～20年未満」が12.0%、5～10年未満が5.9%となっている。



図－松本市での居住年数

問6. 居住地区

あなたのお住まいの地区はどちらですか。[該当するもの1つに○]

回答者の居住地区は、地域別でみると、「中央南部地域」と「南部地域」が約16%と最も多くなっており、「河西北部地域」は11.6%であった。

地区別でみると、「芳川地区」と「鎌田地区」が約8%と最も多く、次いで「里山辺地区」と「島内地区」が約7%となっている。



図-回答者の居住地域

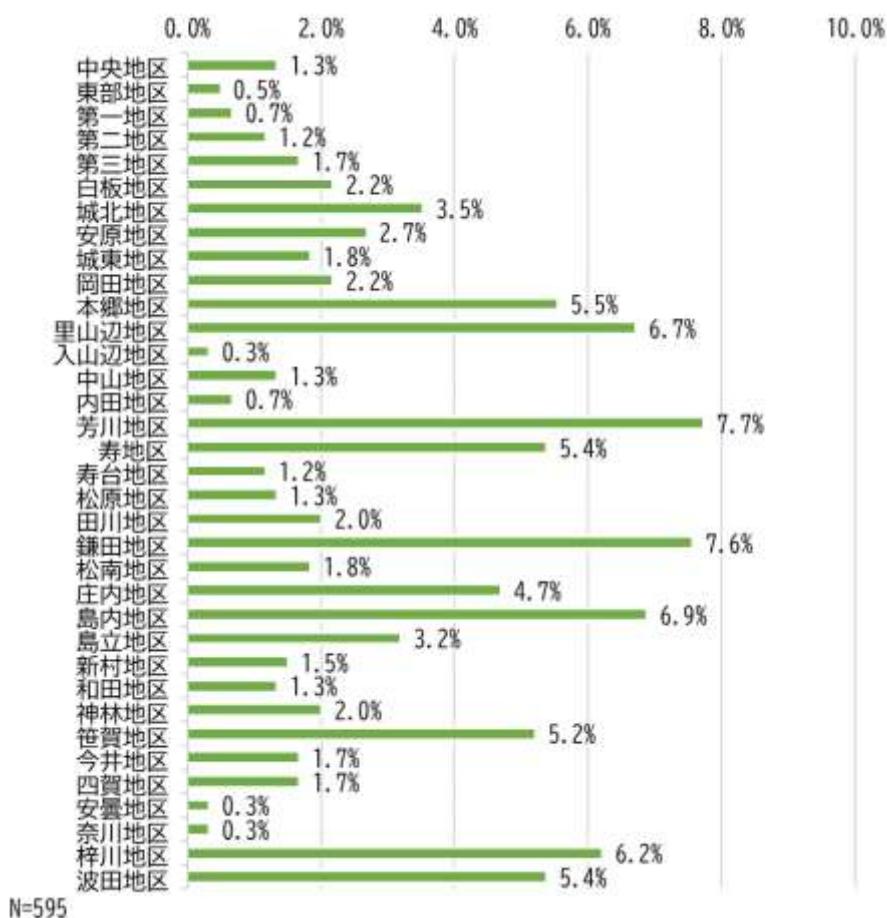


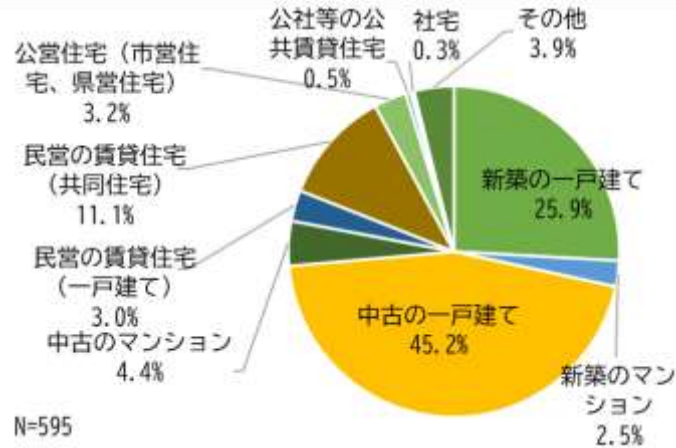
図-回答者の居住地区

【住宅と周辺環境について】

問7. 住宅の種類

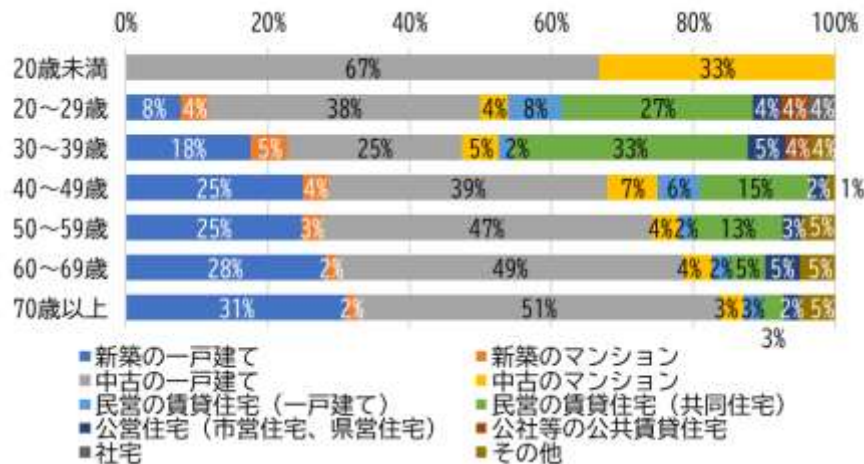
あなたがお住まいの住宅の種類についてお答えください。[該当するもの1つに○]

住宅の種類は、「中古の一戸建て」が45.2%と最も多く、次いで「新築の一戸建て」が25.9%となっており、一戸建て住宅が大半を占めている。



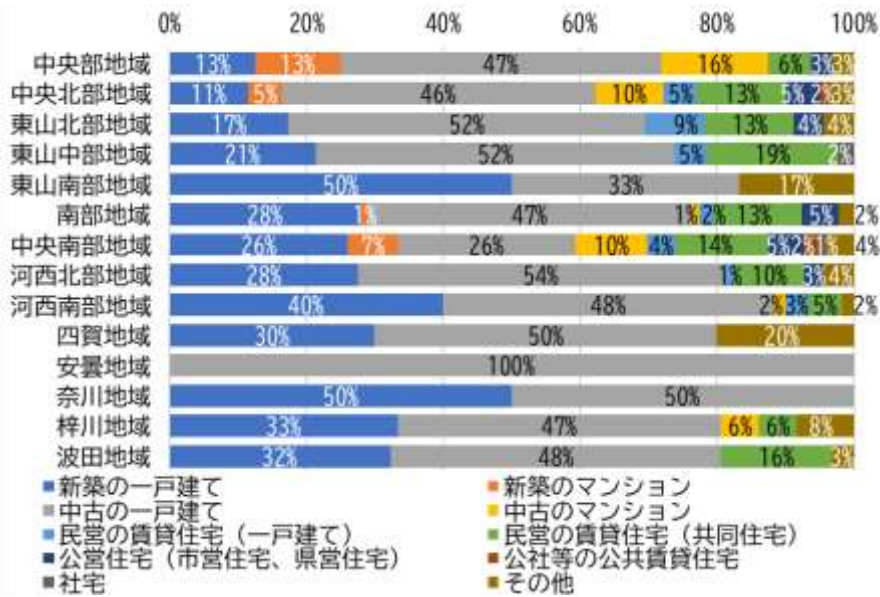
図一 住宅の種類

年代別でみると、「中古の一戸建て」は30代以外の全ての年代で最も多くなっており、30代は「民間の賃貸住宅 (共同住宅)」が最も多くなっている。また、20代は「民間の賃貸住宅 (共同住宅)」が2番目に多く、40代以上は「新築の一戸建て」が2番目に多い結果となっている。



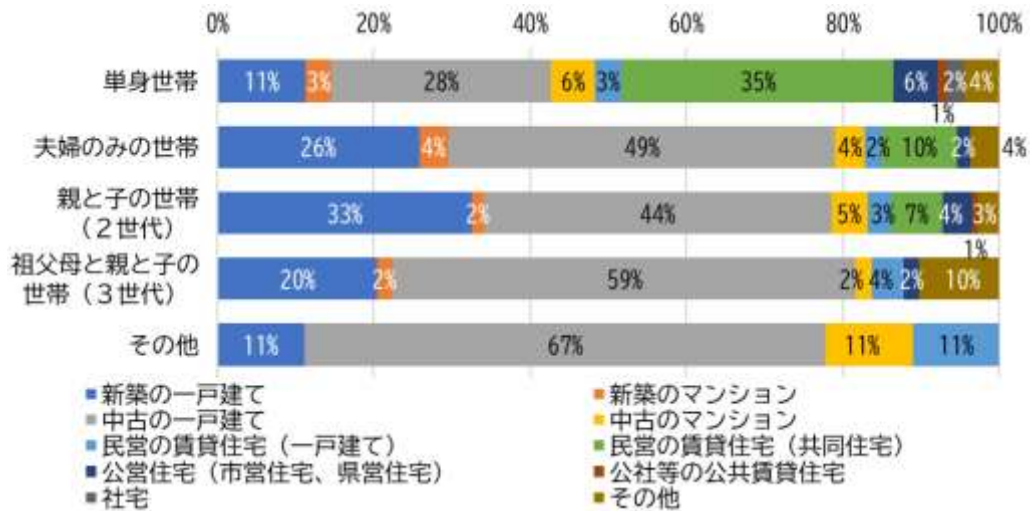
図一 年代別住宅の種類

地域別でみると、中央部地域と中央北部地域、東山北部地域において「新築の一戸建て」の割合が比較的少なくなっており、中央部地域と中央北部地域、中央南部地域においては、「新築・中古のマンション」の割合が比較的多くなっている。



図－地域別住宅の種類

世帯種類別でみると、単身世帯は「民間の賃貸住宅（共同住宅）」が最も多いが、単身世帯以外は「中古の一戸建て」が最も多くなっている。



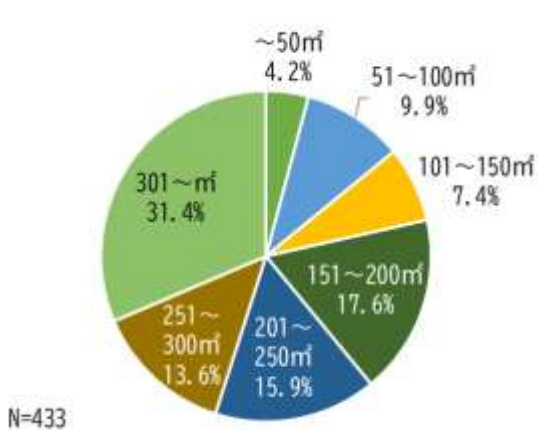
図－世帯種類別住宅の種類

問8. 住宅の敷地面積と建物の延べ床面積

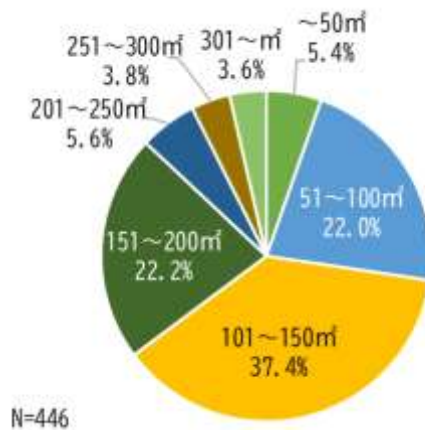
あなたがお住まいの住宅の敷地面積と建物の延べ床面積をお答えください。
[おおむねの数値を記入]

住宅の敷地面積は「301～㎡」が31.4%と最も多くなっており、次いで「151～200㎡」が17.6%、「201～250㎡」は15.9%であった。

また、住宅の延べ床面積は「101～150㎡」が37.4%と最も多くなっており、次いで「151～200㎡」が22.2%、「51～100㎡」は22.0%であった。



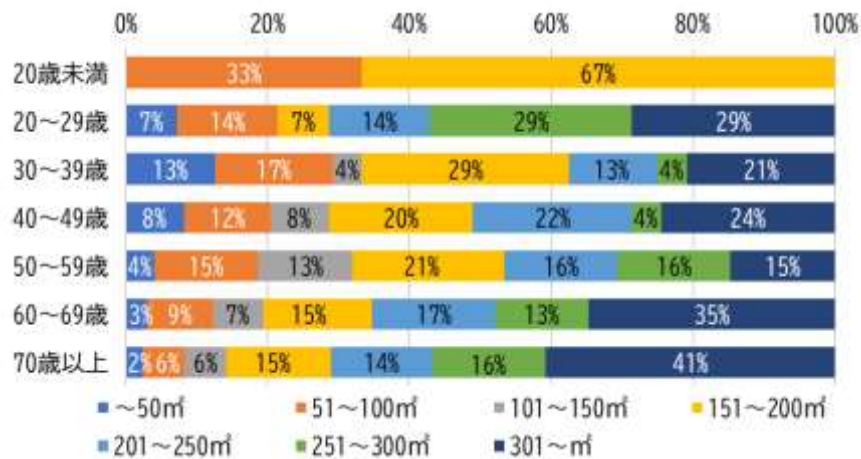
図一住宅の敷地面積



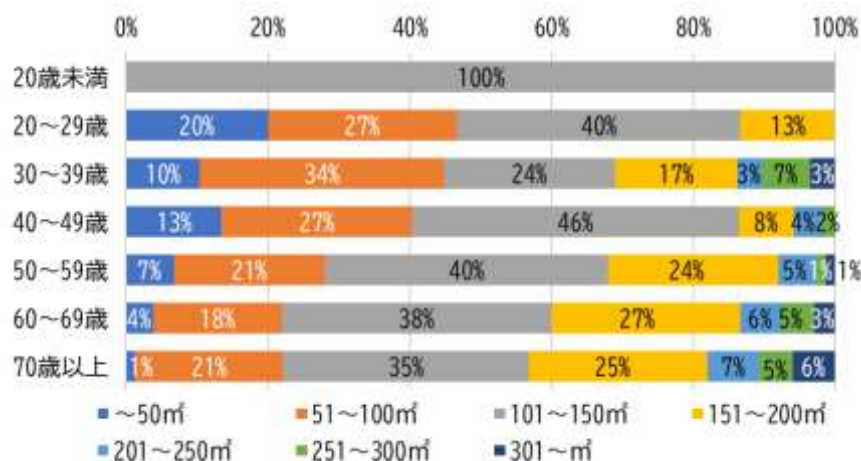
図一住宅の延べ床面積

住宅の敷地面積を年代別で見ると、20歳未満は「151～200㎡」が最も多くなっているが、60代以上は「301～㎡」が最も多くなっている。

住宅の延べ床面積を年代別で見ると、30代は「51～100㎡」が最も多く、30代以外は「101～150㎡」が最も多くなっている。



図一年代別住宅の敷地面積



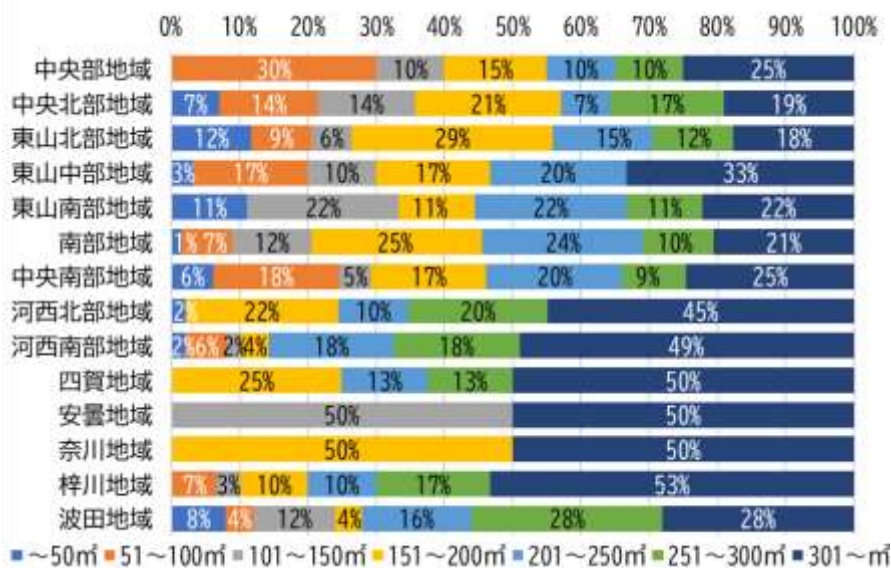
図一年代別住宅の延べ床面積

住宅の敷地面積を地域別で見ると、中央部地域は「51～100㎡」が最も多くなっているが、中央北部地域と東山北部地域、南部地域は「151～200㎡」が最も多く、その他の地域は「301～㎡」が最も多くなっている。

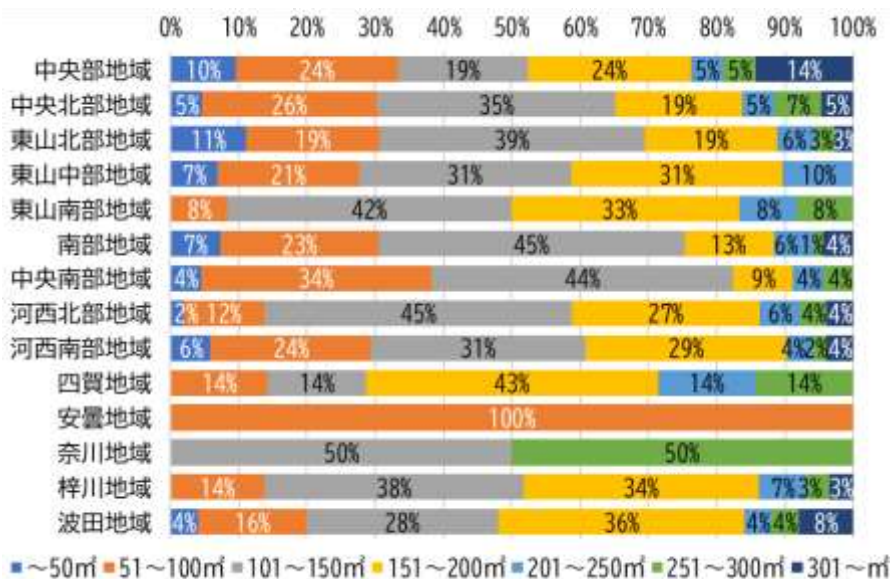
※安曇地域は「101～150㎡」、奈川地域は「151～200㎡」も同率1位

住宅の延べ床面積を地域別で見ると、中央部地域が「51～100㎡」と「151～200㎡」が最も多くなっているが、四賀地域は「151～200㎡」、安曇地域は「51～100㎡」、奈川地域は「101～150㎡」と「251～300㎡」、波田地域は「151～200㎡」、その他の地域は「101～150㎡」が最も多くなっている。

※奈川地域は「251～300㎡」も同率1位



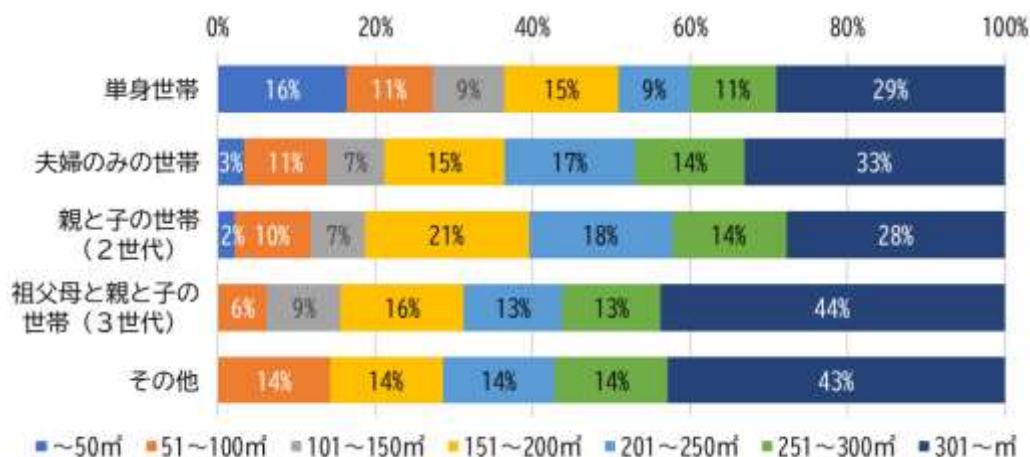
図－地域別住宅の敷地面積



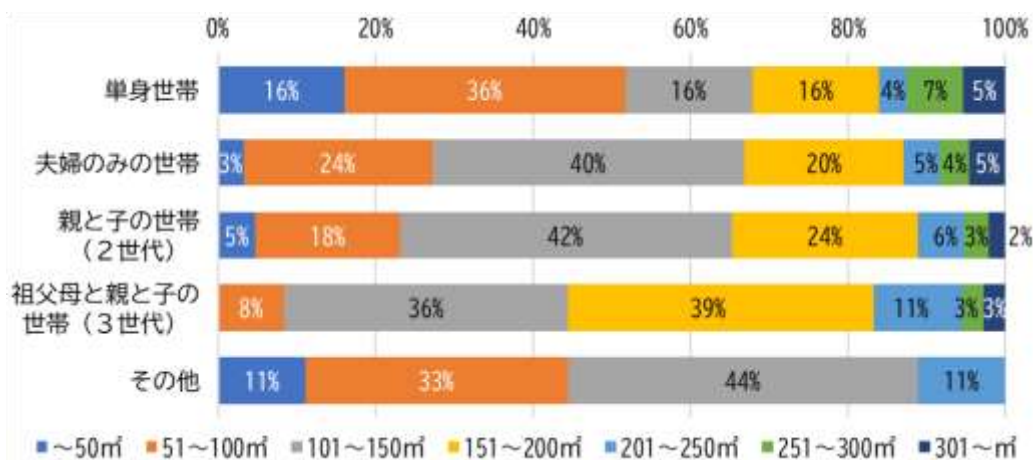
図－地域別住宅の延べ床面積

住宅の敷地面積を世帯種類別で見ると、単身世帯は「～51㎡」の割合が比較的多くなっている。また、いずれの世帯も「301～㎡」が最も多くなっている。

住宅の延べ床面積を世帯種類別で見ると、「51～100㎡」は、同一世帯の同居人数が増えるほど割合が減少しているが、「151～200㎡」は同一世帯の同居人数が増えるほど割合が増加する傾向となっている。



図－世帯種類別住宅の敷地面積

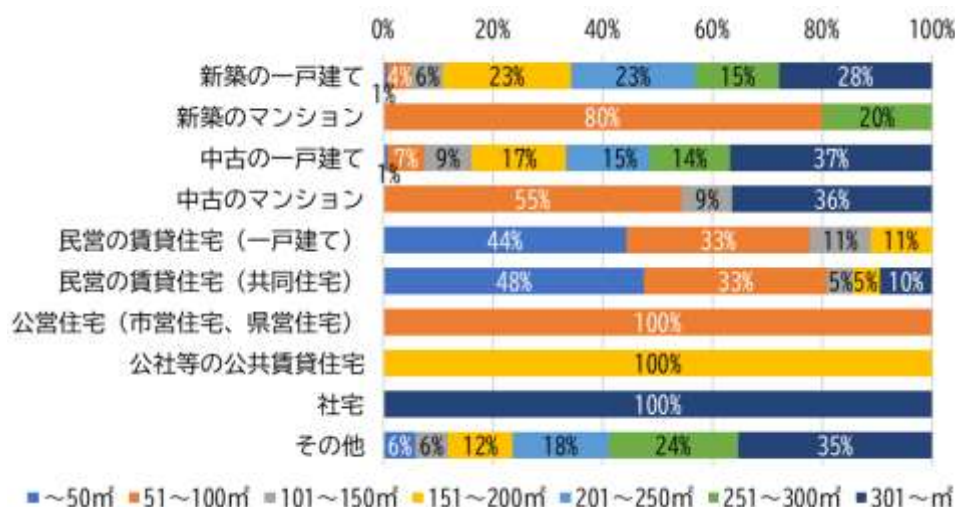


図－世帯種類別住宅の延べ床面積

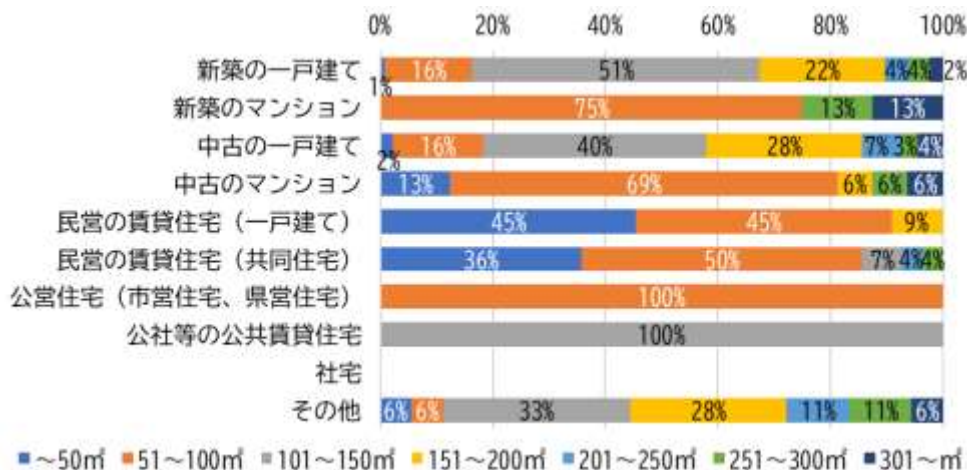
住宅の敷地面積を住宅種類別で見ると、新築のマンションと中古のマンション、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は「51～100㎡」が最も多くなっているが、民営の賃貸住宅（一戸建て）と民営の賃貸住宅（共同住宅）は「～50㎡」、公社等の公共賃貸住宅は「151～200㎡」、その他の住宅種類は「301～㎡」が最も多くなっている。

住宅の延べ床面積を世帯種類別で見ると、新築の一戸建てと中古の一戸建て、公社等の公共賃貸住宅、その他は「101～150㎡」が最も多くなっているが、それら以外は「51～100㎡」が最も多くなっている。

※民営の賃貸住宅（一戸建て）は「～50㎡」も同率1位



図一 住宅種類別住宅の敷地面積

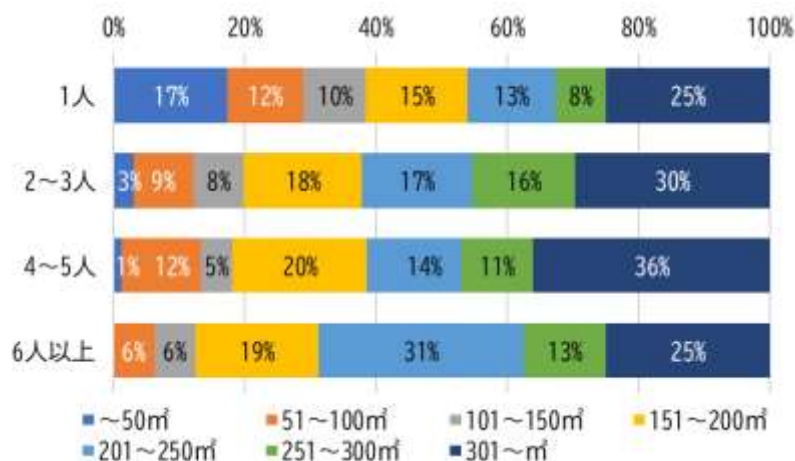


図一 住宅種類別住宅の延べ床面積

住宅の敷地面積を同居人数別で見ると、5人以下の場合は「301～㎡」が最も多くなっているが、6人以上では「201～250㎡」が最も多くなっている。

住宅の延べ床面積を同居人数別で見ると、1人は「51～100㎡」が最も多くなっているが、2人以上の場合は「101～150㎡」が最も多くなっている。

※6人以上は「151～200㎡」も同率1位



図一 同居人数別住宅の敷地面積

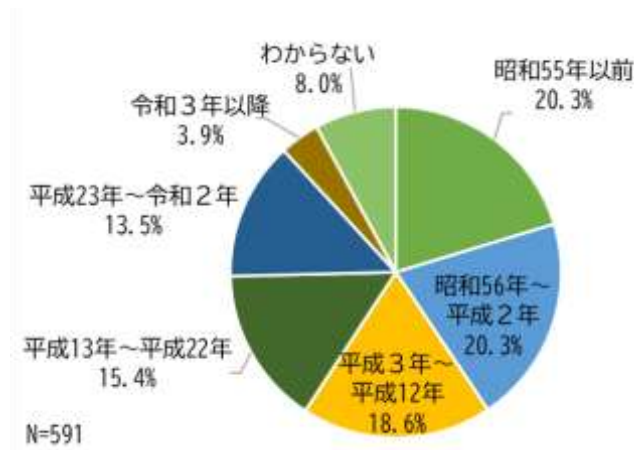


図一 同居人数別住宅の延べ床面積

問9. 住宅の建築時期

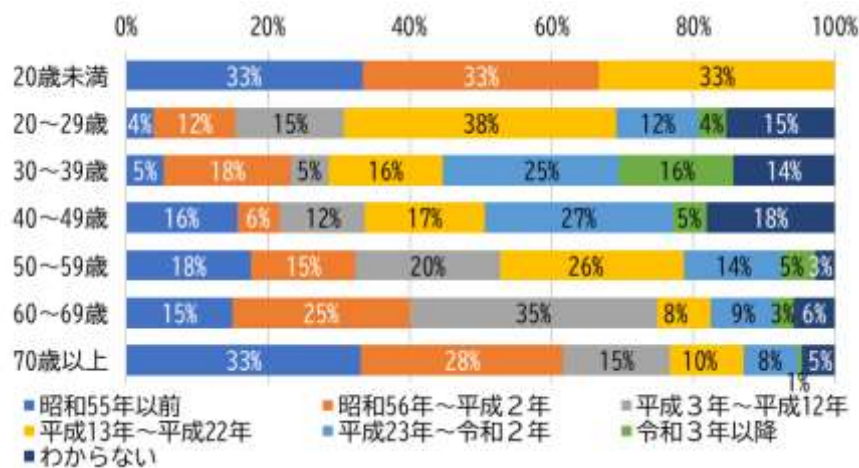
あなたがお住まいの住宅の建築時期（建替えた場合は建替えの時期）をお答えください。[該当するもの1つに○]

住宅の建築時期は「昭和55年以前」と「昭和56年～平成2年」が最も多く20.3%、次いで「平成3年～平成12年」が18.6%と、古い年代ほど多くなっている。



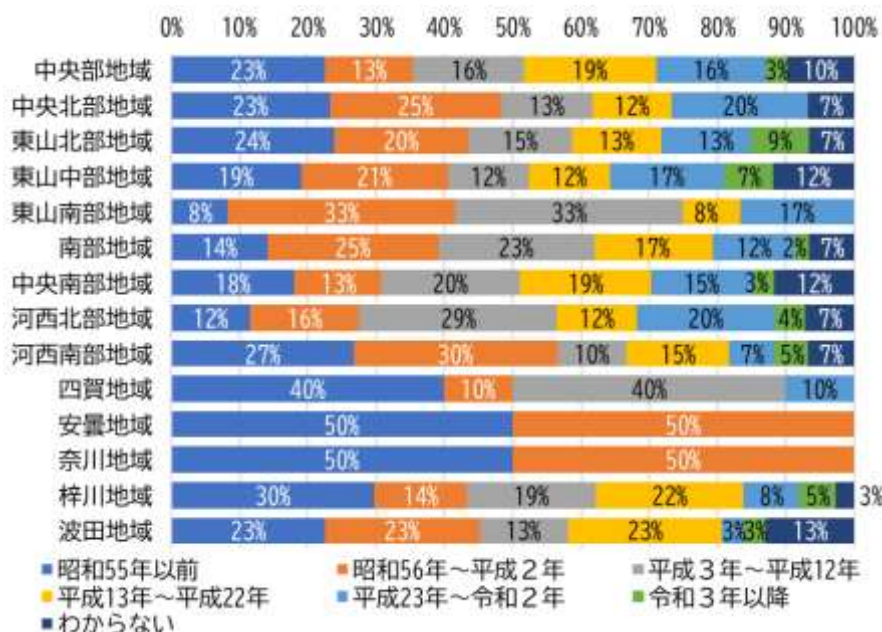
図－住宅の建築時期

年代別で見ると、70歳以上は「昭和55年以前」が最も多いが、60代は「平成3年～平成12年」、50代は「平成13年～平成22年」が最も多くなっており、年代に応じて建築時期が変わる傾向がある。



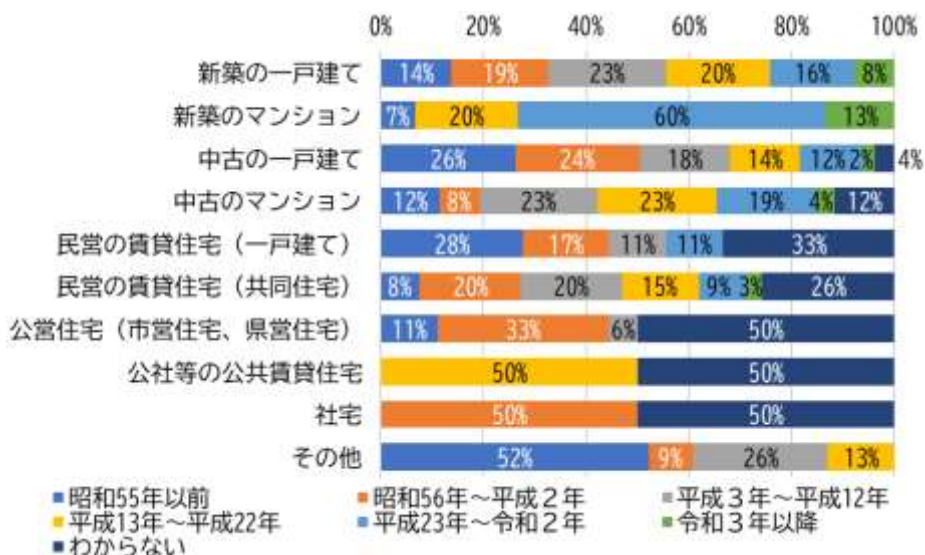
図－年代別住宅の建築時期

地域別でみると、四賀地域、安曇地域、奈川地域、梓川地域は建築時期が古い割合が多くなっている。



図－地域別住宅の建築時期

住宅種類別でみると、新築のマンションは「平成23年～令和2年」が最も多く、過半数を占めている。また、民営の賃貸住宅や公営住宅など、自己所有物件ではないものは建築時期が不明の割合が多い。



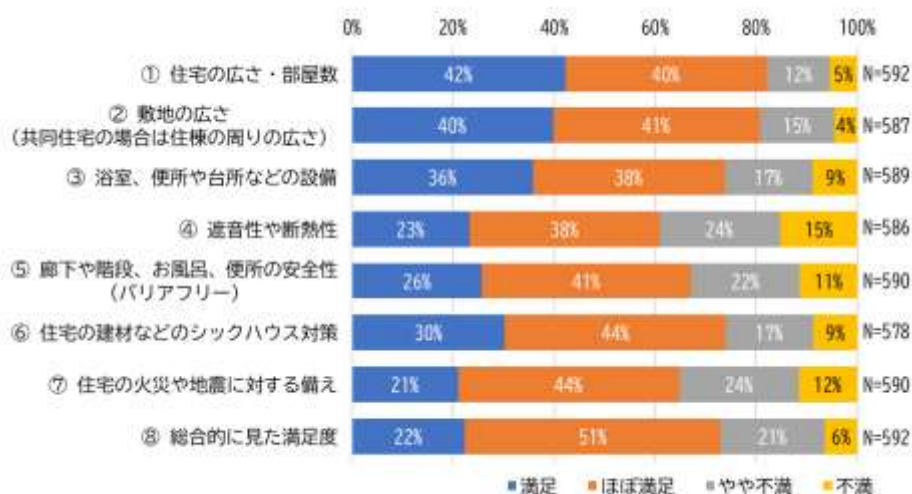
図－住宅種類別住宅の建築時期

問10. 住宅の満足度

あなたがお住まいの住宅に関する満足度について、次の回答方法をお読みになった上で、それぞれお答えください。[該当するもの1つずつに○]

住宅に関する満足度が高い（「満足」と「ほぼ満足」の割合が多い）項目は、「住宅の広さ・部屋数」が最も高く82%、次いで「敷地の広さ（共同住宅の場合は住棟の周りの広さ）」が81%となっている。

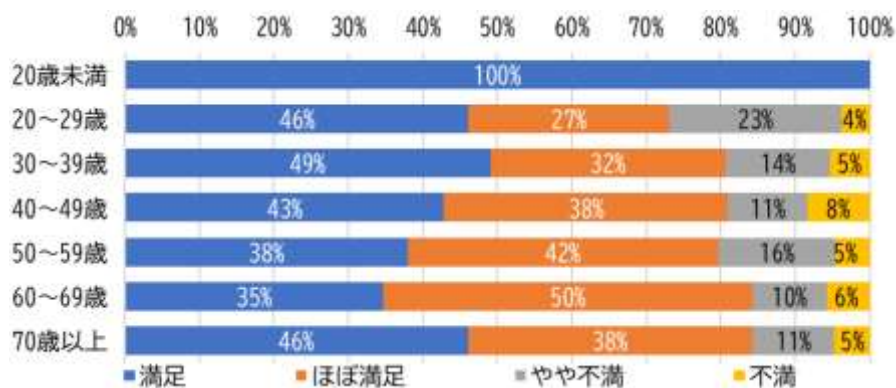
一方、満足度が低い（「やや不満」と「不満」の割合が多い）項目は、「遮音性や断熱性」が最も低く39%、次いで「住宅の火災や地震に対する備え」が36%であった。



図－住宅の満足度

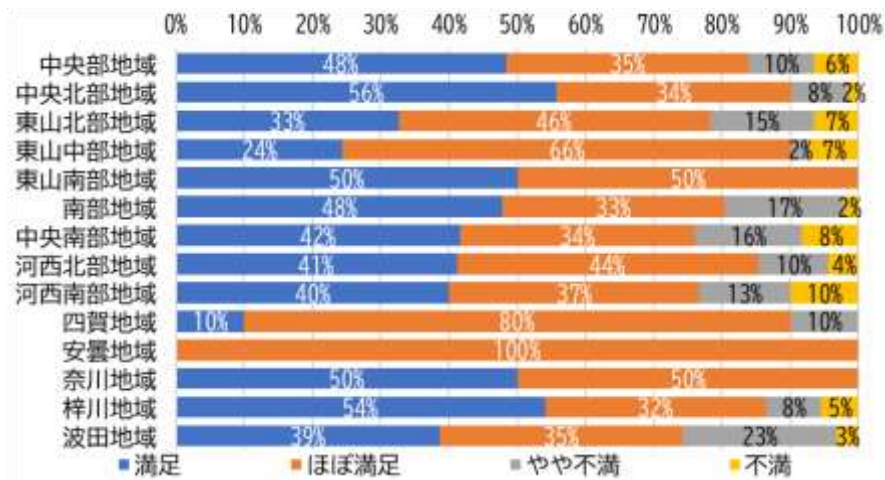
① 住宅の広さ・部屋数

年代別で見ると、20歳未満が100%、次いで60代が85%、70歳以上が84%、他の年代は70%を超えており、全ての年代で満足度が高い結果となった。



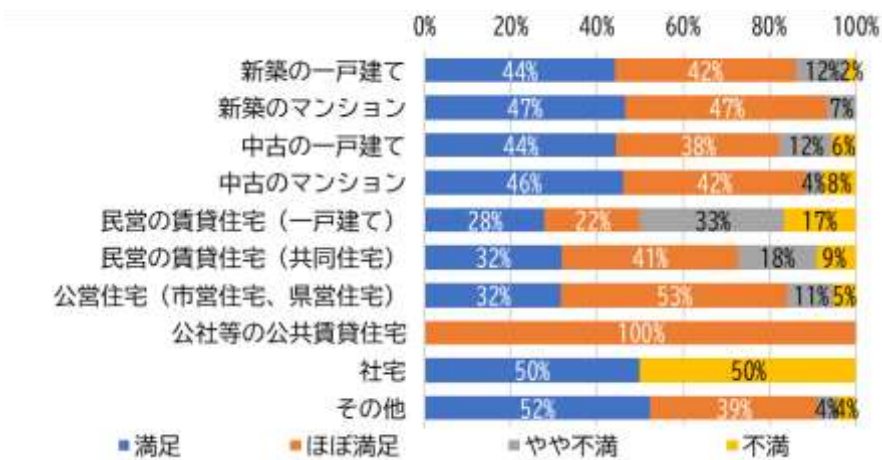
図－年代別住宅の広さ・部屋数の満足度

地域別でみると、満足度は東山南部地域、安曇地域、奈川地域が100%と最も高く、次いで東山中部地域と四賀地域が90%、他の地域は全て70%以上となっている。



図－地域別住宅の広さ・部屋数の満足度

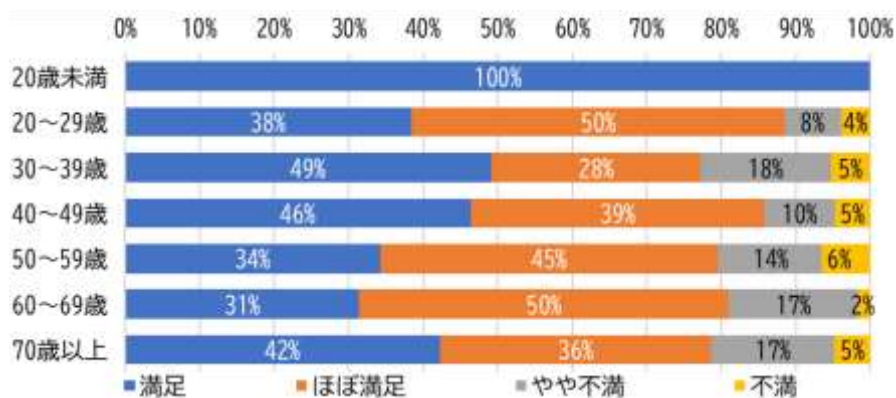
住宅種類別でみると、満足度は民営の賃貸住宅（一戸建て）と社宅が50%となっているが、他の住宅種類は70%以上となっている。



図－住宅種類別住宅の広さ・部屋数の満足度

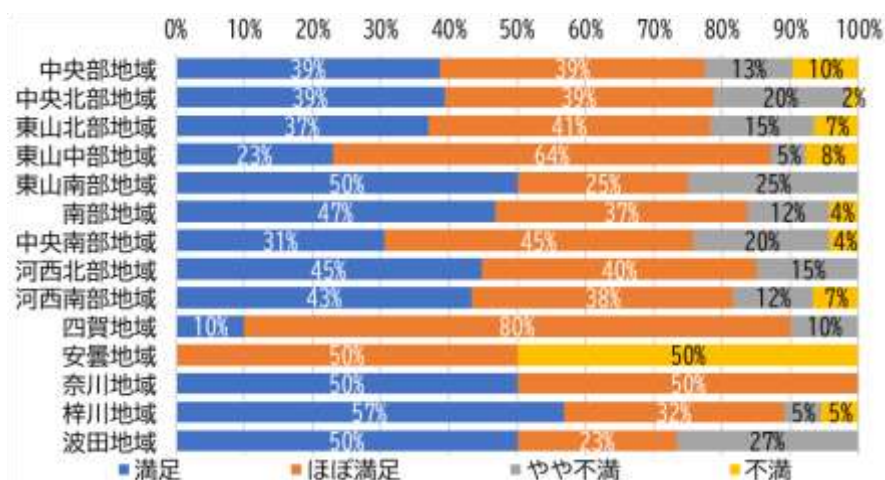
② 敷地の広さ（共同住宅の場合は住棟の周りの広さ）

年代別で見ると、全ての年代で満足度が高くなっており70%以上となっている。



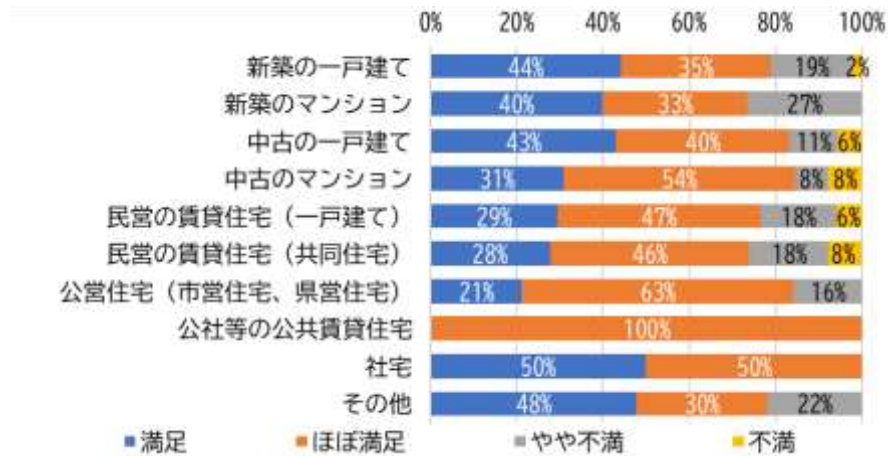
図－年代別敷地の広さ（共同住宅の場合は住棟の周りの広さ）の満足度

地域別で見ると、安曇地域のみ「ほぼ満足」と「不満」が50%となっているが、他の地域は70%以上となっている。



図－地域別敷地の広さ（共同住宅の場合は住棟の周りの広さ）の満足度

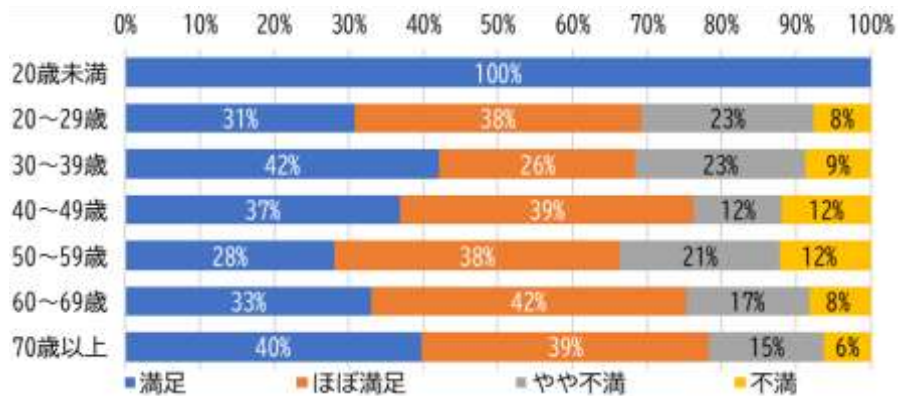
住宅種類別でみると、全ての住宅種類で満足度が高くなっており70%以上となっている。



図－住宅種類別敷地の広さ（共同住宅の場合は住棟の周りの広さ）の満足度

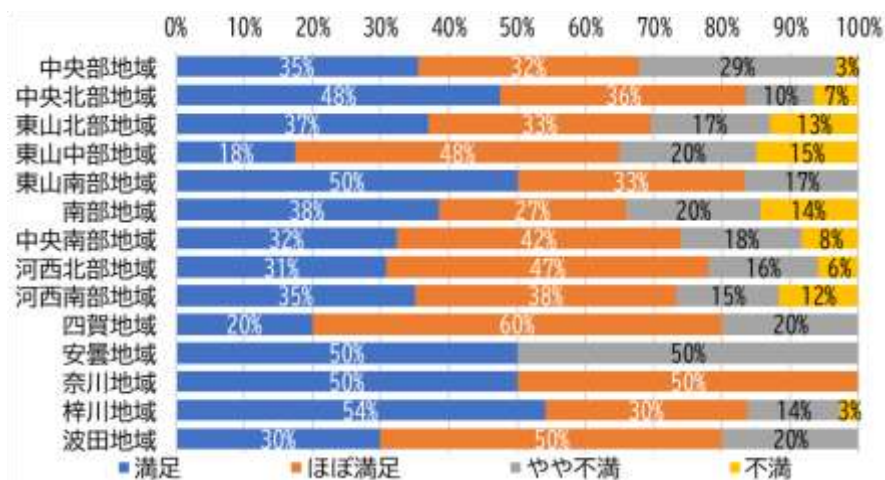
③ 浴室、便所や台所などの設備

年代別でみると、全ての年代で満足している割合が半数を超えており、満足度は60%以上となっている。



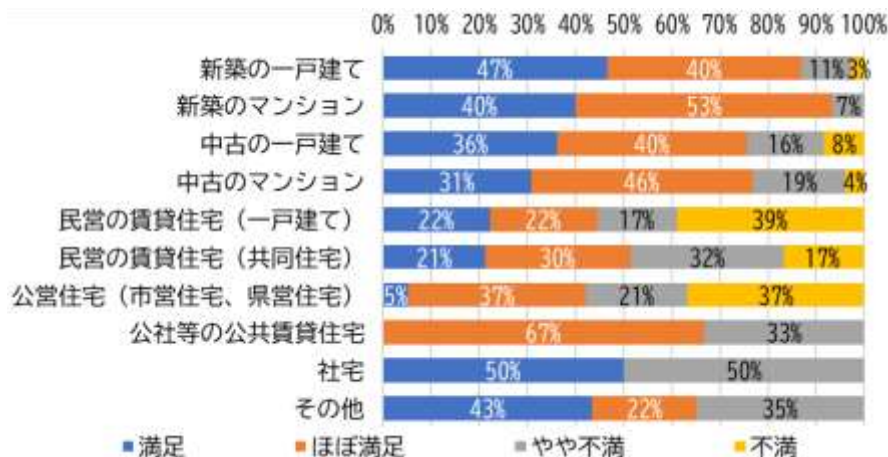
図－年代別浴室、便所や台所などの設備の満足度

地域別でみると、安曇地域のみ「満足」と「やや不満」が50%となっているが、他の地域の満足度は60%以上となっている。



図－地域別浴室、便所や台所などの設備の満足度

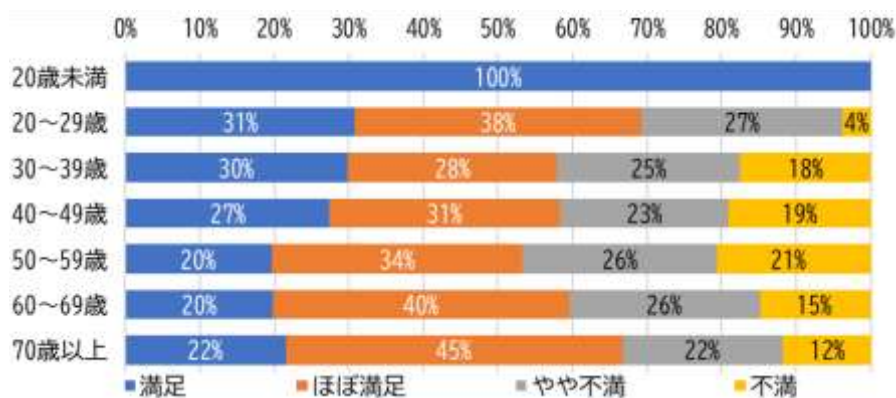
住宅種類別でみると、満足度は民営の賃貸住宅（一戸建て）が44%、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は42%と低くなっているが、新築の一戸建てや新築のマンションは80%以上となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



図－住宅種類別浴室、便所や台所などの設備の満足度

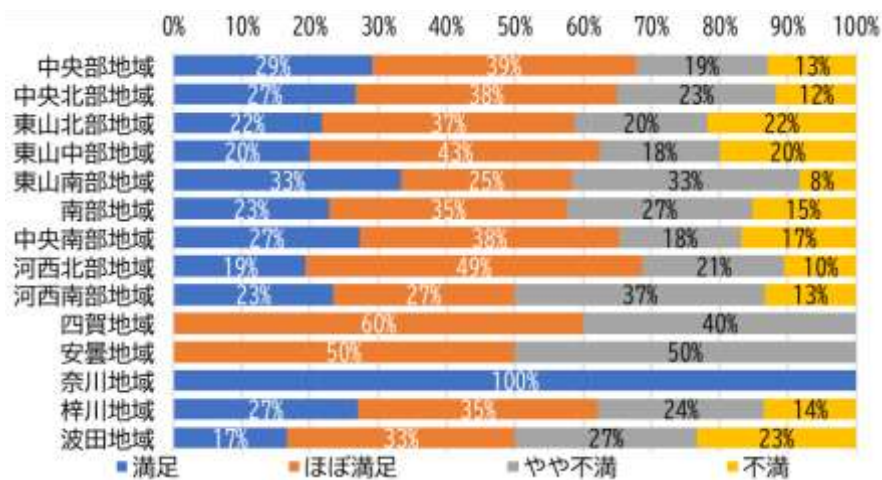
④ 遮音性や断熱性

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が過半数を占める結果となったが、50代は54%と満足度がやや低い。



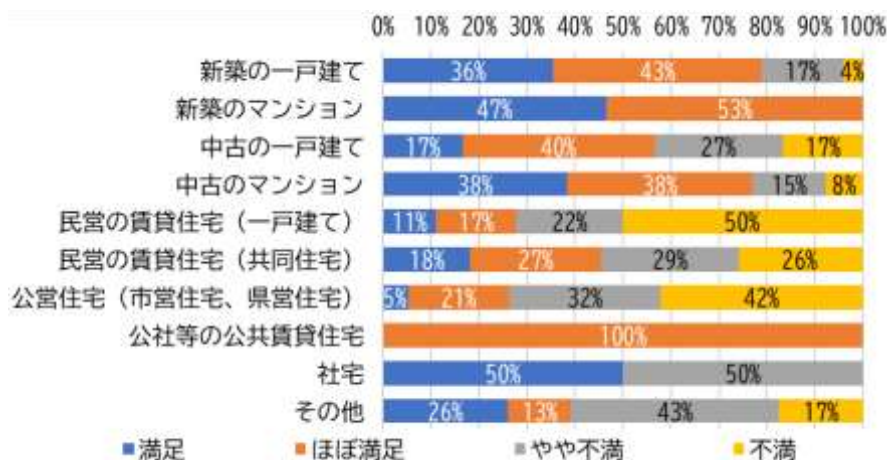
図－年代別遮音性や断熱性の満足度

地域別で見ると、満足度は奈川地域のみ100%と高くなっているが、他の地域は50%～70%となっている。



図－地域別遮音性や断熱性の満足度

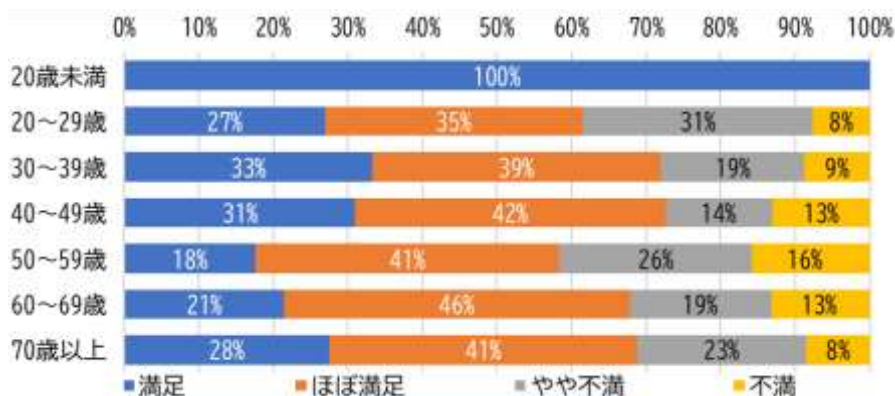
住宅種類別でみると、満足度は民営の賃貸住宅（一戸建て）が28%、民営の賃貸住宅（共同住宅）は45%、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は26%と低くなっているが、新築のマンションや公社等の公共賃貸住宅は100%となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



図一 住宅種類別遮音性や断熱性の満足度

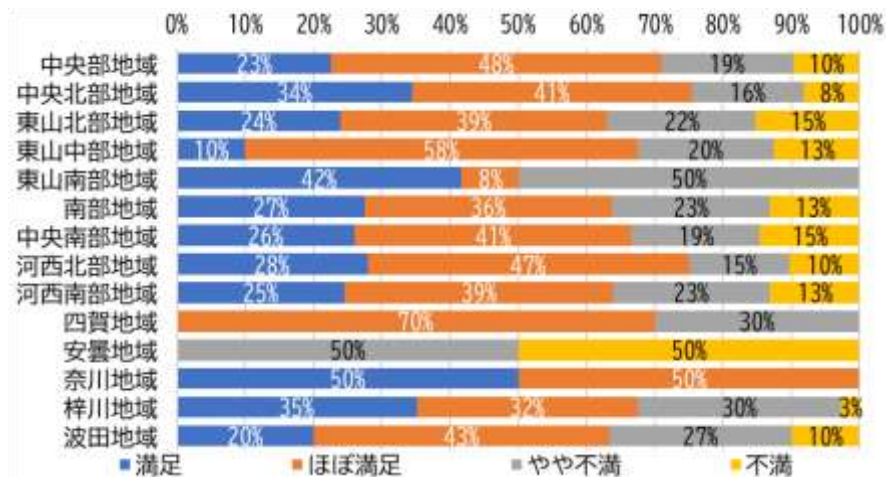
⑤ 廊下や階段、お風呂、便所の安全性（バリアフリー）

年代別でみると、全ての年代において満足している割合が半数以上となったが、20代は62%、50代は59%と他の年代より満足度がやや低くなっている。



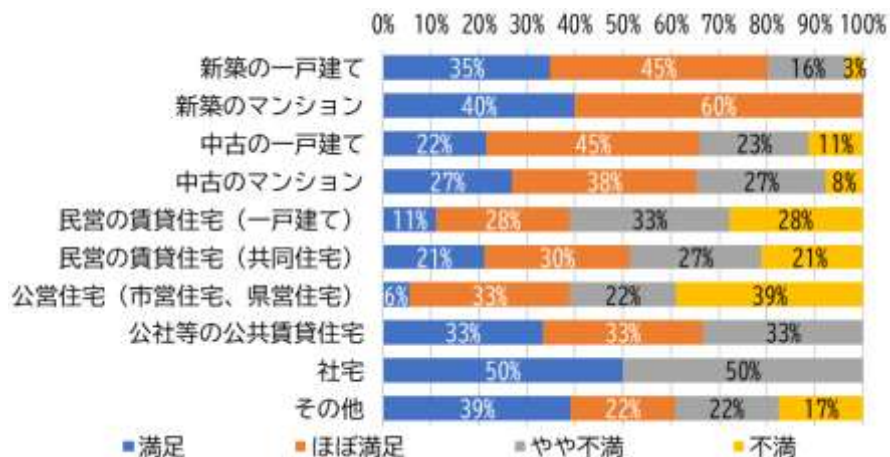
図一 年代別廊下や階段、お風呂、便所の安全性（バリアフリー）の満足度

地域別で見ると、満足度は東山南部地域が50%、安曇地域は0%と低い結果となったが、他の地域は60%以上となっている。



図一地域別廊下や階段、お風呂、便所の安全性（バリアフリー）の満足度

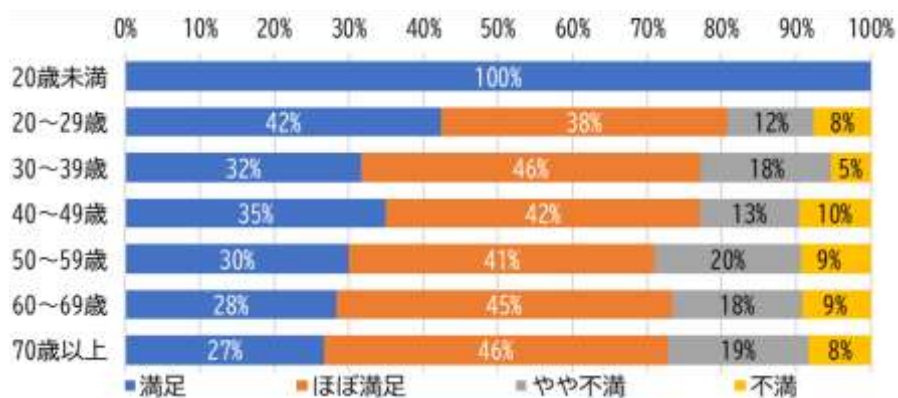
住宅種類別で見ると、民営の賃貸住宅（一戸建て）と公営住宅（市営住宅、県営住宅）が39%と満足度が低くなっているが、新築の一戸建てや新築のマンションは80%以上となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



図一住宅種類別廊下や階段、お風呂、便所の安全性（バリアフリー）の満足度

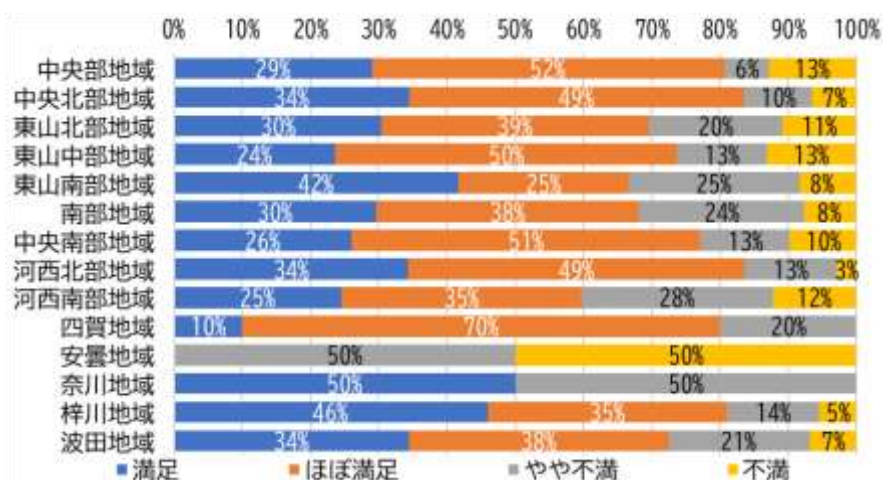
⑥ 住宅の建材などのシックハウス対策

年代別で見ると、全ての年代で満足度が高くなっており70%以上となっている。



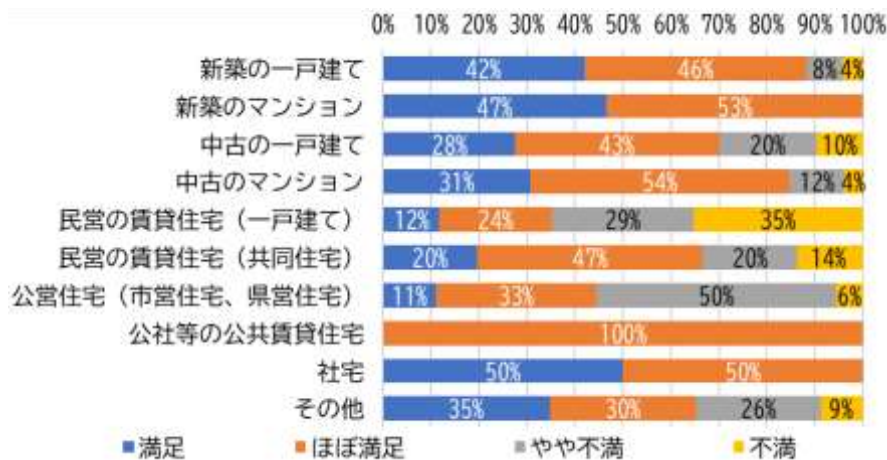
図－年代別住宅の建材などのシックハウス対策の満足度

地域別で見ると、満足度は安曇地域が0%、奈川地域は50%と低い結果となったが、他の地域は60%以上となっている。



図－地域別住宅の建材などのシックハウス対策の満足度

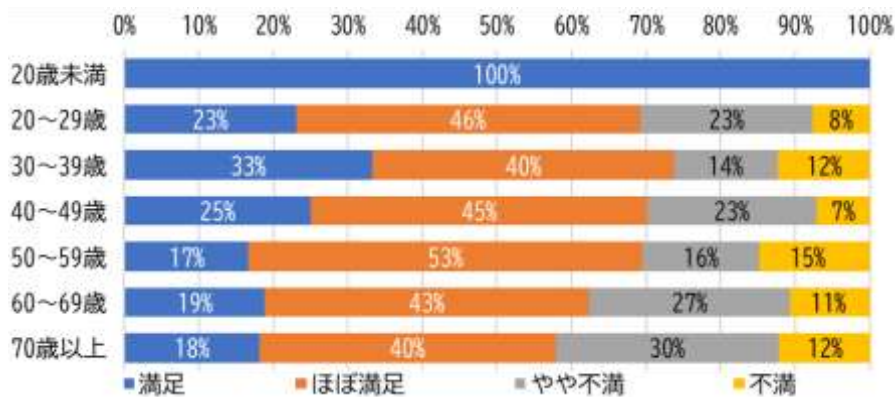
住宅種類別でみると、民営の賃貸住宅（一戸建て）が36%、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は44%と満足度が低くなっているが、新築の一戸建てや新築のマンションは80%以上となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



図一 住宅種類別住宅の建材などのシックハウス対策の満足度

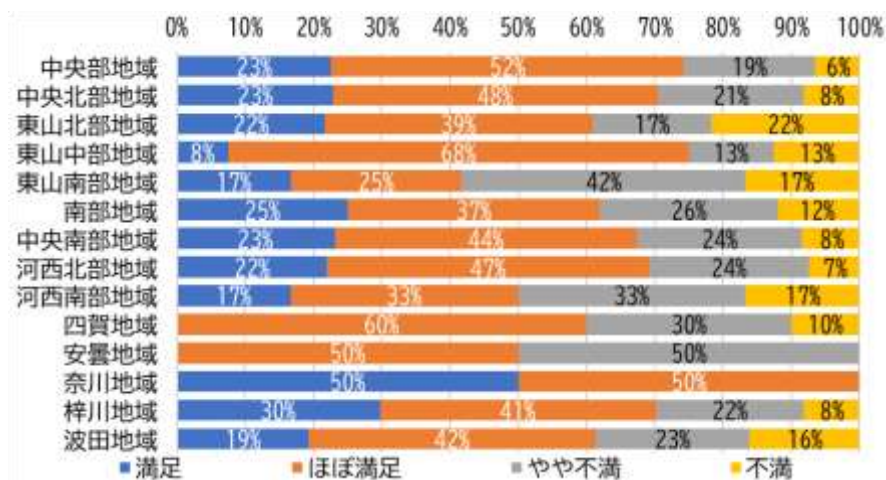
⑦ 住宅の火災や地震に対する備え

年代別でみると、全ての年代で満足している割合が半数を超える結果となったが、年代が上がるにつれて満足度が低くなる傾向がみられた。



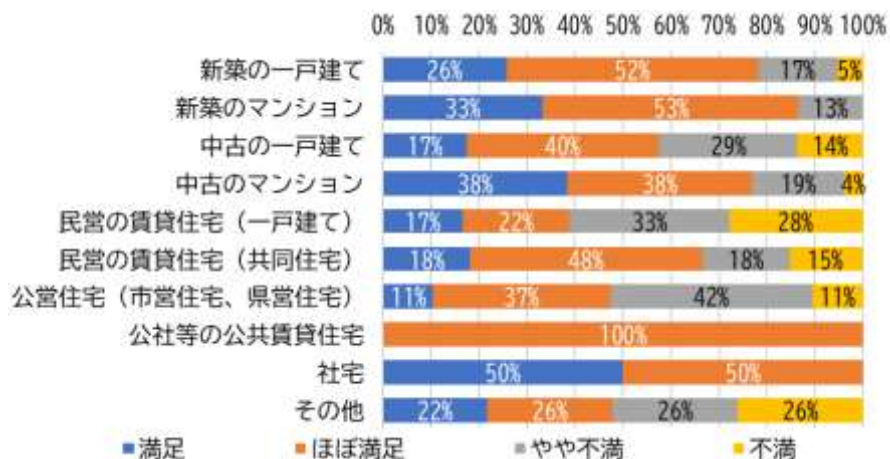
図一 年代別住宅の火災や地震に対する備えの満足度

地域別で見ると、満足度は東山南部地域が42%、安曇地域が50%と低い結果となったが、他の地域は60%以上となっている。



図－地域別住宅の火災や地震に対する備えの満足度

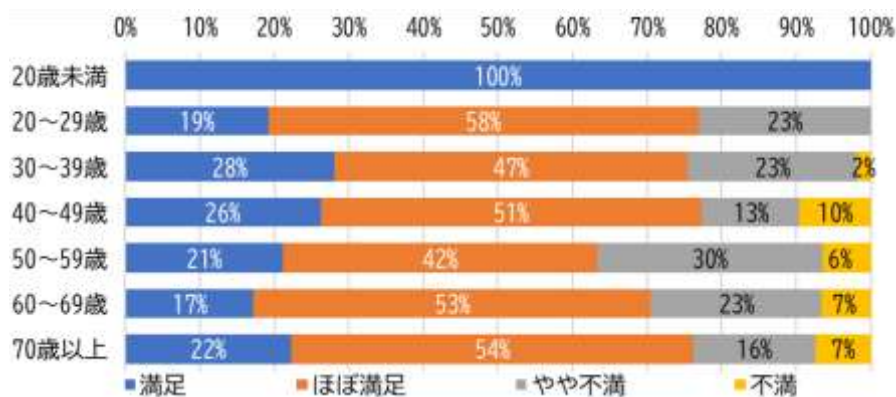
住宅種類別で見ると、民営の賃貸住宅（一戸建て）が39%、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は48%と満足度が低くなっているが、公社等の公共賃貸住宅や社宅は100%となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



図－住宅種類別住宅の火災や地震に対する備えの満足度

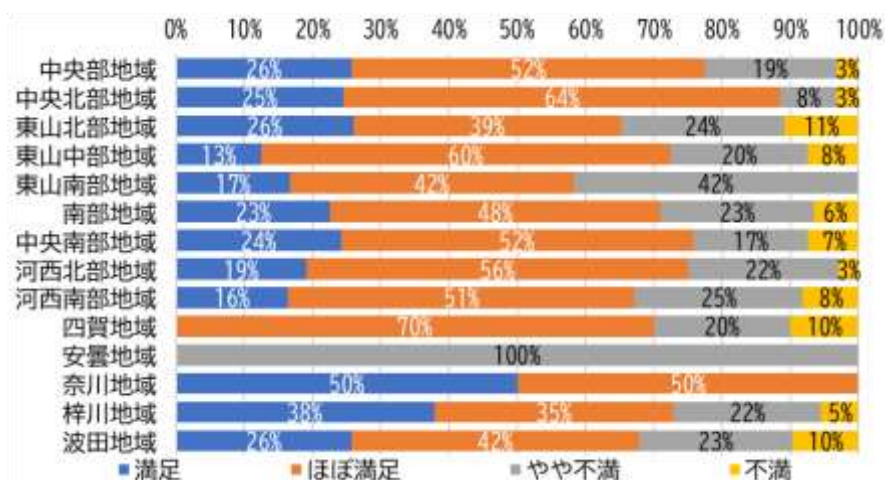
⑧ 総合的に見た満足度

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が半数を超える結果となったが、50代の満足度は比較的低い。



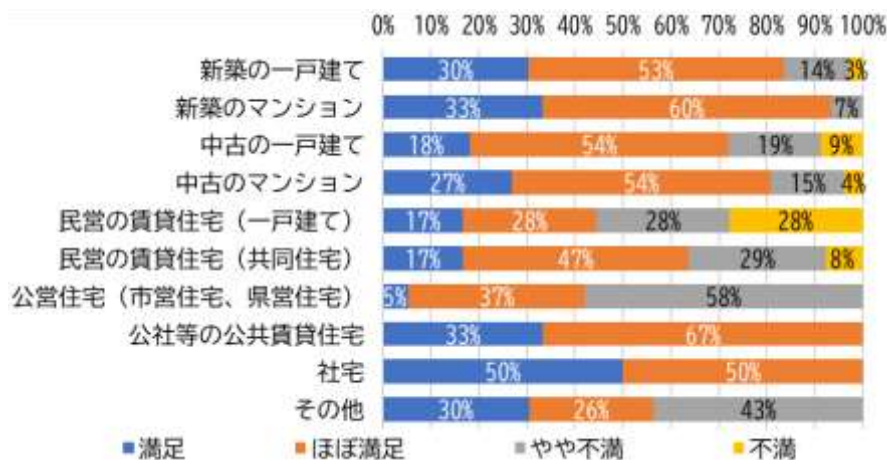
図－年代別総合的に見た満足度の満足度

地域別で見ると、安曇地域のみ「やや不満」が100%となっているが、他の地域は満足度が高い割合が半数以上となっている。



図－地域別総合的に見た満足度の満足度

住宅種類別でみると、民営の賃貸住宅（一戸建て）が45%、公営住宅（市営住宅、県営住宅）は42%と満足度が低くなっているが、公社等の公共賃貸住宅や社宅は100%となっているなど、住宅の種類によって違いがみられる。



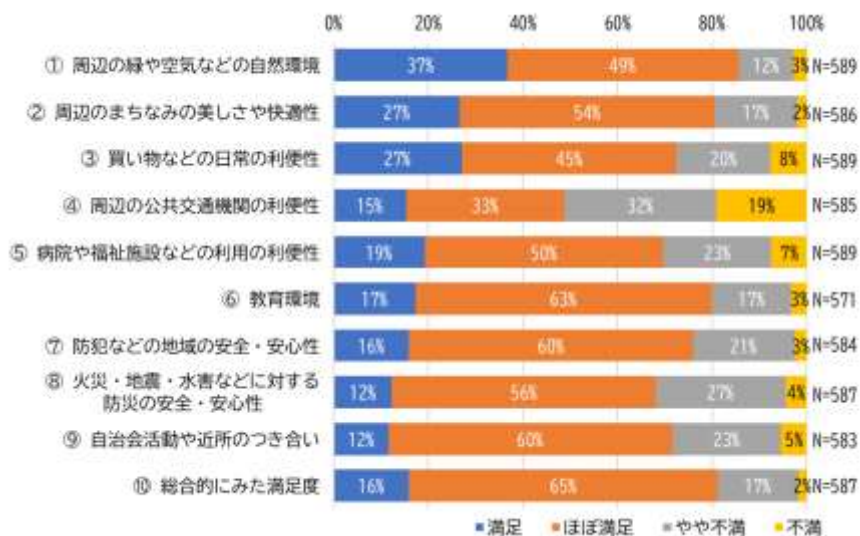
図－住宅種類別総合的に見た満足度の満足度

問11. 居住環境の満足度

あなたのお住まいを取り巻く周辺の居住環境に対する満足度について、次の回答方法をお読みになった上で、それぞれお答えください。[該当するもの1つずつに○]

居住環境について満足度が高い（「満足」と「ほぼ満足」の割合が多い）項目は、「周辺の緑や空気などの自然環境」が最も高く86%、次いで「周辺のまちなみの美しさや快適性」と「総合的に見た満足度」が81%となっている。

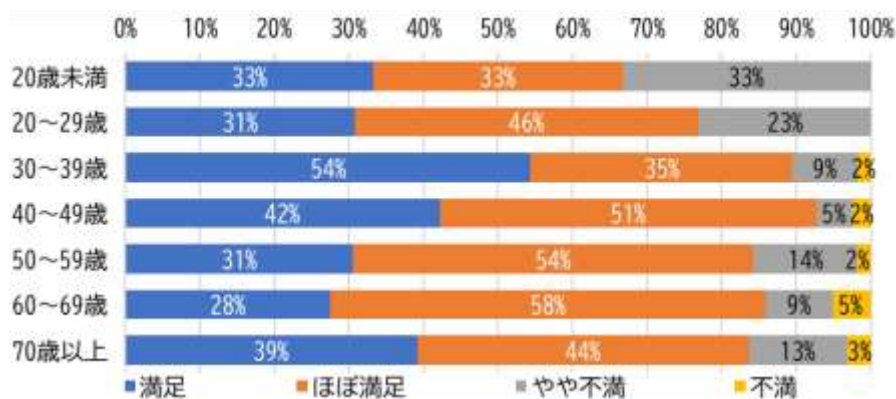
一方、満足度が低い（「やや不満」と「不満」の割合が多い）項目は、「周辺の公共交通機関の利便性」が最も低く51%、次いで「火災・地震・水害などに対する防災の安全・安心性」が31%であった。



図－居住環境の満足度

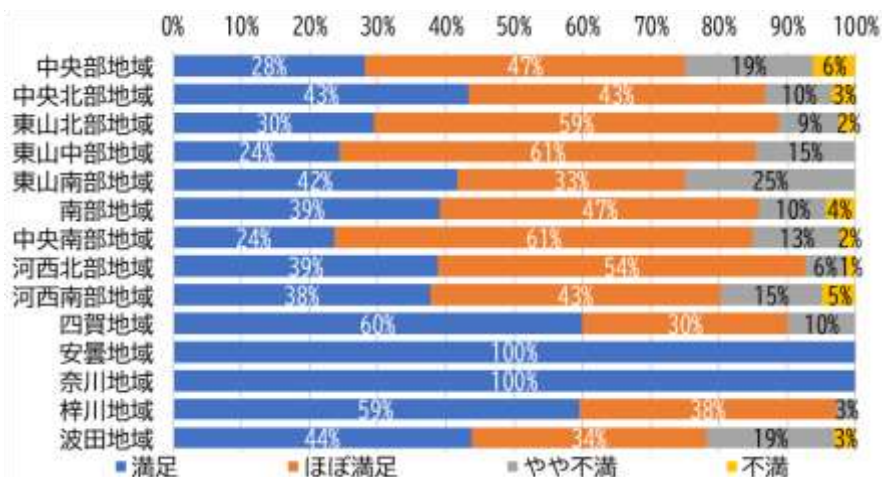
① 周辺の緑や空気などの自然環境

年代別で見ると、満足度が高い年代は40代が最も多く93%、次いで30代は89%、60代は86%、他の年代は60%を超えており、全ての年代で満足度が高い結果となった。



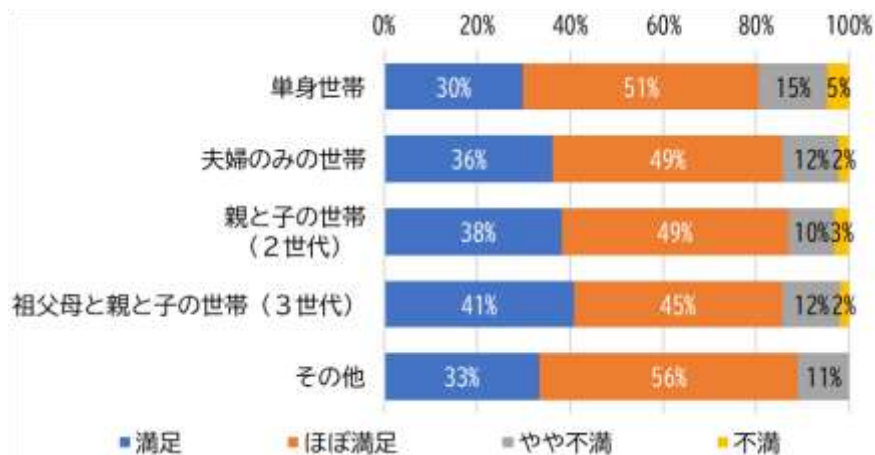
図－年代別周辺の緑や空気などの自然環境の満足度

地域別で見ると、「安曇地域」と「奈川地域」が100%と最も高く、次いで「梓川地域」が97%、他の地域は70%以上となっており、全体的に満足度が高い結果となった。



図－地域別周辺の緑や空気などの自然環境の満足度

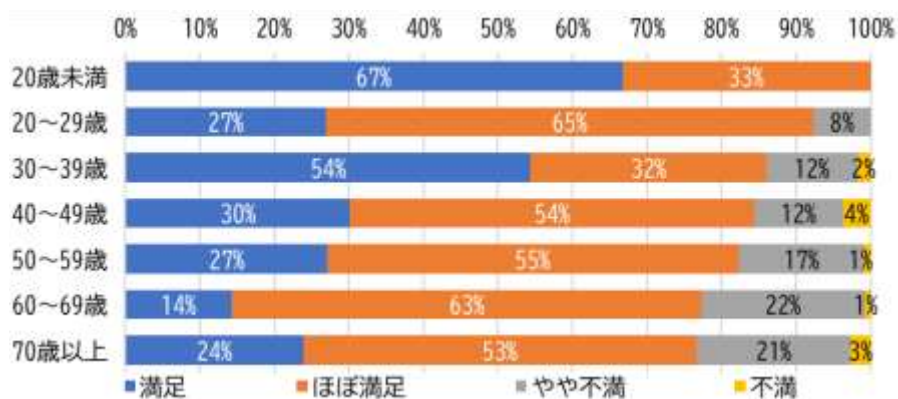
世帯種類別でみると、全ての世帯で80%以上となっており、全体的に満足度が高い結果となった。



図－世帯種類別周辺の緑や空気などの自然環境の満足度

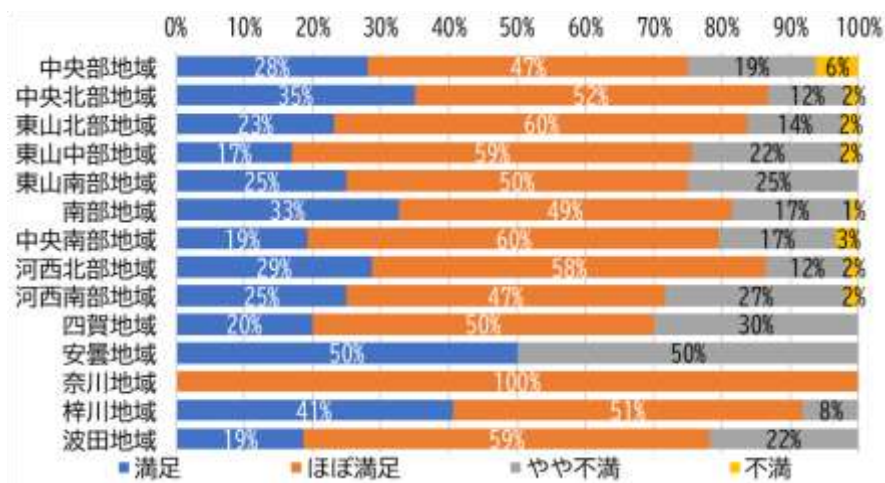
② 周辺のまちなみの美しさや快適性

年代別でみると、全ての年代で満足度が高くなっており70%以上となっている。



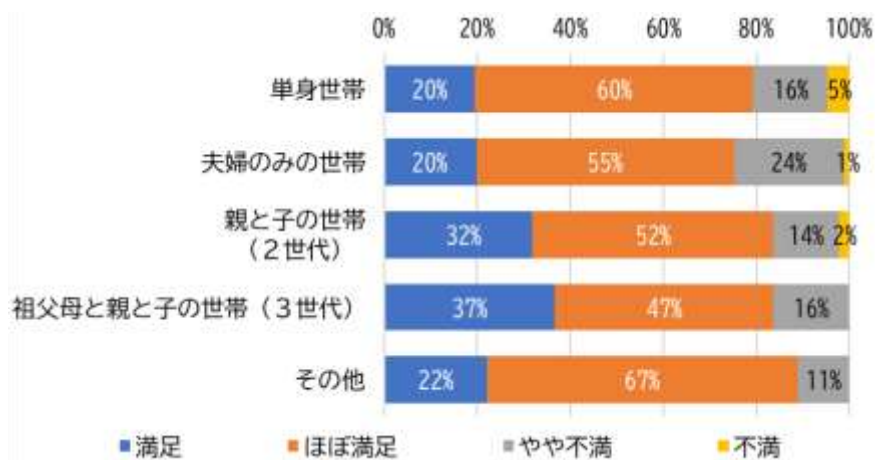
図－年代別周辺のまちなみの美しさや快適性の満足度

地域別でみると、「安曇地域」のみ「満足」と「やや不満」が50%となっているが、他の地域の満足度は70%以上となっている。



図－地域別周辺のまちなみの美しさや快適性の満足度

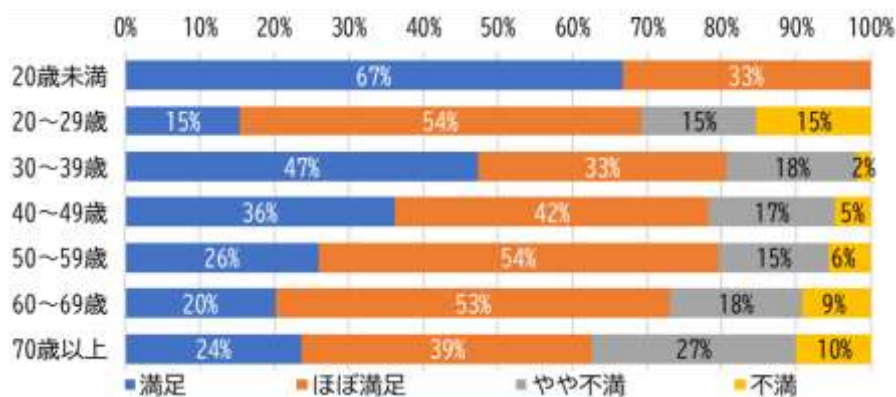
世帯種類別でみると、満足度は全ての世帯で70%以上となっている。



図－世帯種類別周辺のまちなみの美しさや快適性の満足度

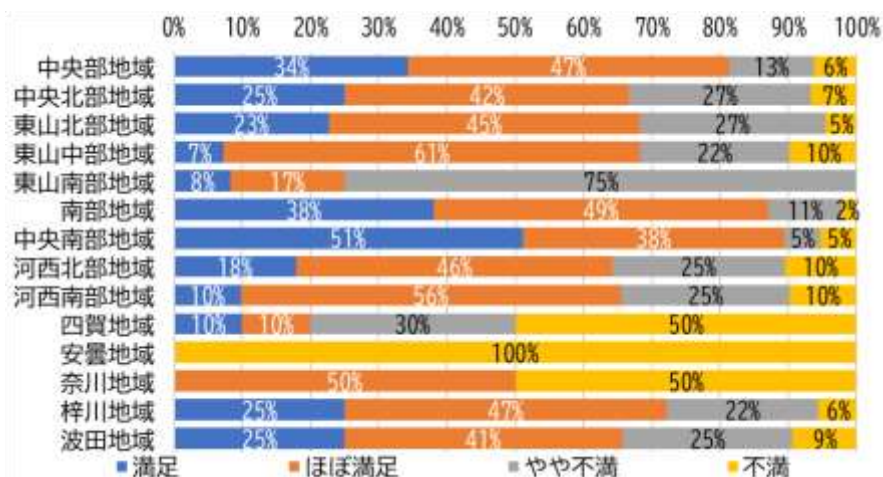
③ 買い物などの日常の利便性

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が半数を超えており、満足度は60%以上となっている。



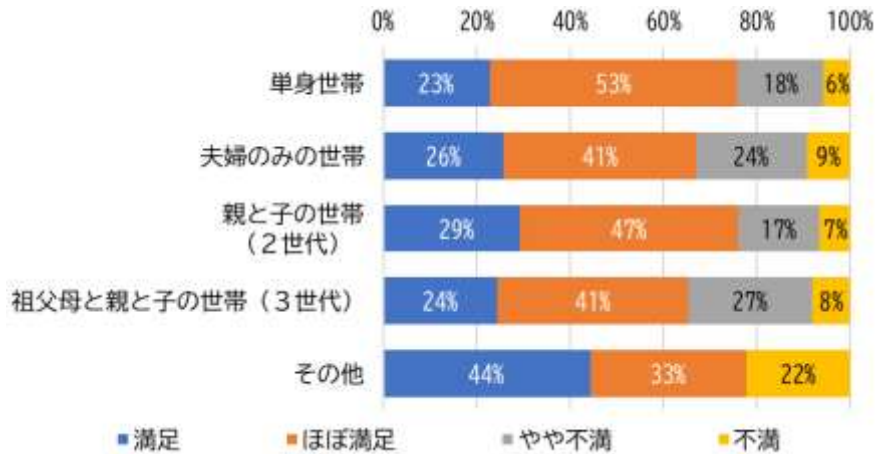
図－年代別買い物などの日常の利便性の満足度

地域別で見ると、「中央南部地域」が90%と最も高く、次いで「南部地域」は87%となっているが、「東山南部地域」は25%、「四賀地域」は20%、「安曇地域」は0%と地域によって大きな違いがみられる。



図－地域別買い物などの日常の利便性の満足度

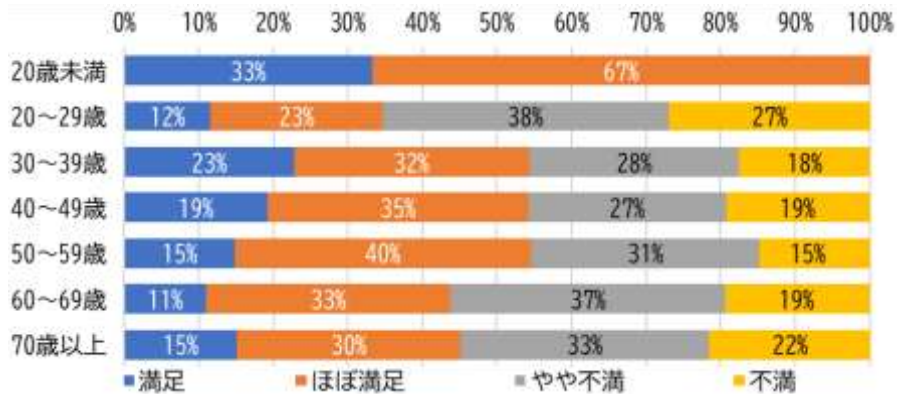
世帯種類別でみると、全ての世帯で60%以上の満足度となっている。



図－世帯種類別買い物などの日常の利便性の満足度

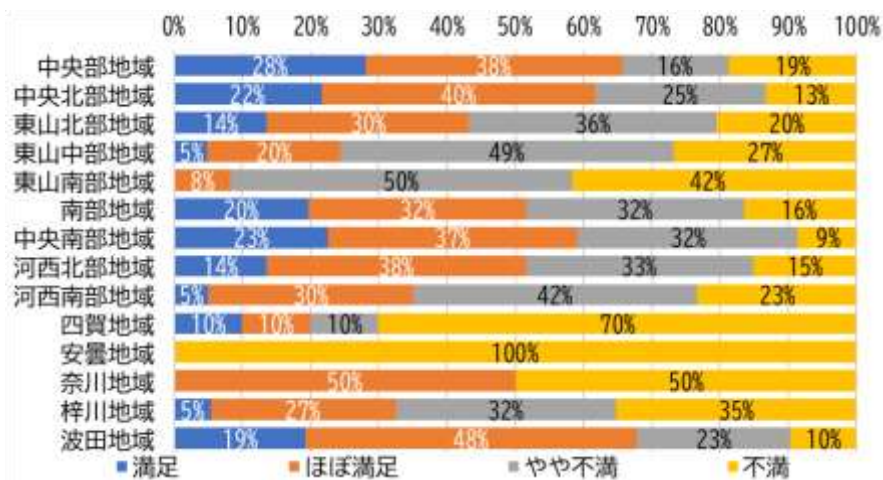
④ 周辺の公共交通機関の利便性

年代別でみると、満足度は20歳未満のみ100%となっているが、20代や60代、70歳以上は50%未満、30代～50代は50%～60%となっており、20歳未満を除く年代の満足度が低い結果となった。



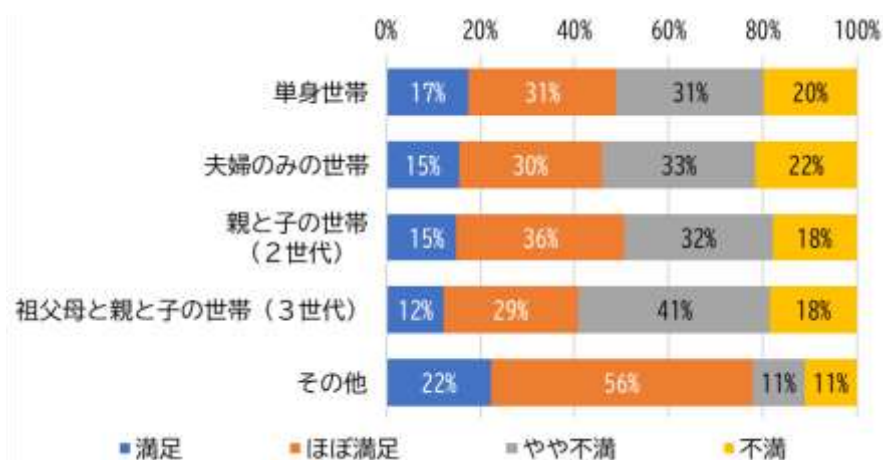
図－年代別周辺の公共交通機関の利便性の満足度

地域別でみると、満足度は「中央部地域」が66%と最も高く、次いで「中央北部地域」は62%となっているが、「東山中部地域」が25%、「東山南部地域」は8%、「四賀地域」は20%、「安曇地域」は0%など、地域によって違いがみられる。



図－地域別周辺の公共交通機関の利便性の満足度

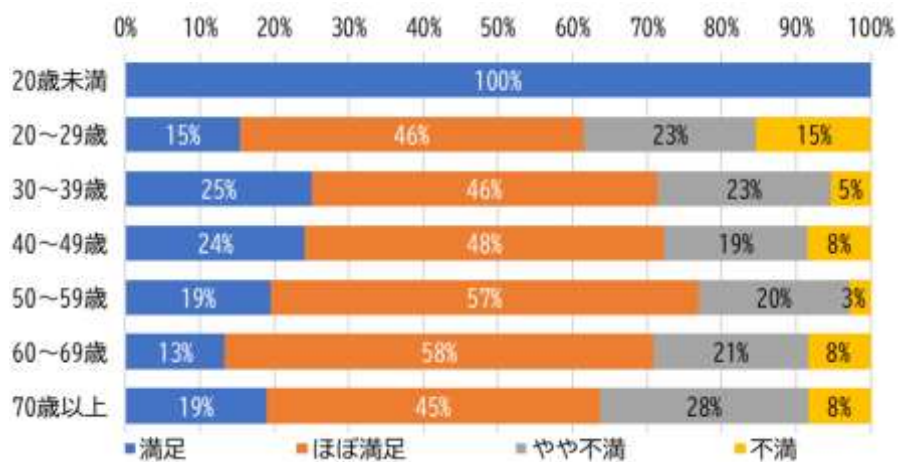
世帯種類別でみると、全体的に満足度が低くなっており、「祖父母と親と子の世帯（3世代）」が最も低く41%であった。



図－世帯種類別周辺の公共交通機関の利便性の満足度

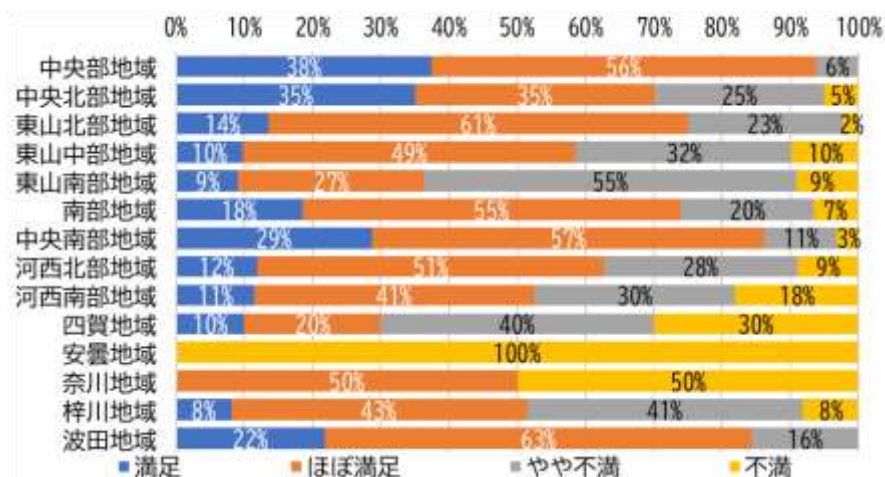
⑤ 病院や福祉施設などの利用の利便性

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が半数を超えており60%以上となっている。



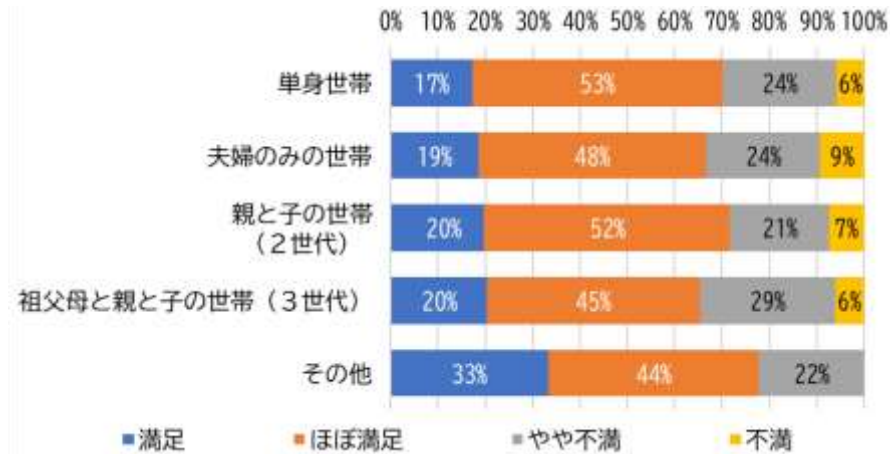
図－年代別病院や福祉施設などの利用の利便性の満足度

地域別で見ると、満足度は「中央部地域」が94%と最も高く、次いで「中央南部地域」は86%となっているが、「東山南部地域」が36%、「四賀地域」は30%、「安曇地域」は0%など、地域によって大きな違いがみられる。



図－地域別病院や福祉施設などの利用の利便性の満足度

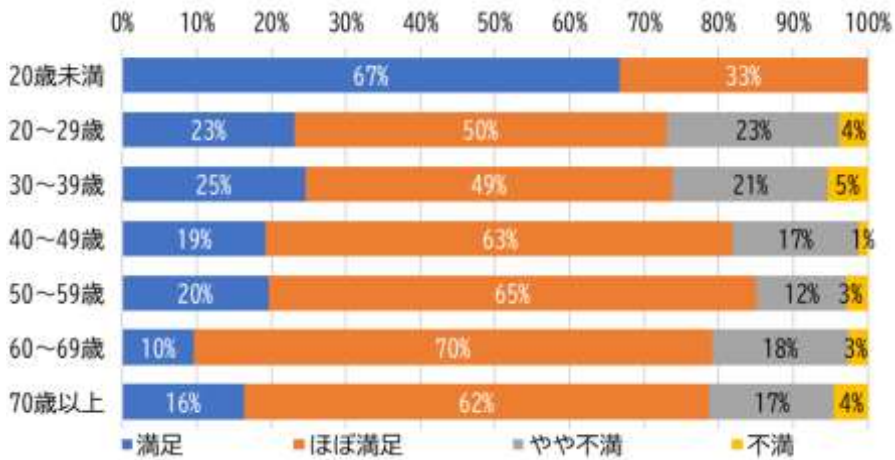
世帯種類別でみると、全ての世帯で60%以上の満足度となっている。



図－世帯種類別病院や福祉施設などの利用の利便性の満足度

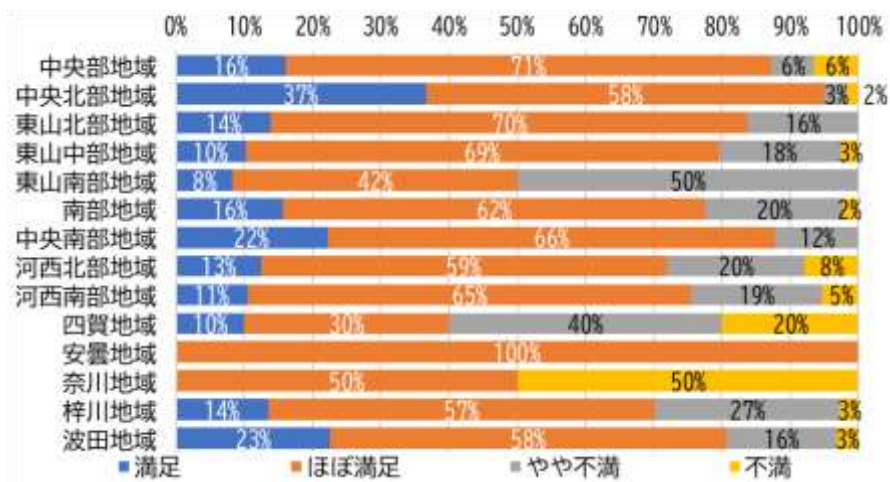
⑥ 教育環境

年代別でみると、全ての年代で満足度が高く、70%以上となっている。



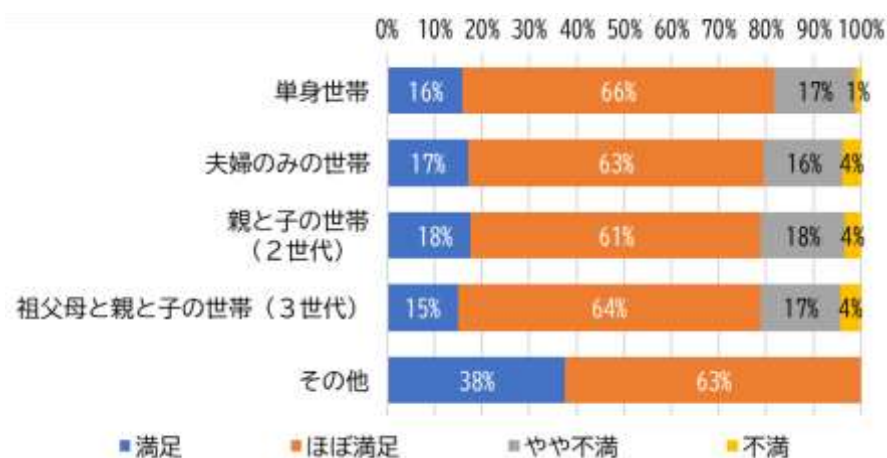
図－年代別教育環境の満足度

地域別でみると、満足度は「安曇地域」が100%と最も高く、次いで「中央北部地域」は95%となっているが、「東山南部地域」と「奈川地域」が50%、「四賀地域」は40%など、地域によって違いがみられる。



図－地域別教育環境の満足度

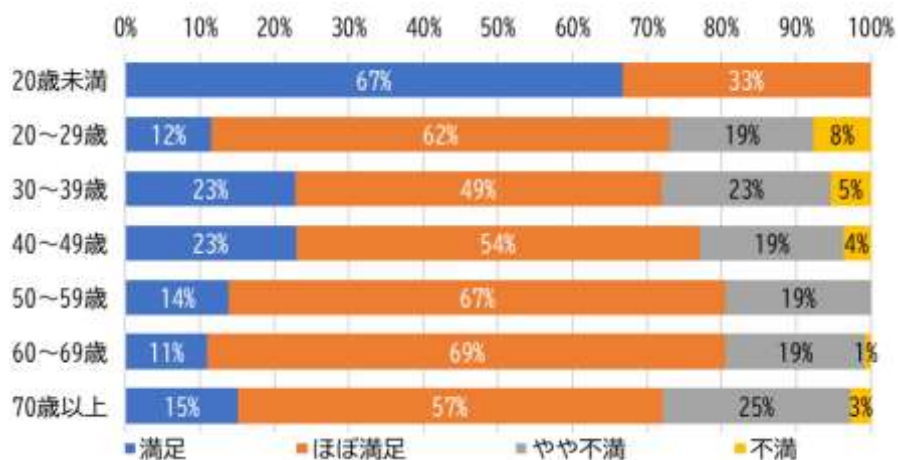
世帯種類別でみると、満足度は全ての世帯で70%以上となっており、全体的に満足度が高い結果となった。



図－世帯種類別教育環境の満足度

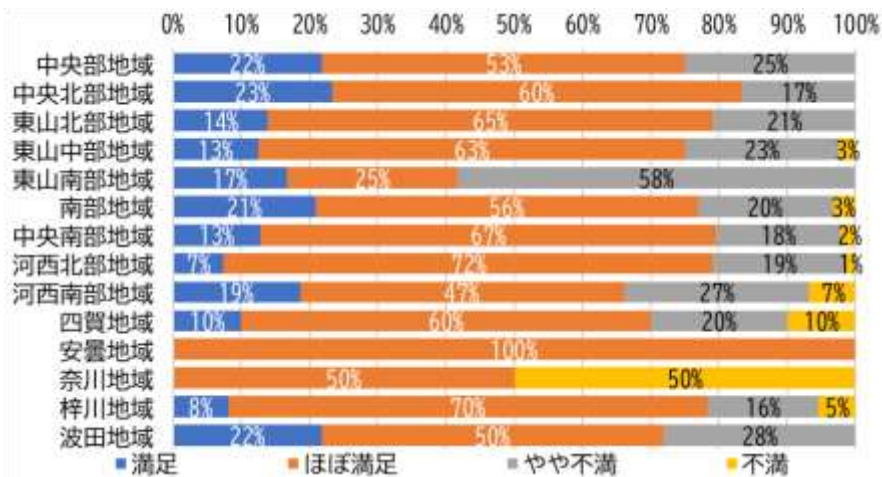
⑦ 防犯などの地域の安全・安心性

年代別で見ると、全ての年代で満足度が高く、70%以上となっている。



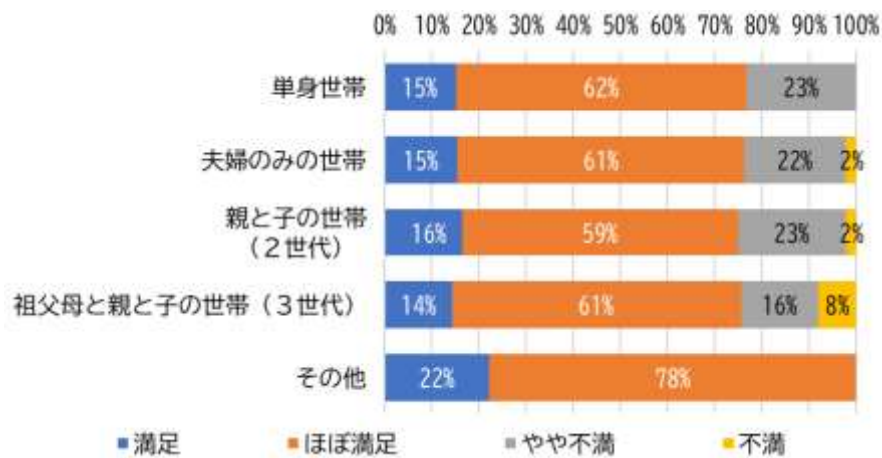
図一年代別防犯などの地域の安全・安心性の満足度

地域別で見ると、満足度は「安曇地域」が100%と最も高く、次いで「中央北部地域」は83%となっているが、「東山南部地域」が42%、「奈川地域」は50%など、地域によって違いがみられる。



図一地域別防犯などの地域の安全・安心性の満足度

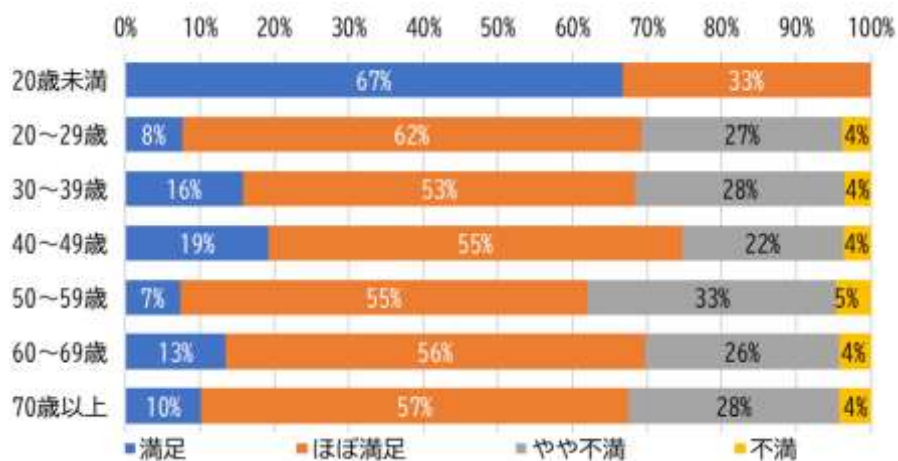
世帯種類別で見ると、満足度は全ての世帯で70%以上となっており、全体的に満足度が高い結果となった。



図－世帯種類別防犯などの地域の安全・安心性の満足度

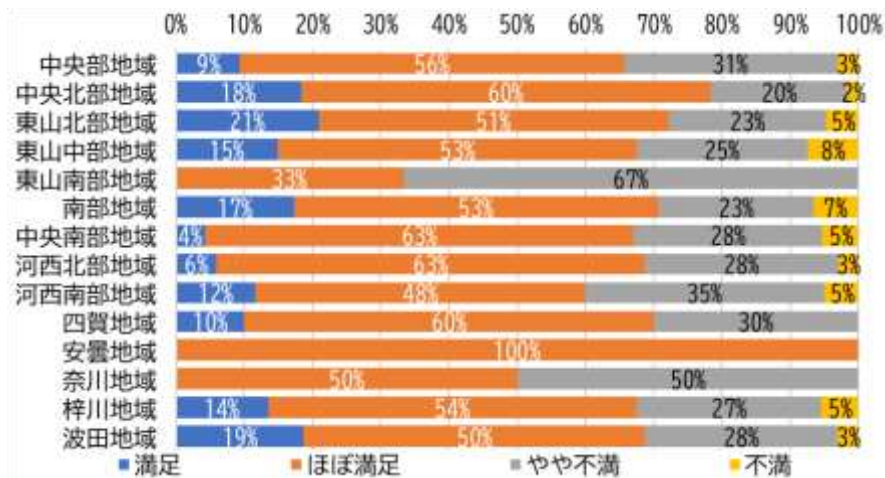
⑧ 火災・地震・水害などに対する防災の安全・安心性

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が半数を超えており60%以上となっている。



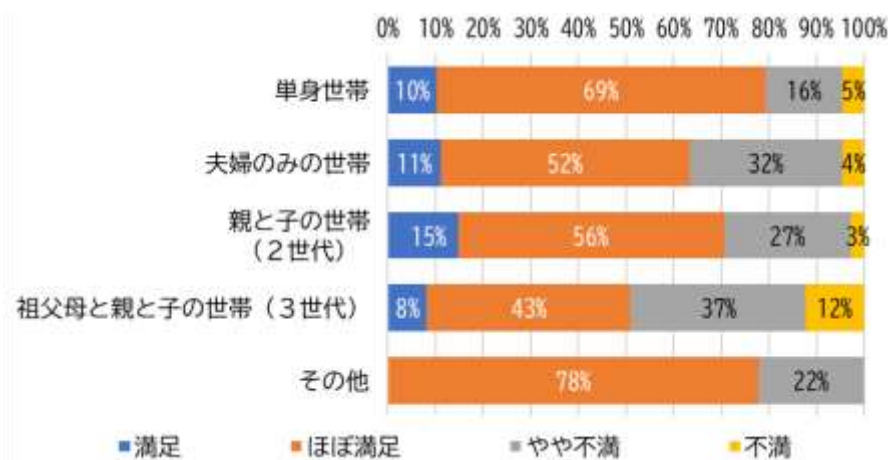
図－年代別火災・地震・水害などに対する防災の安全・安心性の満足度

地域別でみると、満足度は「安曇地域」が100%と最も高く、次いで「中央北部地域」は78%となっているが、「東山南部地域」が33%、「奈川地域」が50%など、地域によって違いがみられる。



図一地域別火災・地震・水害などに対する防災の安全・安心性の満足度

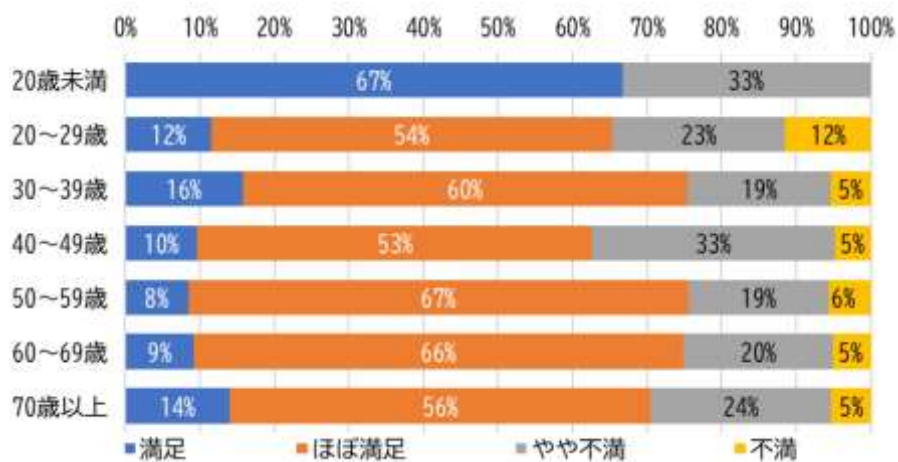
世帯種類別でみると、満足度は「単身世帯」が79%となっているが、「祖父母と親と子の世帯（3世代）」は51%となっており、世帯種類によって違いがみられる。



図一世帯種類別火災・地震・水害などに対する防災の安全・安心性の満足度

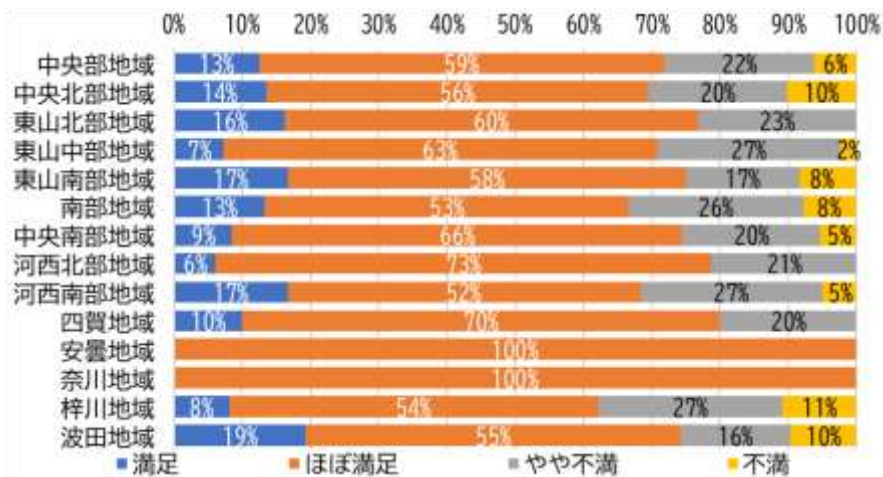
⑨ 自治会活動や近所のつき合い

年代別で見ると、全ての年代で満足している割合が半数を超えており60%以上となっている。



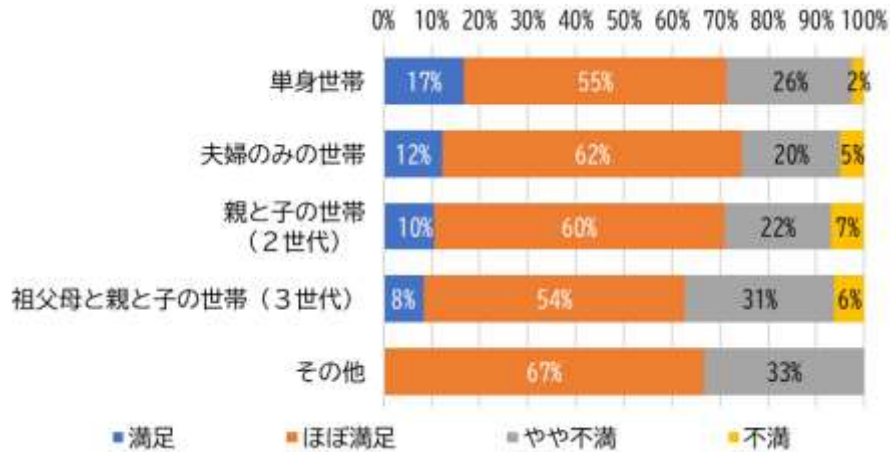
図－年代別自治会活動や近所のつき合いの満足度

地域別で見ると、全ての地域で満足している割合が半数を超えており60%以上となっている。



図－地域別自治会活動や近所のつき合いの満足度

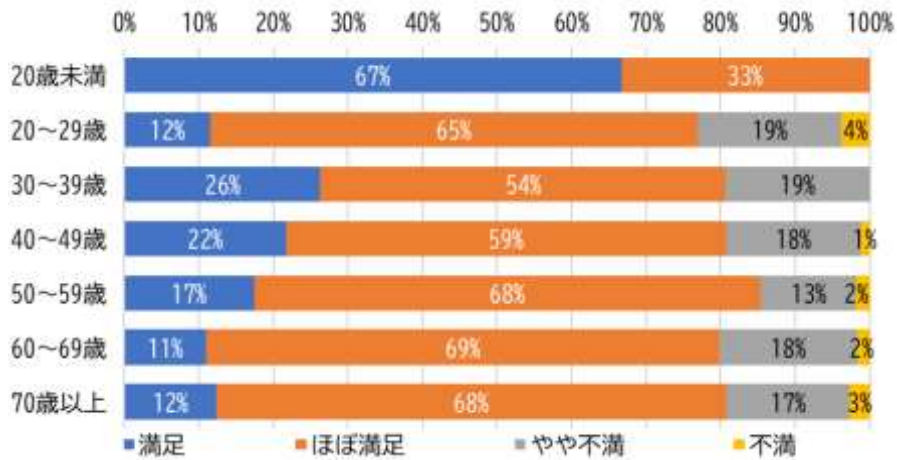
世帯種類別でみると、満足度は全ての世帯で60%以上となっている。



図－世帯種類別自治会活動や近所のつき合いの満足度

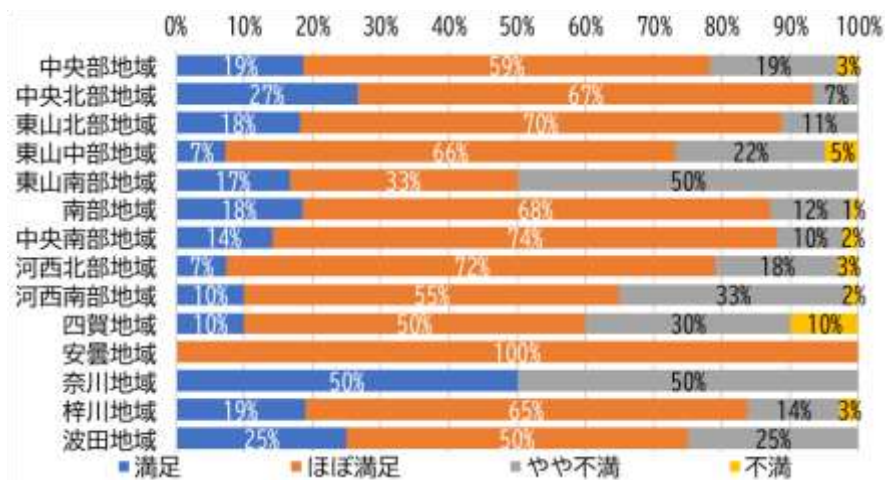
⑩ 総合的に見た満足度

年代別でみると、全ての年代で満足度が高く、70%以上となっている。



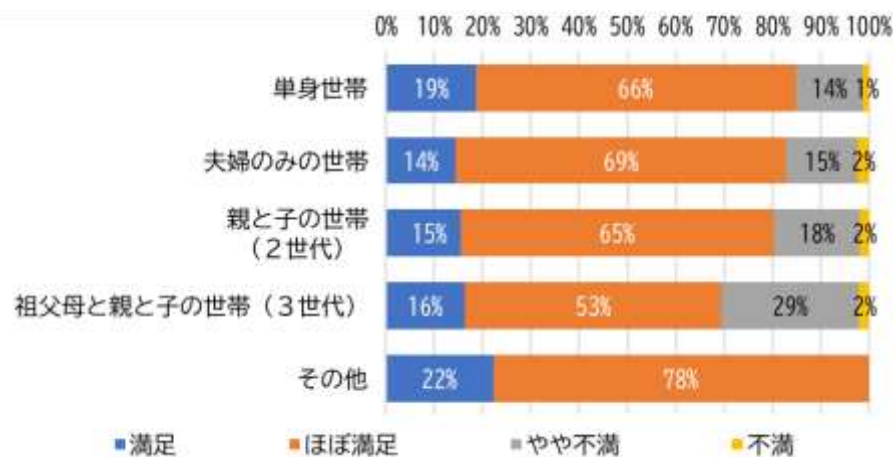
図－年代別自総合的に見た満足度の満足度

地域別でみると、満足度は「安曇地域」が100%と最も高く、次いで「中央北部地域」は93%、「東山北部地域」は89%と高い満足度となっているが、「東山南部地域」と「奈川地域」は50%であった。



図－地域別総合的に見た満足度の満足度

世帯種類別でみると、全ての世帯で60%以上となっているが、世代や同居人数が増えるにつれ満足度は低下している。



図－世帯種類別総合的に見た満足度の満足度

【住み替えについて】

問12. 居留意向

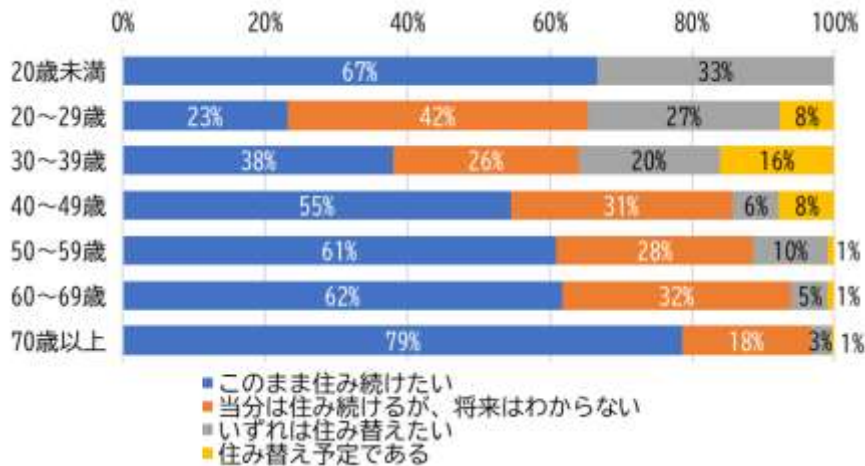
あなたは、現在の居住地に住み続けたいとお考えですか。[該当するもの1つに○]

今後の居留意向は、「このまま住み続けたい」が62.4%と最も高く、次いで「当分は住み続けるが、将来はわからない」が26.2%となっており、全体の約9割が住み続ける意向を示している。



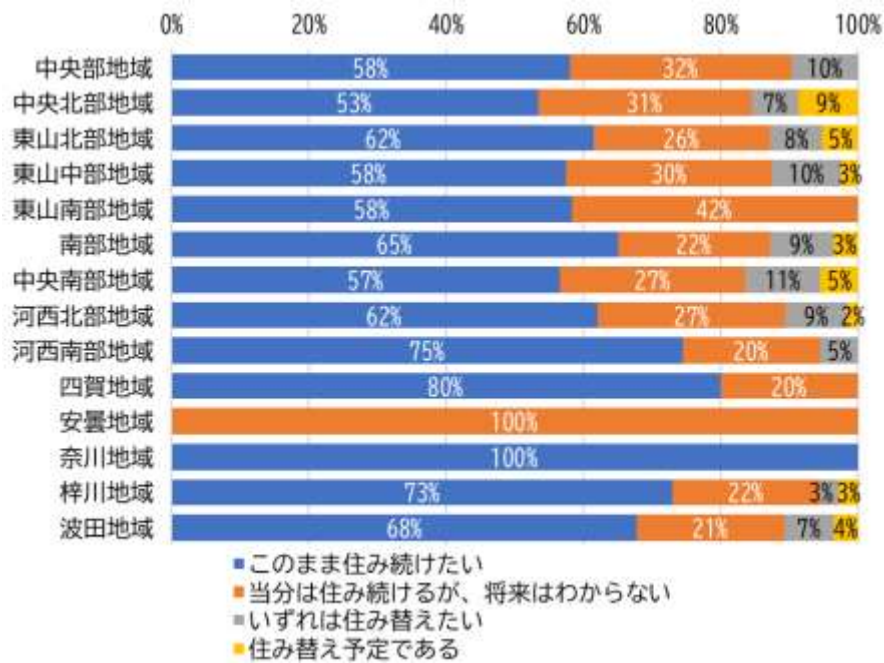
図－居留意向

年代別でみると、年代が上がるほど住み続ける割合が増加しており、70歳以上では97%が住み続ける意向を示している。一方、30代以下の30%以上は住み替えの意向を示している。



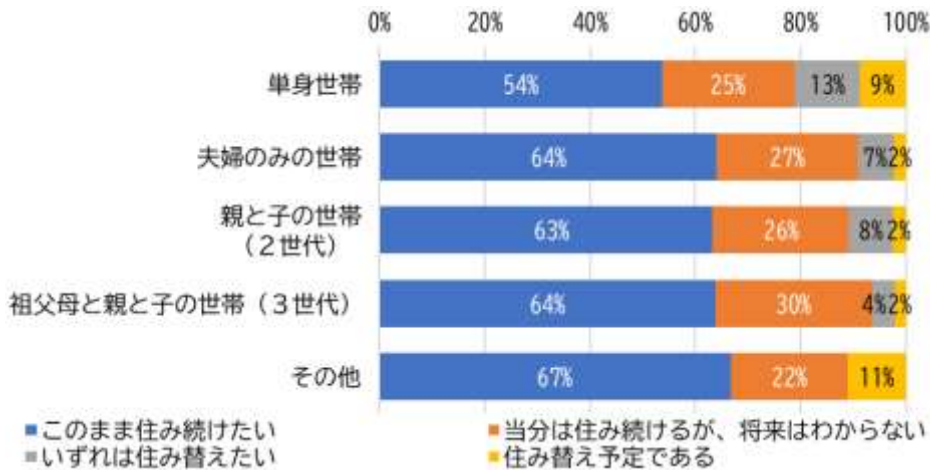
図－年代別居留意向

地域別でみると、全ての地域で80%以上が住み続ける意向を示しており、「安曇地域」と「奈川地域」は100%となっている。



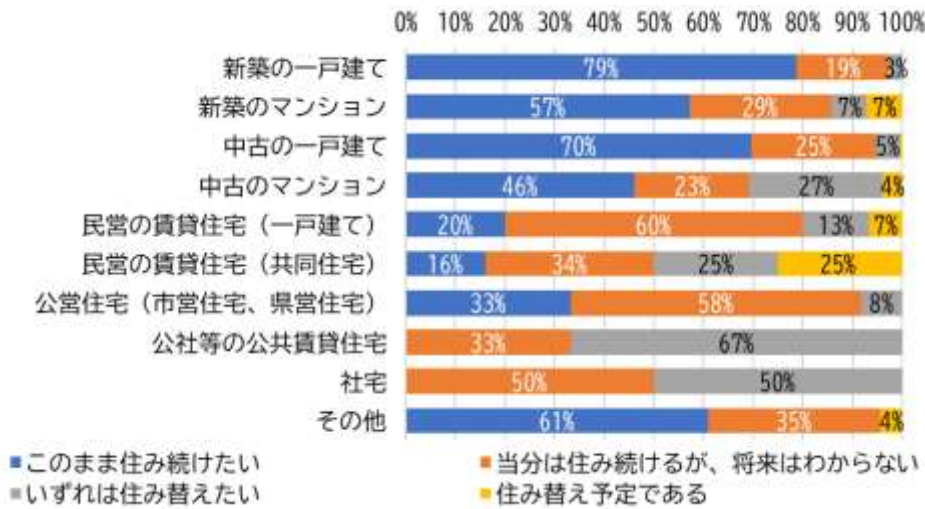
図－地域別居住意向

世帯種類別でみると、全ての世帯種類で70%以上が住み続ける意向を示しているが、「単身世帯」のみ他の世帯より住み続ける意向がやや弱い結果となった。



図－世帯種類別居住意向

住宅種類別でみると、「新築の一戸建て」や「中古の一戸建て」、「公営住宅（市営住宅、県営住宅）」が住み続ける意向が90%以上と強くなっているが、「民営の賃貸住宅（共同住宅）」や「公社等の公共賃貸住宅」は50%以下となっており、住宅種類によって違いがみられた。



図一住宅種類別居住意向

問13. 現在の居住地に住み続けたい理由

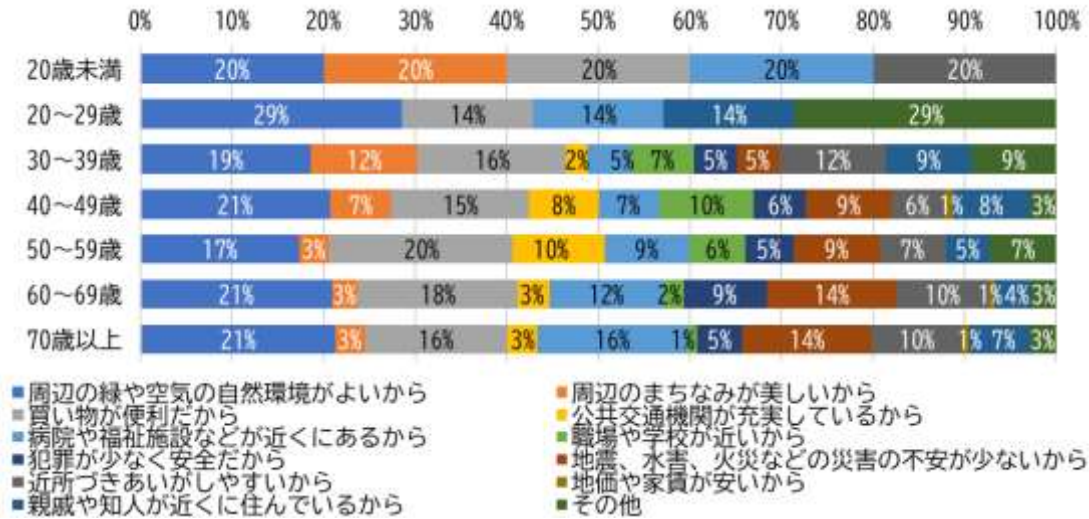
問12で『1 このまま住み続けたい』を選択された方にお伺いします。このまま住み続けたいとお考えになった理由をお答えください。[該当するもの3つまでに○]

現在の居住地に住み続けたい理由は「周辺の緑や空気の自然環境がよいから」が最も多く51.2%、次いで「買い物が便利だから」が42.1%、「病院や福祉施設などが近くにあるから」は31.6%であった。



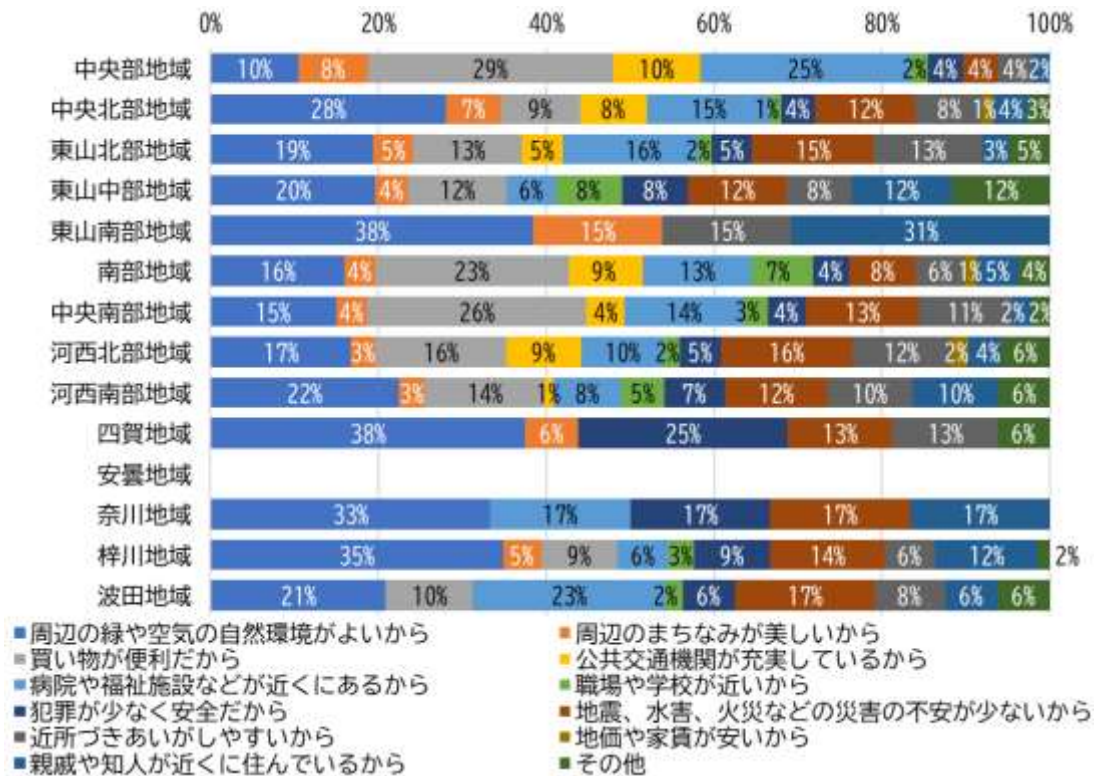
図一現在の居住地に住み続けたい理由

年代別でみると、「周辺の街並みが美しいから」は20歳未満と30代に多く、「地震、水害、火災などの災害の不安が少ないから」は年齢が高い年代の方が多く傾向にある。また、「公共交通機関が充実しているから」と「職場や学校が近いから」は40代～50代に多くなっている。



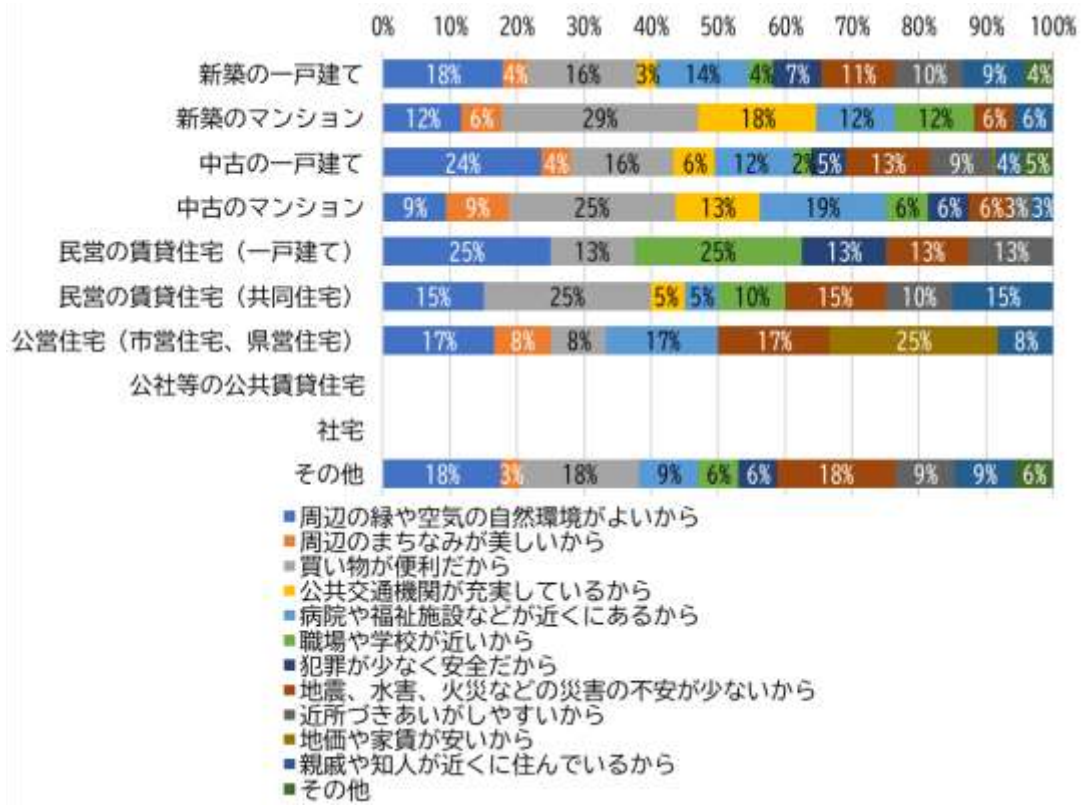
図－年代別現在の居住地に住み続けたい理由

地域別でみると、「周辺の緑や空気の自然環境がよいから」は「東山南部地域」や「四賀地域」、「梓川地域」が多く、「買い物が便利だから」は「中央部地域」や「中央南部地域」、「南部地域」が多くなっている。



図－地域別現在の居住地に住み続けたい理由

住宅種類別でみると、「周辺の緑や空気の自然環境がよいから」と回答した割合が多かったのは、「民営の賃貸住宅（一戸建て）」が25%と最も多く、次いで「中古の一戸建て」が24%となった。また、「買い物が便利だから」と回答した割合が多かったのは、「新築のマンション」29%であり、次いで「中古のマンション」と「民営の賃貸住宅（共同住宅）」が25%であった。



図－住宅種類別現在の居住地に住み続けたい理由

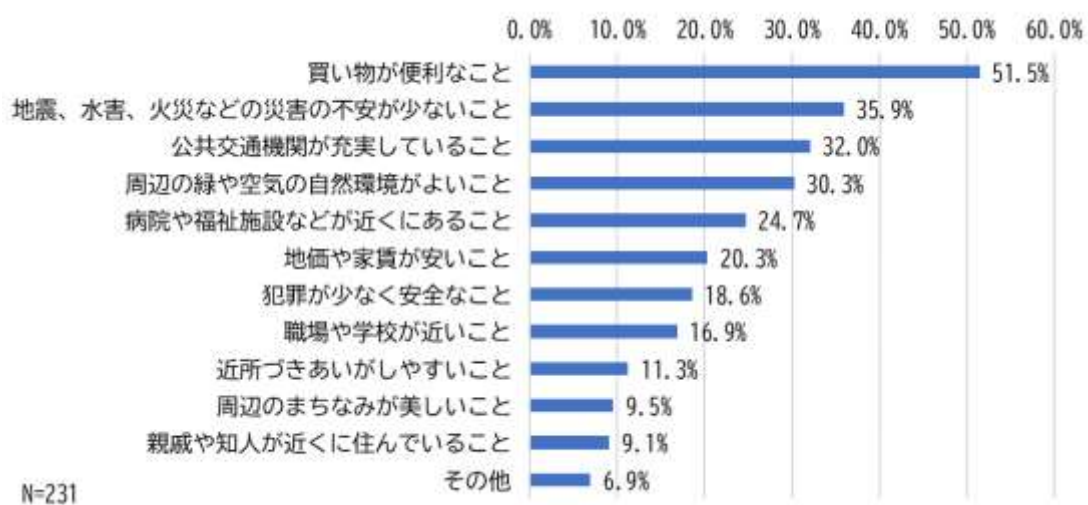
問14. 住み替える場合の条件

問12で『2 当分は住み続けるが、将来はわからない』『3 いずれは住み替えたい』『4 住み替え予定である』を選択された方にお伺いします。

(1) 住み替える場合の居住地選択で重視する点

住み替える場合、どのような点を重視して居住地を選びますか。[該当するもの3つまでに○]

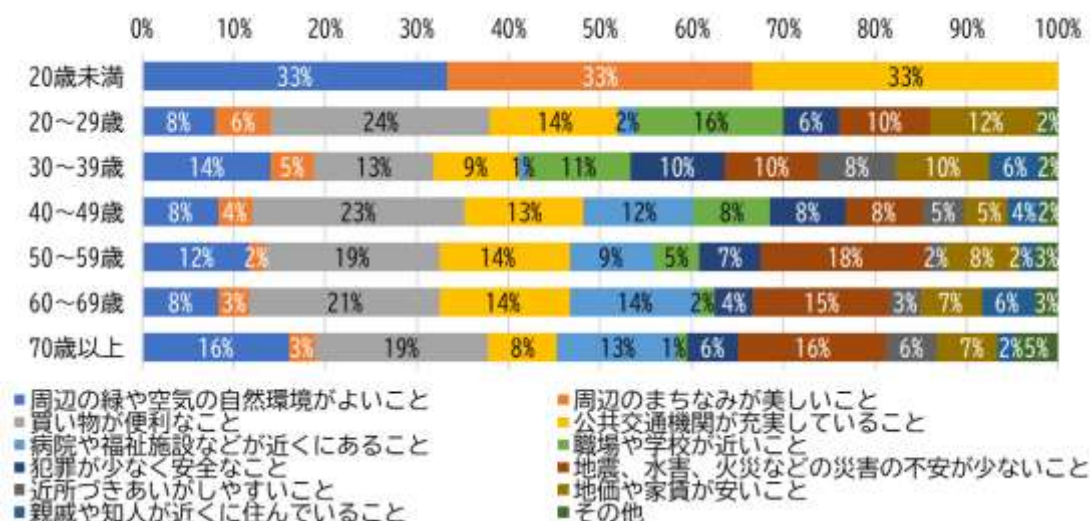
住み替える場合の居住地選択で重視する点は「買い物が便利なこと」が51.5%と最も多く、次いで「地震、水害、火災などの災害の不安が少ないこと」が35.9%、「公共交通機関が充実していること」は32.0%であった。



図一 住み替える場合の居住地選択で重視する点

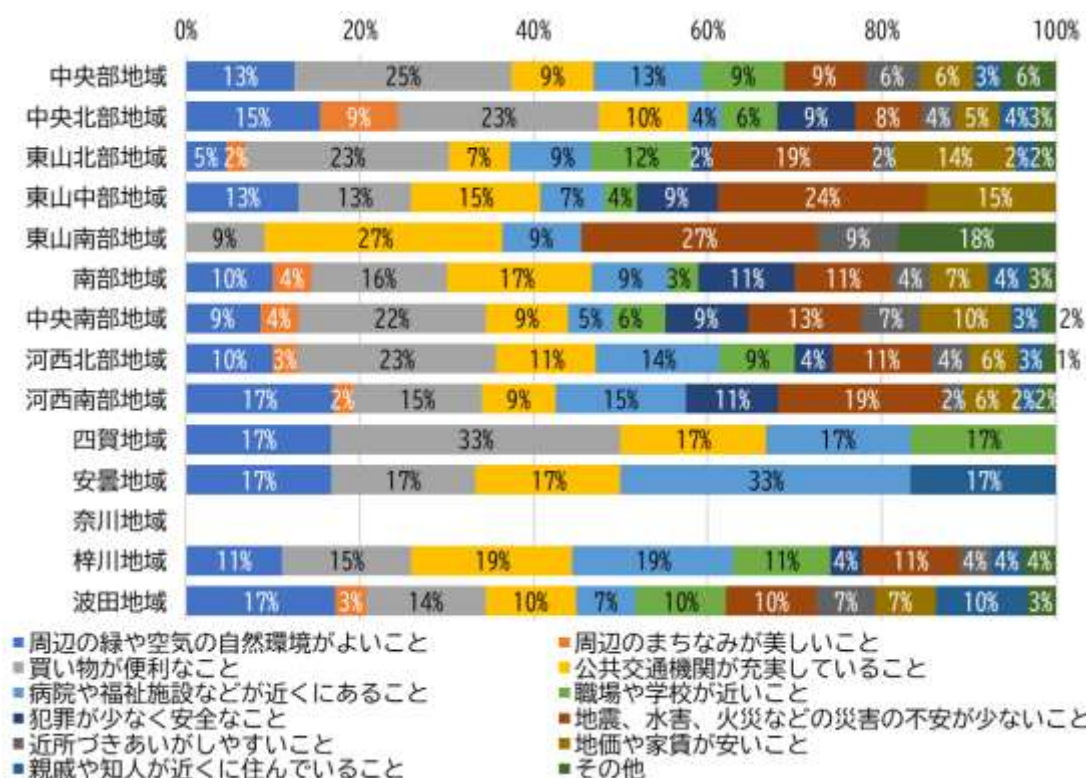
年代別でみると、20歳未満と30代を除いた年代では「買い物が便利なこと」が最も多くなっており、20歳未満と30代は「周辺の緑や空気の自然環境がよいこと」が最も多くなっている。

※20歳未満は「周辺のまちなみが美しいこと」、「公共交通機関が充実していること」も33%で同率1位



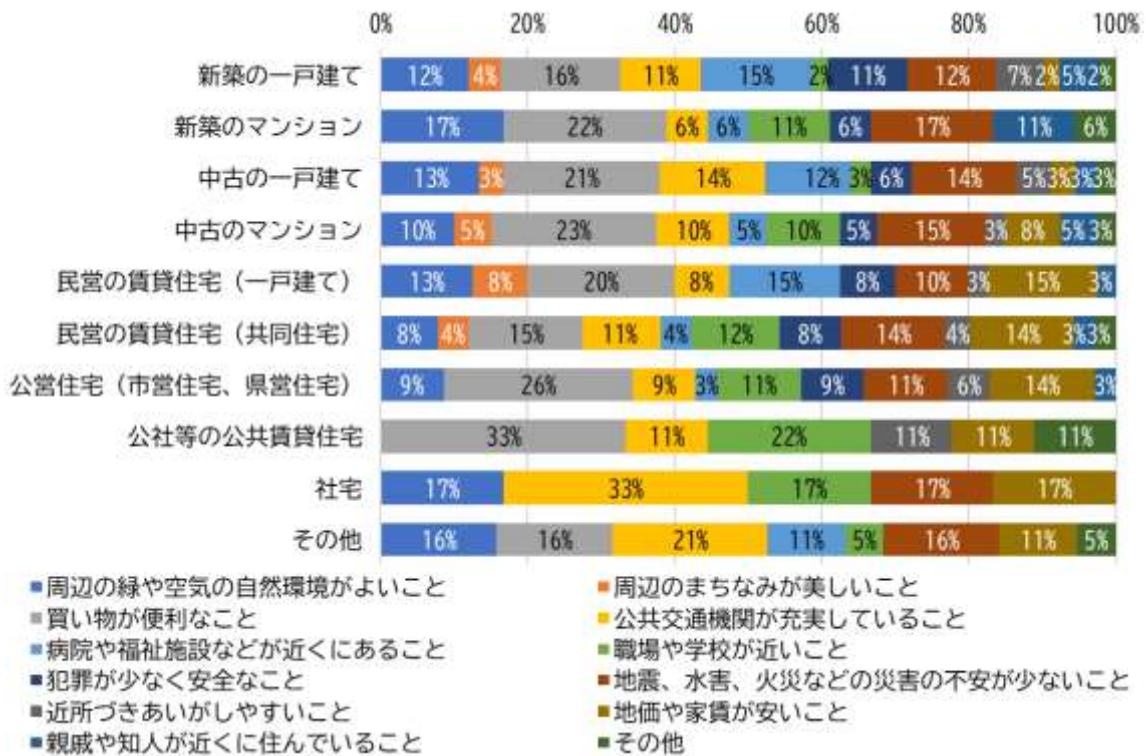
図一 年代別住み替える場合の居住地選択で重視する点

地域別でみると、「買い物が便利なこと」を重視する地域が多くなっているが、「東山中部地域」と「河西南部地域」は「公共交通機関が充実していること」、「東山南部地域」は「公共交通機関が充実していること」と「地震、水害、火災などの災害の不安が少ないこと」、「安曇地域」は「病院や福祉施設などが近くにあること」が特に多い。



図一 地域別住み替える場合の居住地選択で重視する点

住宅種類別でみると、「買い物が便利なこと」が多くなっているが、「社宅」のみ「公共交通機関が充実していること」が最も多くなっている。



図－住宅種類別住み替える場合の居住地選択で重視する点

(2) 住み替える場合の転居したい地域

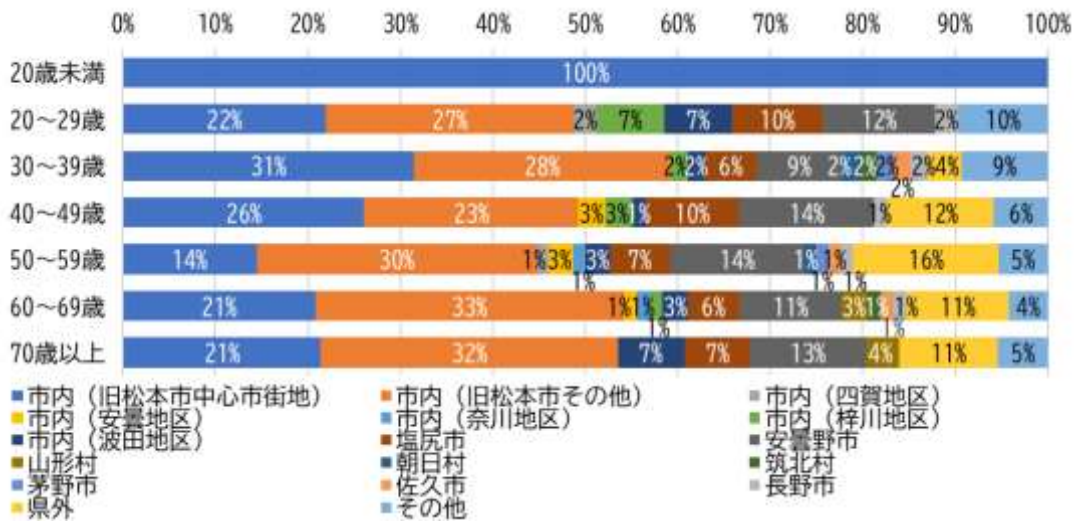
住み替える場合、どこに転居したいですか。[該当するもの3つまでに○]

住み替える場合の転居したい地域は「市内（旧松本市その他）」が47.6%と最も多く、次いで「市内（旧松本市中心市街地）」が36.9%、「安曇野市」は20.4%となっている。



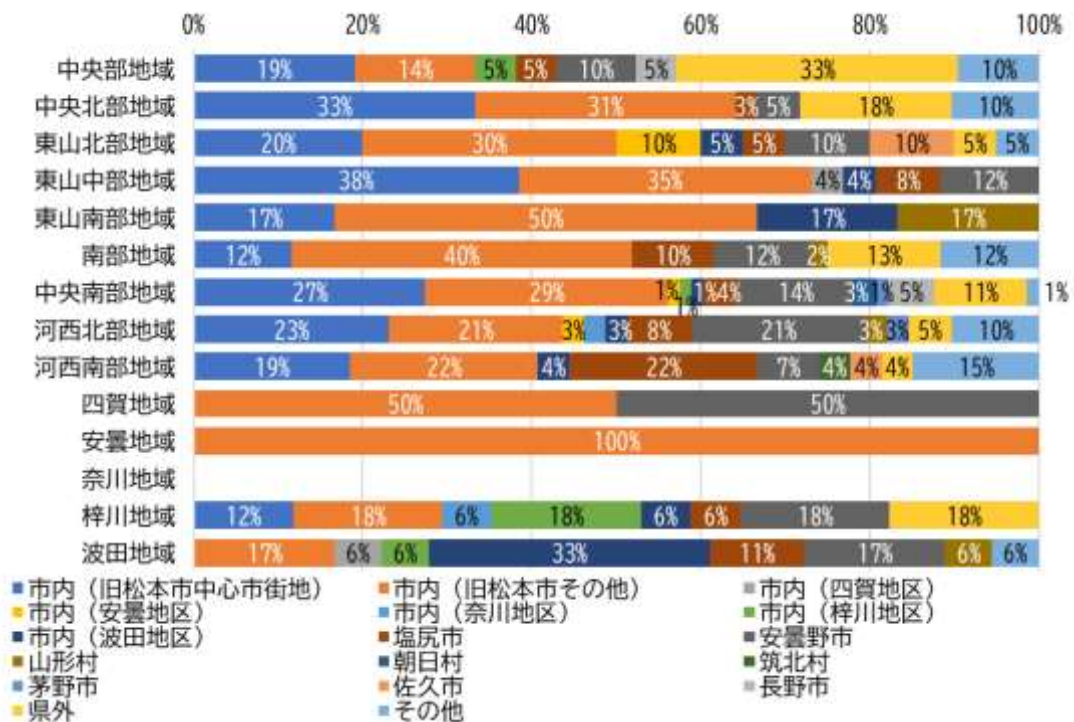
図－住み替える場合の転居したい地域

年代別でみると、20歳未満と40代が「市内（旧松本市中心市街地）」を転居先に望む割合が最も多く、それ以外の年代は「市内（旧松本市その他）」を望む割合が最も多い結果となった。



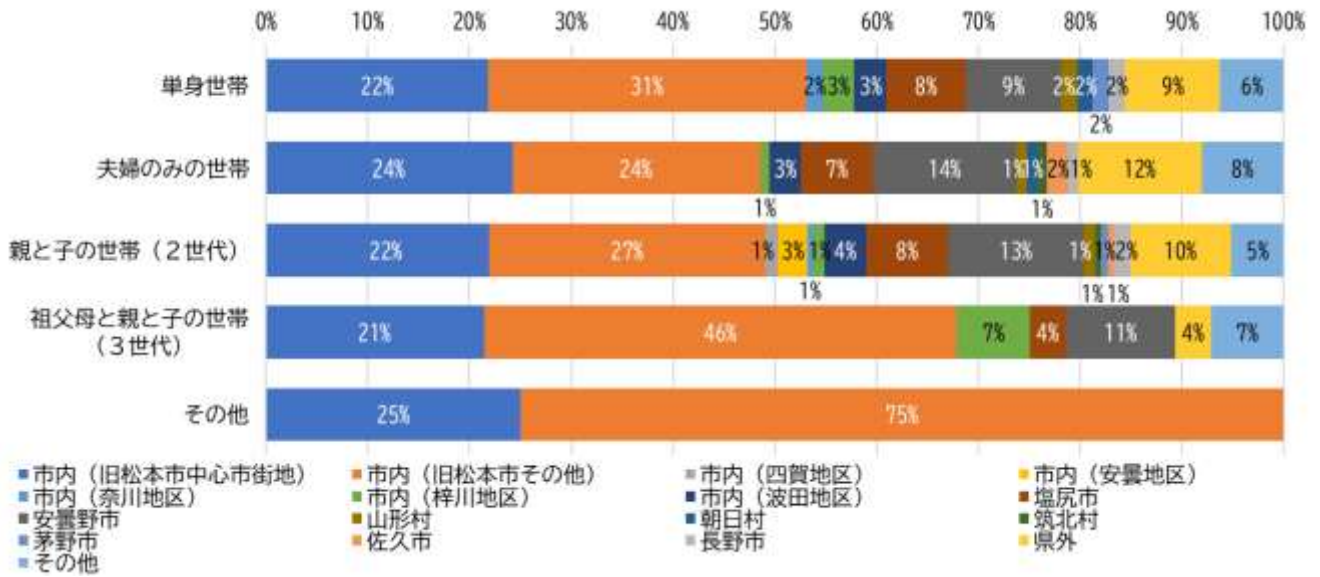
図－年代別住み替える場合の転居したい地域

地域別でみると、「市内（旧松本市中心市街地）」と「市内（旧松本市中心市街地）」を望む地域が多くなっているが、「中央部地域」は「市内（安曇地域）」、「波田地域」は「市内（波田地区）」が最も多くなっている。



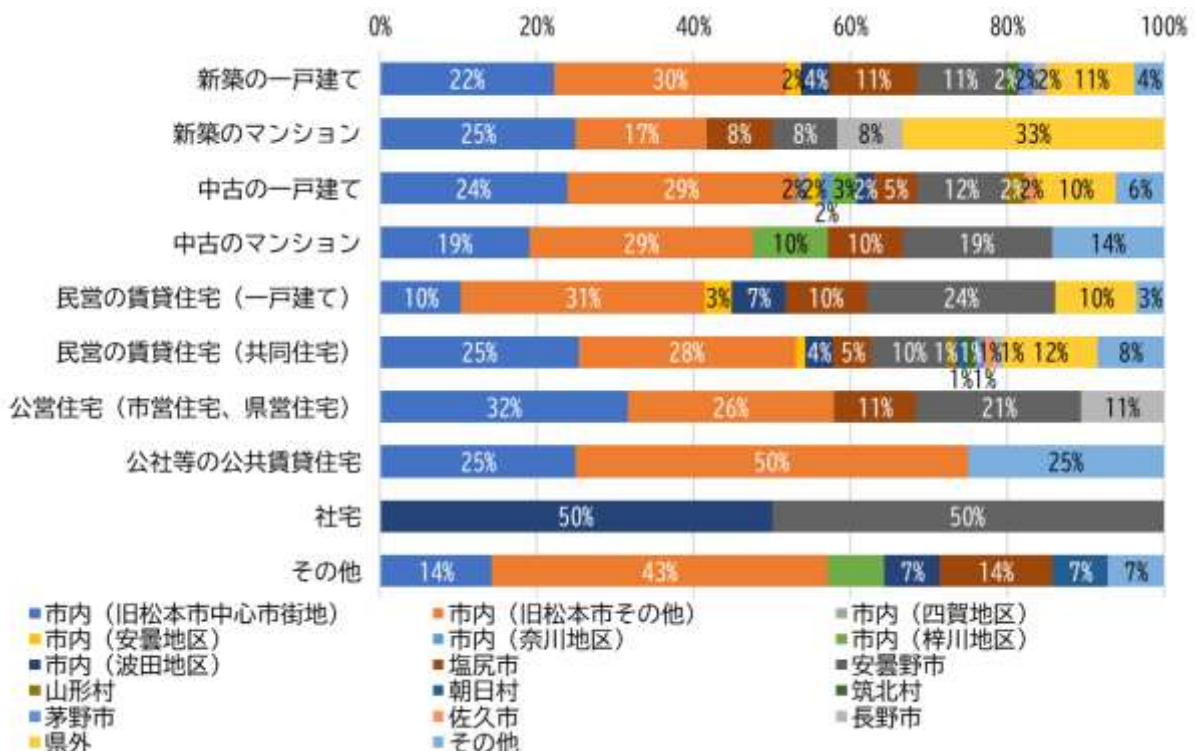
図－地域別住み替える場合の転居したい地域

世帯種類別では、いずれの世帯も「市内（旧松本市中心市街地）」と「市内（旧松本市中心市街地）」が多くなっており、特に「祖父母と親と子の世帯（3世代）」は「市内（旧松本市中心市街地）」が46%と多くなっている。



図一 世帯種類別住み替える場合の転居したい地域

住宅種類別でみると、「市内（旧松本市中心市街地）」と「市内（旧松本市中心市街地）」を望む地域が多くなっているが、「新築のマンション」は「市内（安曇地域）」、「社宅」は「市内（波田地区）」と「安曇野市」が多い。

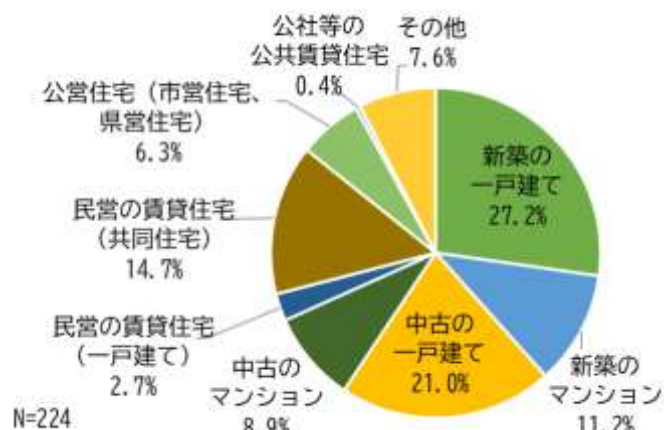


図一 住宅種類別住み替える場合の転居したい地域

(3) 住み替える場合の住宅の種類

住み替える場合、どのような種類の住宅を探しますか。[該当するもの1つに○]

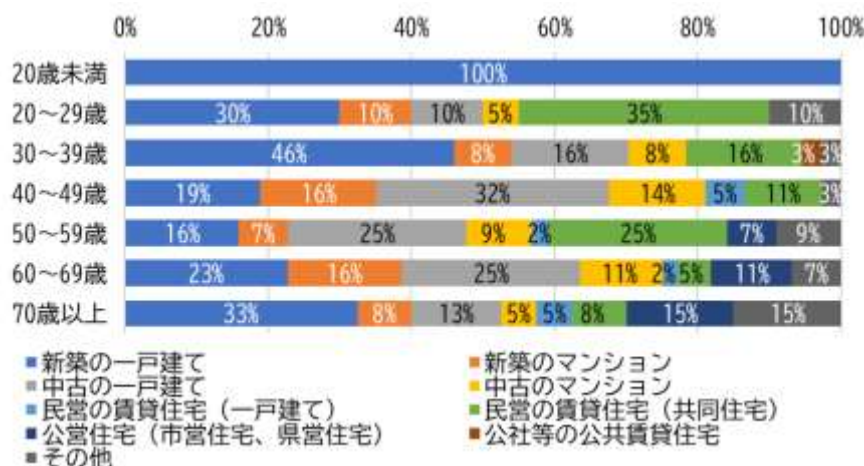
住み替える場合の住宅の種類は「新築の一戸建て」が最も多く27.2%、次いで「中古の一戸建て」が21.0%と一戸建てを望む割合が約半数を占める結果となった。



図一 住み替える場合の住宅の種類

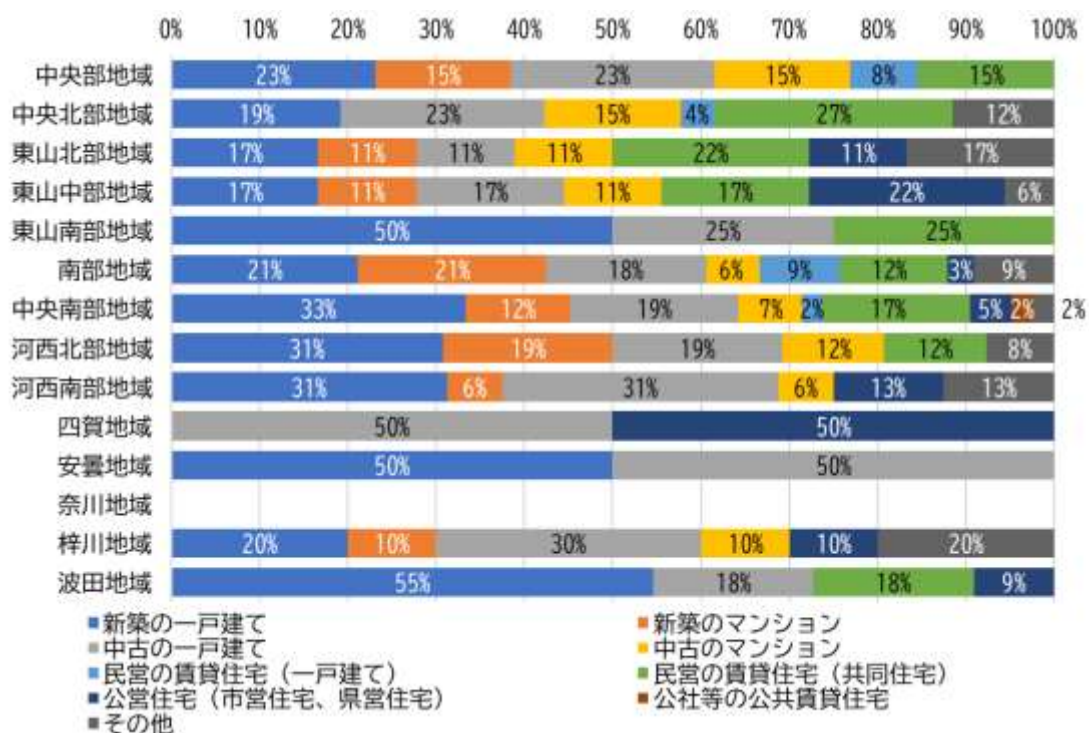
年代別で見ると、20歳未満と30代、70歳以上が「新築の一戸建て」を望む割合が最も多くなっているが、20代は「民営の賃貸住宅 (共同住宅)」、40代～60代は「中古の一戸建て」が最も多くなっている。

※50代は「民営の賃貸住宅 (共同住宅)」も同率1位



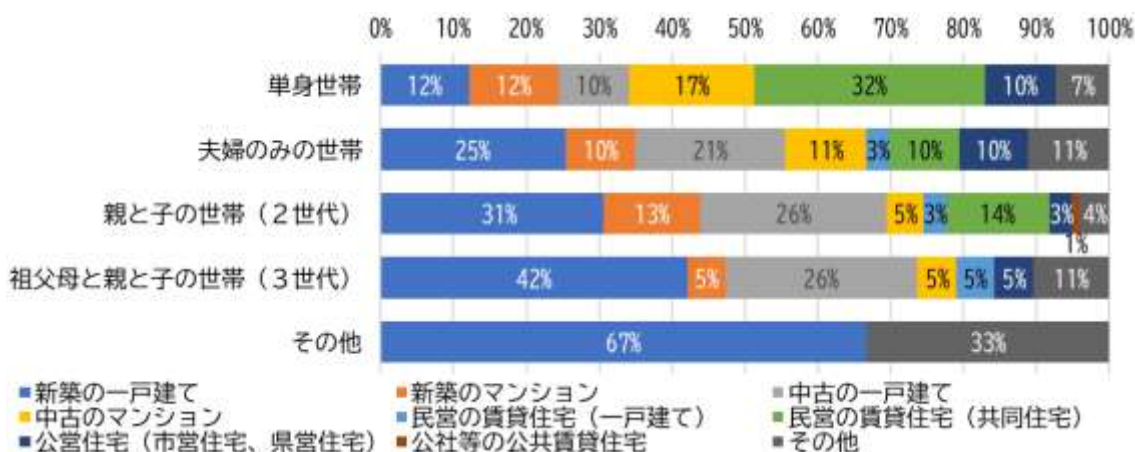
図一 年代別住み替える場合の住宅の種類

地域別でみると、「東山南部地域」や「安曇地域」、「波田地域」の50%以上が「新築の一戸建て」を望んでおり、「四賀地域」と「安曇地域」の50%は「中古の一戸建て」を望んでいる結果となった。



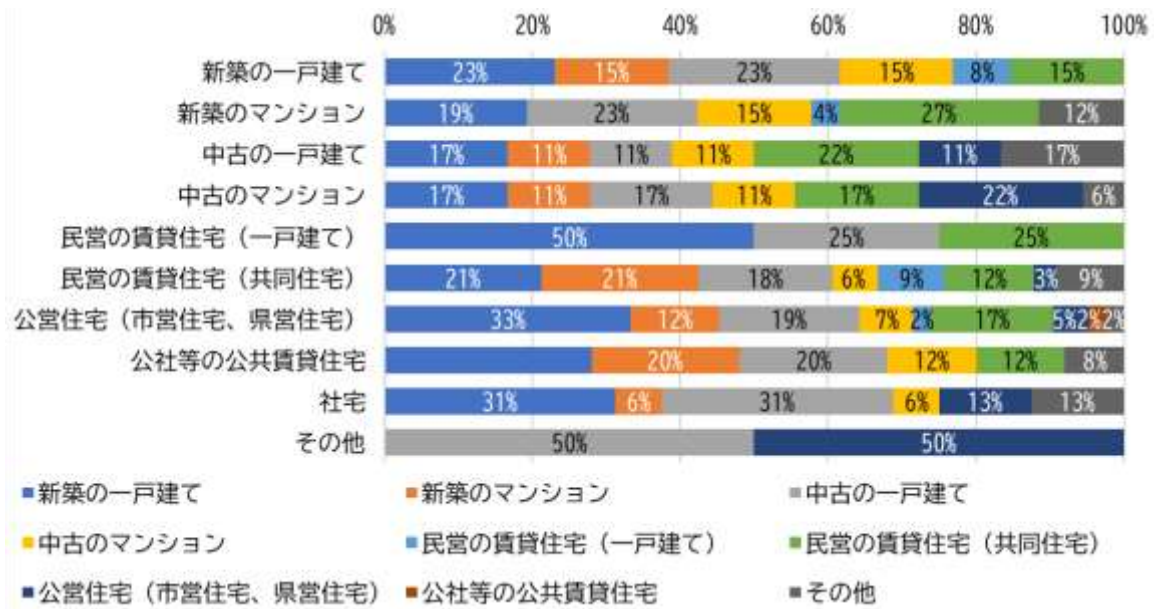
図－地域別住み替える場合の住宅の種類

世帯種類別でみると、「新築の一戸建て」と「中古の一戸建て」を望む割合は、同一世帯の同居人数が増えるほど増加している。



図－世帯種類別住み替える場合の住宅の種類

住宅種類別でみると、「民営の賃貸住宅（一戸建て）」や「公営住宅（市営住宅、県営住宅）」、「公社等の公共賃貸住宅」、「社宅」に住んでいる人が住み替える場合に「新築の一戸建て」を望む割合が比較的多くなっている。



図一 住宅種類別住み替える場合の住宅の種類

【住宅の耐震化について】

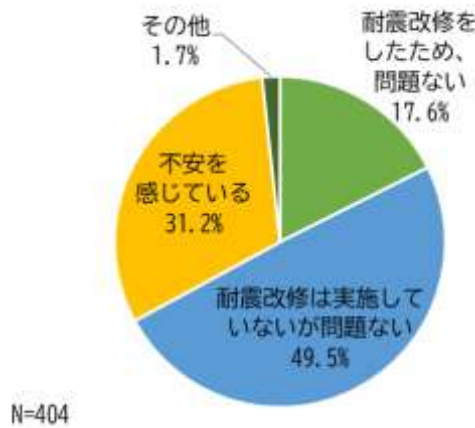
問15. 住宅の耐震化

一戸建ての住宅を所有する方（問7で『1 新築の一戸建て』『3 中古の一戸建て』を選択された方）にお伺いします。

（1）住宅の安全性（耐震性）に対する考え

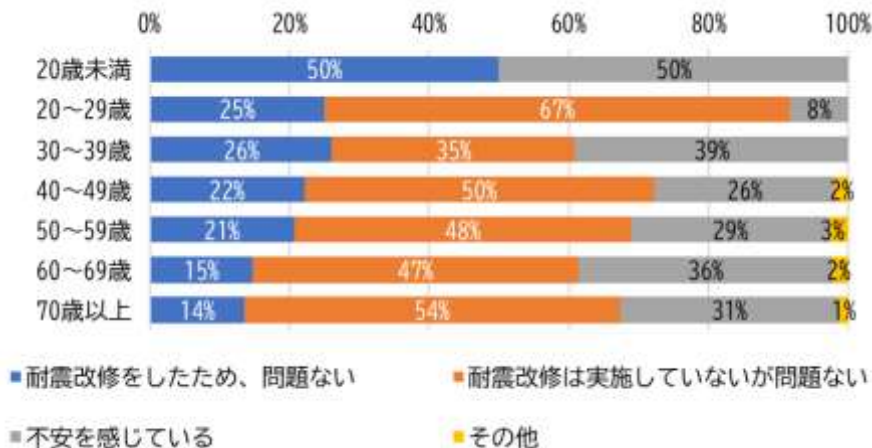
あなたがお住まいの住宅の安全性（耐震性）について、どのようにお考えですか。
 [該当するもの1つに○]

住宅の安全性（耐震性）に対する考えは「耐震改修は実施していないが問題ない」が最も多く49.5%と約半数を占めており、次いで「不安を感じている」が31.2%、「耐震改修をしたため、問題はない」が17.6%であった。



図－住宅の安全性（耐震性）に対する考え

年代別で見ると、いずれの年代（20歳未満を除く）も「耐震改修は実施していないが問題ない」が最も多くなっているが、30代は他の年代より少なくなっている。また、「耐震改修をしたため、問題はない」は、年代が上がるにつれ、割合が減少している。

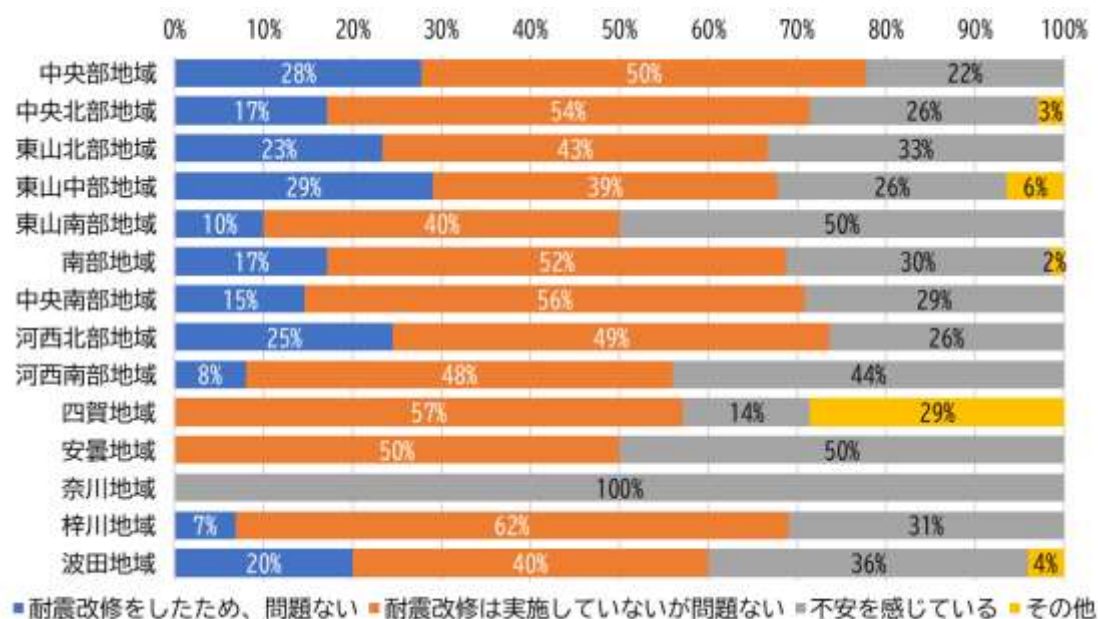


図－年代別住宅の安全性（耐震性）に対する考え

地域別でみると、ほぼ全ての地域で「耐震改修は実施していないが問題ない」が最も多くなっているが、「東山南部地域」と「奈川地域」は「不安を感じている」の方が多くなっている。

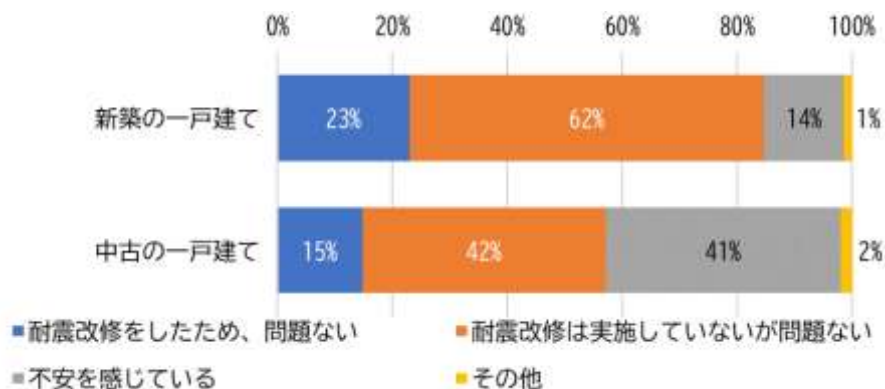
※「安曇地域」は「耐震改修は実施していないが問題ない」と「不安を感じている」が50%で同率1位

また、「中央部地域」と「東山中部地域」は「不安を感じている」より「耐震改修をしたため、問題ない」の方が多くなっているが、その他の地域は「耐震改修をしたため、問題ない」より「不安を感じている」の方が多くなっている。



図－地域別住宅の安全性（耐震性）に対する考え

住宅種類別でみると、「中古の一戸建て」より「新築の一戸建て」の方が「耐震改修をしたため、問題ない」、「耐震改修は実施していないが問題ない」とも多くなっているが、「不安を感じている」は「中古の一戸建て」の方が多くなっている。



図－住宅種類別住宅の安全性（耐震性）に対する考え

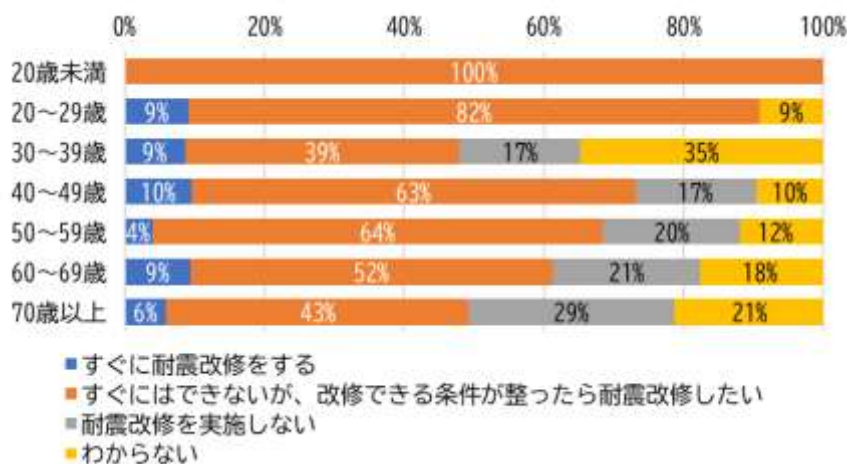
(2) 耐震改修の意向

松本市では、住宅の耐震性能に不安を感じている方のために、無料の耐震診断を実施しています。仮に、あなたがお住まいの住宅の耐震性能が十分でないと判明した場合、耐震改修を行いますか。[該当するもの1つに○]

耐震改修の意向は「すぐにはできないが、改修できる条件が整ったら耐震改修をしたい」が最も多く53.2%と過半数を超えており、次いで「耐震改修を実施しない」が22.2%であった。

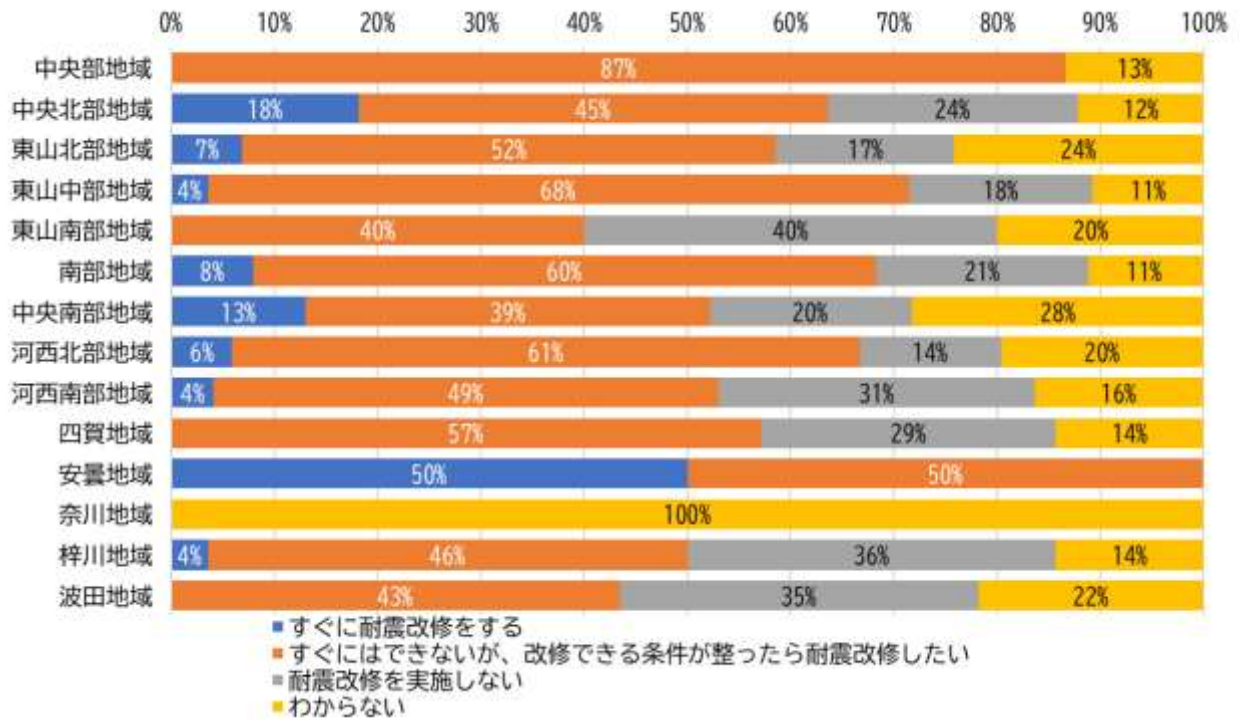


図一 耐震改修の意向



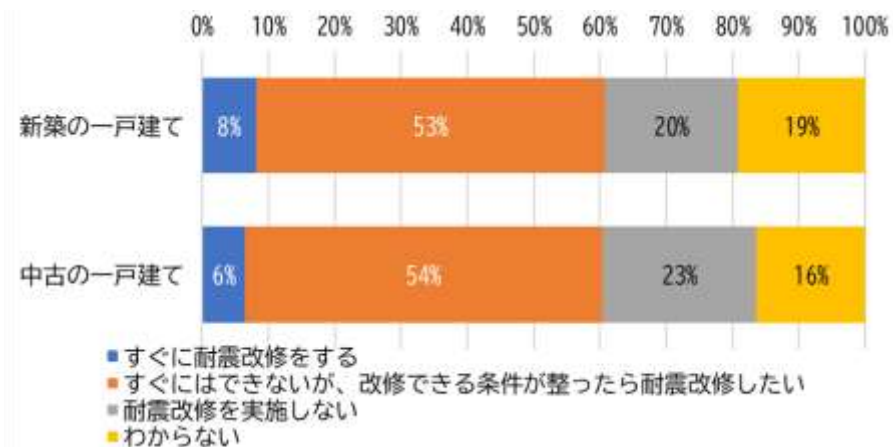
図一 年代別耐震改修の意向

地域別でみると、ほとんどの地域で「すぐにはできないが、改修できる条件が整ったら耐震改修をしたい」が最も多くなっており、中央部地域は87%と特に多くなっている。



図－地域別耐震改修の意向

住宅種類別でみると、「新築の一戸建て」、「中古の一戸建て」とも「すぐにはできないが、改修できる条件が整ったら耐震改修をしたい」が過半数を占め、他の項目も同程度の割合となっており、大きな違いは見られない。



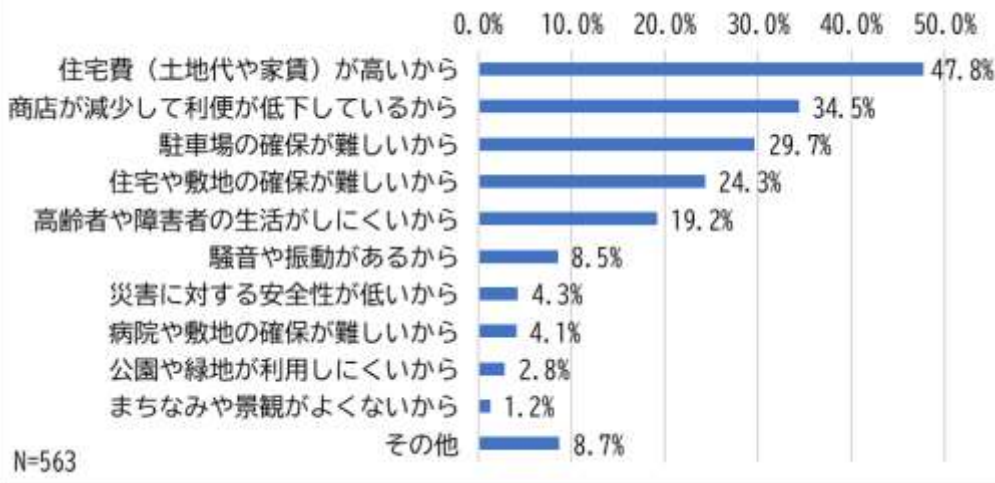
図－住宅種類別耐震改修の意向

【中心市街地の住まいやまちづくりについて】

問16. 松本市の中心市街地における人口減少の原因

松本市では、中心市街地の人口が減少傾向にあります。あなたは、人口減少の原因となっている住環境の問題として、どのようなものがあると思いますか。〔該当するもの2つまでに○〕

松本市の中心市街地における人口減少の原因は、「住宅費（土地代や家賃）が高いから」が最も多く47.8%、次いで「商店が減少して利便が低下しているから」が34.5%、「駐車場の確保が難しいから」は29.7%であった。

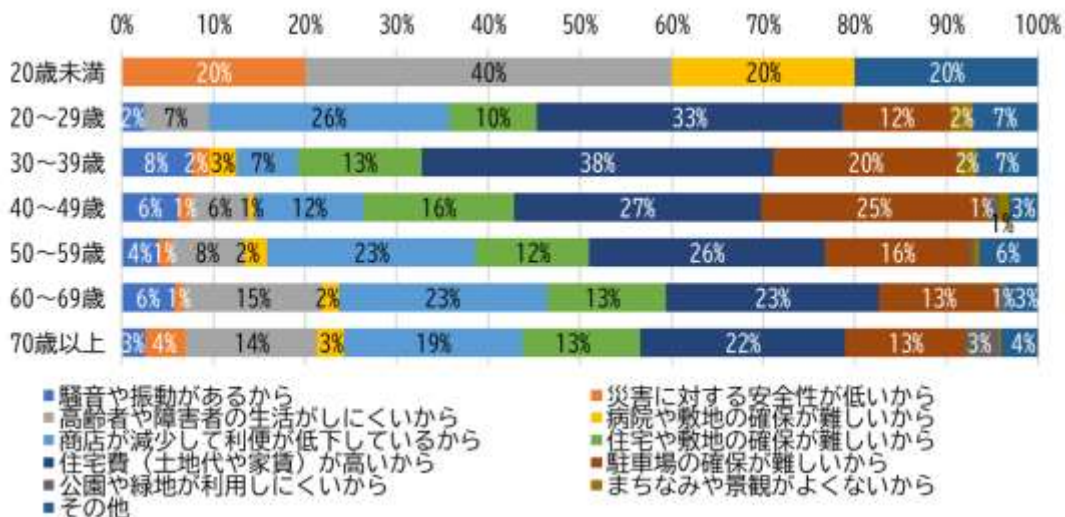


図－松本市の中心市街地における人口減少の原因

年代別でみると、どの年代（20歳未満）も「住宅費（土地代や家賃が高いから）」が最も多くなっている。特に30代では約40%近くを占めている。

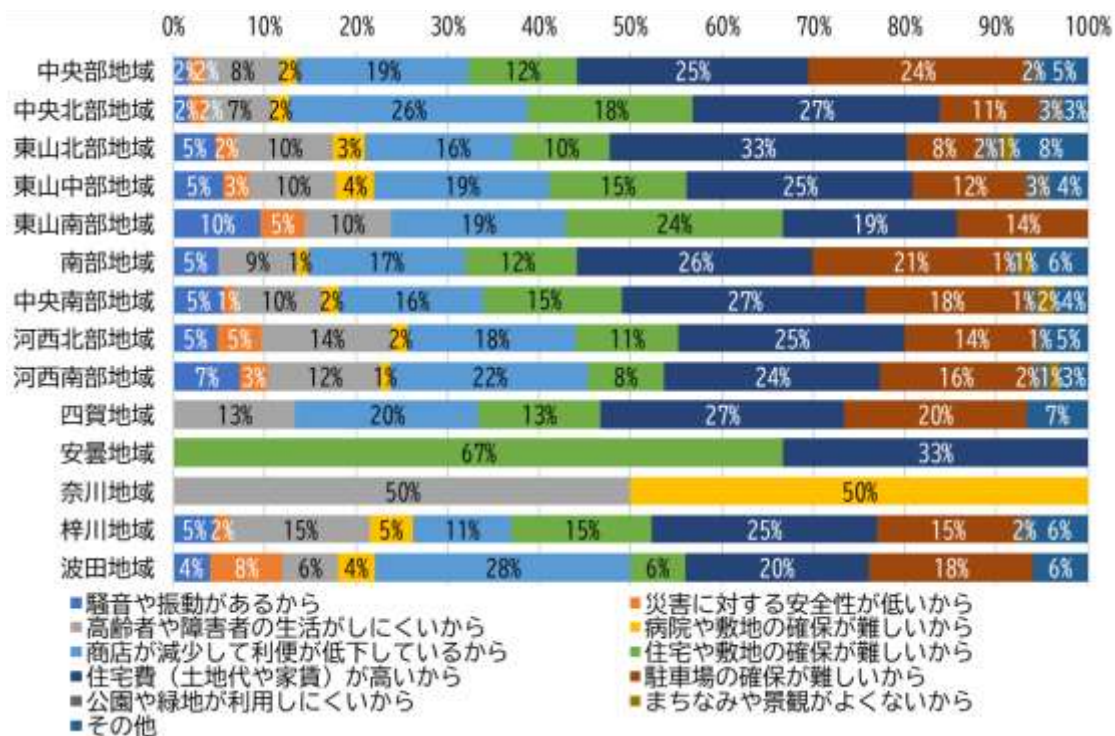
※60代は「商店が減少して利便が低下しているから」も同率1位。

2番目に多い原因として、20代と50代以上では、「商店が減少して利便が低下しているから」の割合が多くなっており、一方で30代と40代では「駐車場の確保が難しいから」の割合が多くなっている。60代以上では「高齢者や障害者の生活がしにくいから」の割合が他の年代と比べて多くなっている。



図－年代別松本市の中心市街地における人口減少の原因

地域別でみると、いずれの地域も「商店が減少して利便が低下しているから」、「住宅や敷地の確保が難しいから」、「住宅費（土地代や家賃が高いから）」、「駐車場の確保が難しいから」が多くなっているが、「奈川地域」のみ「高齢者や障害者の生活がしにくいから」と「病院や敷地の確保が難しいから」が50%と最も多くなっている。



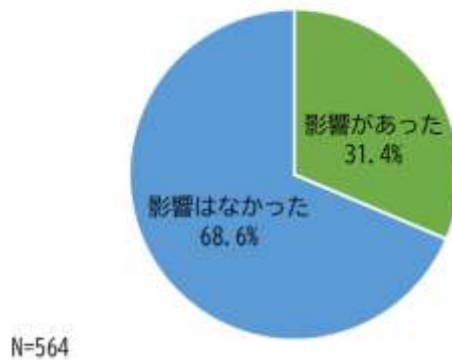
図一 地域別松本市の中心市街地における人口減少の原因

【コロナ禍を契機とした新しい住まい方について】

問17. 新型コロナウイルス感染症による住生活への影響

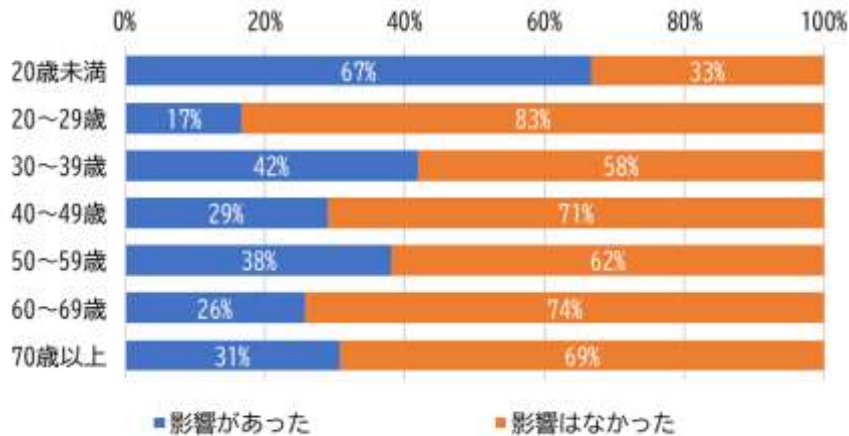
あなたは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、住生活に影響がありましたか。[該当するもの1つに○]

新型コロナウイルス感染症による住生活への影響については、「影響はなかった」が68.6%、「影響があった」が31.4%であった。



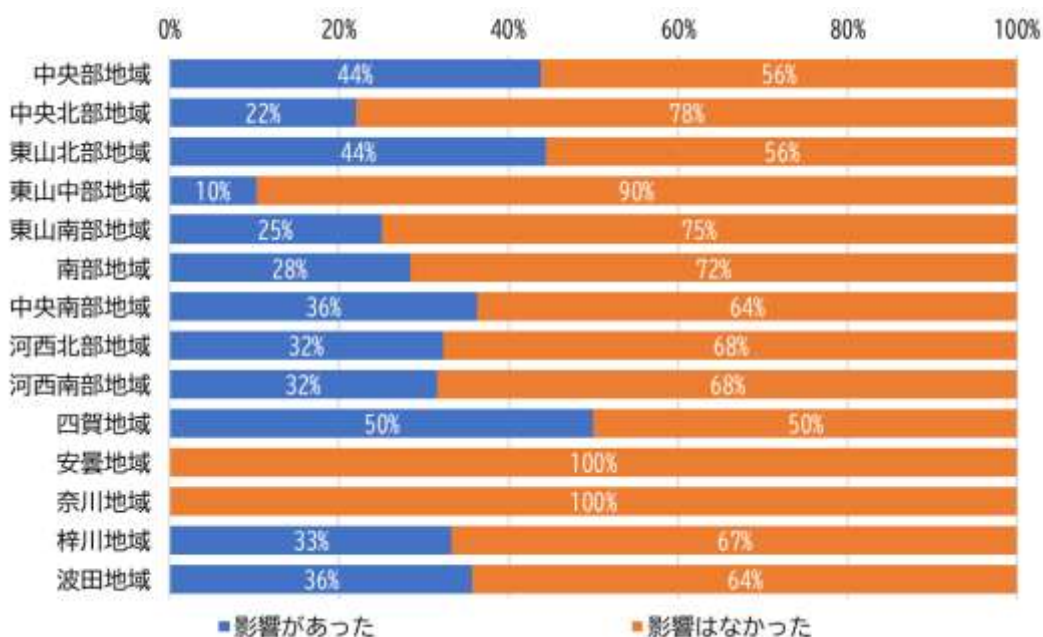
図－新型コロナウイルス感染症による住生活への影響

年代別で見ると、20代以上は「影響はなかった」が過半数を占めているが、20歳未満のみ「影響があった」が67%と多くなっている。



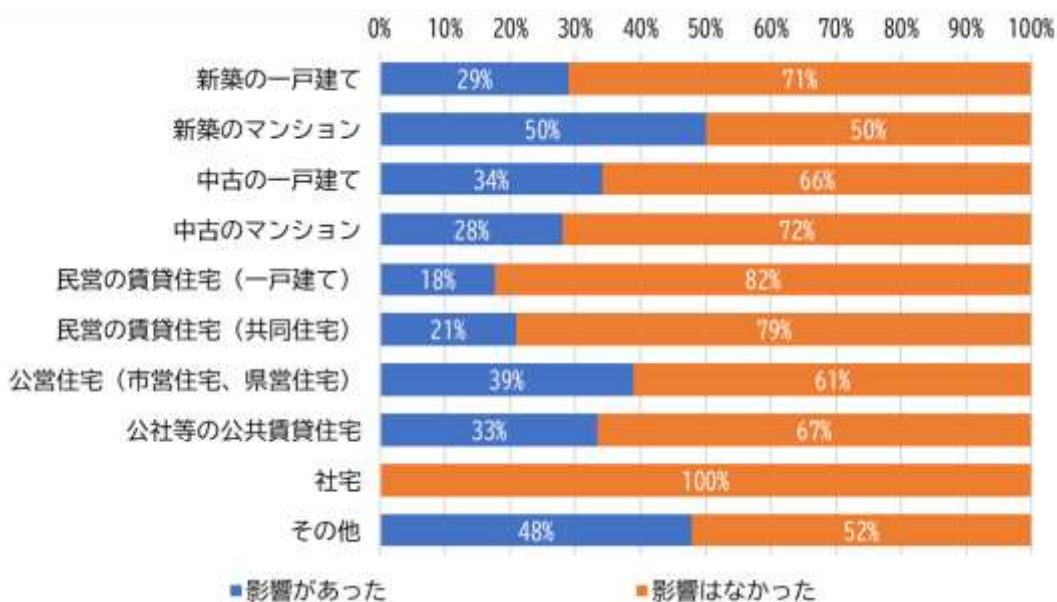
図－年代別新型コロナウイルス感染症による住生活への影響

地域別でみると、ほぼ全ての地域で「影響はなかった」が過半数を占めており、「東山中部地域」は90%、「安曇地域」と「奈川地域」は100%と他の地域よりも割合が多くなっている。
 ※「四賀地域」は「影響はなかった」も同率1位



図一 地域別新型コロナウイルス感染症による住生活への影響

住宅種類別でみると、ほぼ全ての住宅種類で「影響はなかった」が過半数を占める結果となったが、「新築のマンション」のみ「影響があった」と「影響はなかった」が50%であった。

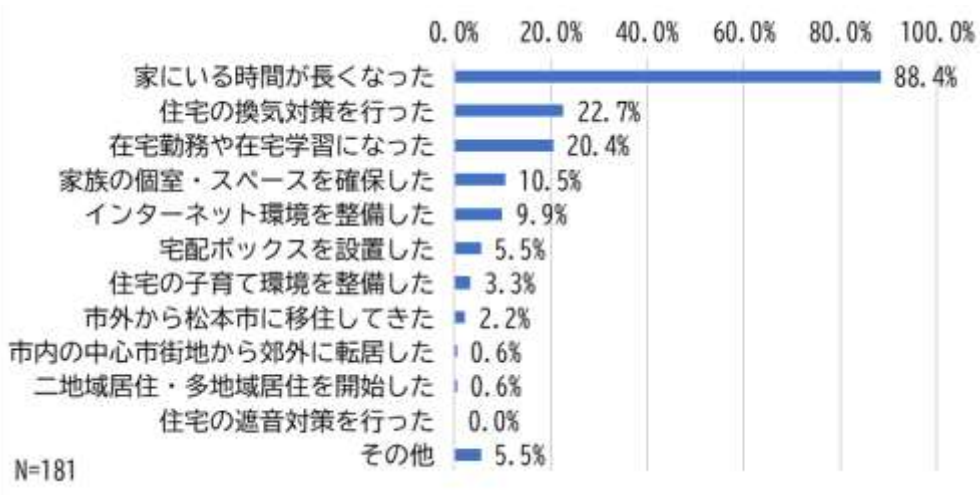


図一 住宅種類別新型コロナウイルス感染症による住生活への影響

問18. コロナウイルス感染症の影響の内容

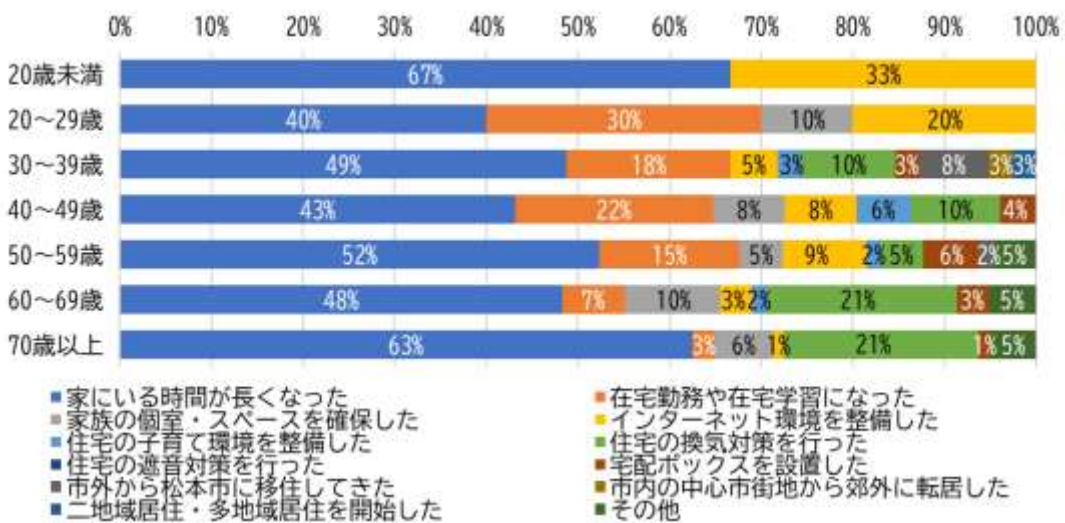
問17で『1 影響があった』を選択された方にお伺いします。どのような影響がありましたか。
 [該当するものすべてに○]

コロナウイルス感染症の影響の内容については「家にいる時間が長くなった」が88.4%と大半を占めており、次いで「住宅の換気対策を行った」が22.7%、「在宅勤務や在宅学習になった」は20.4%であった。



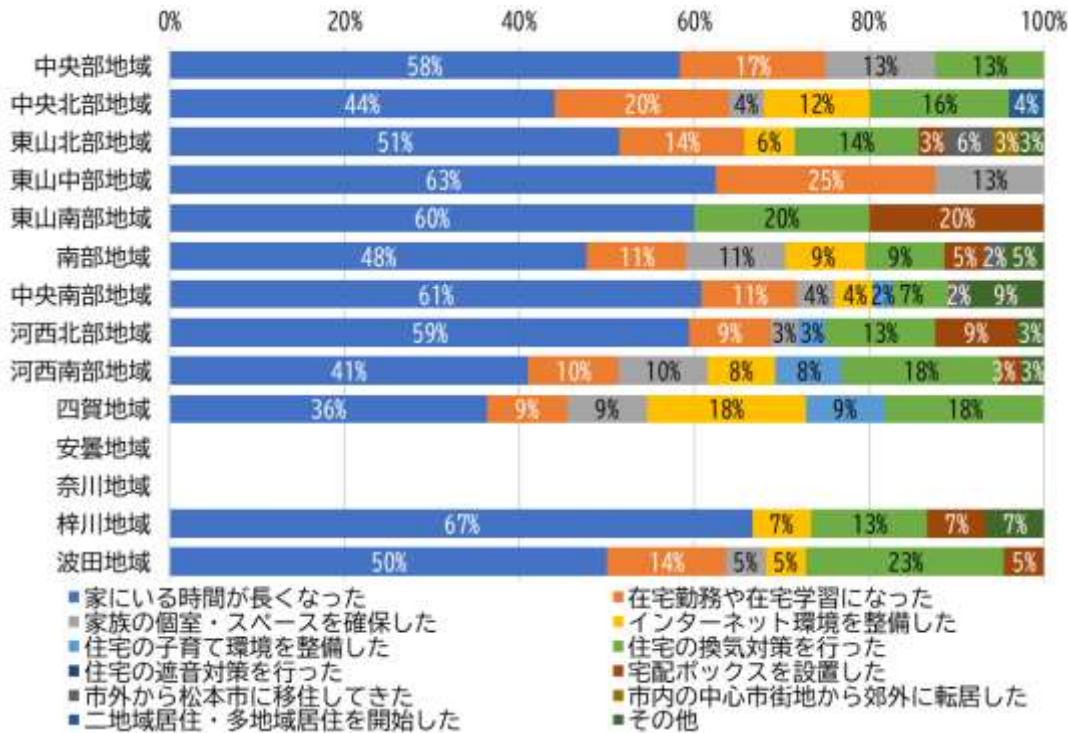
図ーコロナウイルス感染症の影響の内容

年代別でみると、全ての年代で「家にいる時間が長くなった」が最も多くなっているが、20歳未満は「インターネット環境を整備した」、20代～50代は「在宅勤務や在宅学習になった」、60代以上は「住宅の喚起対策を行った」が2番目に多くなっている。



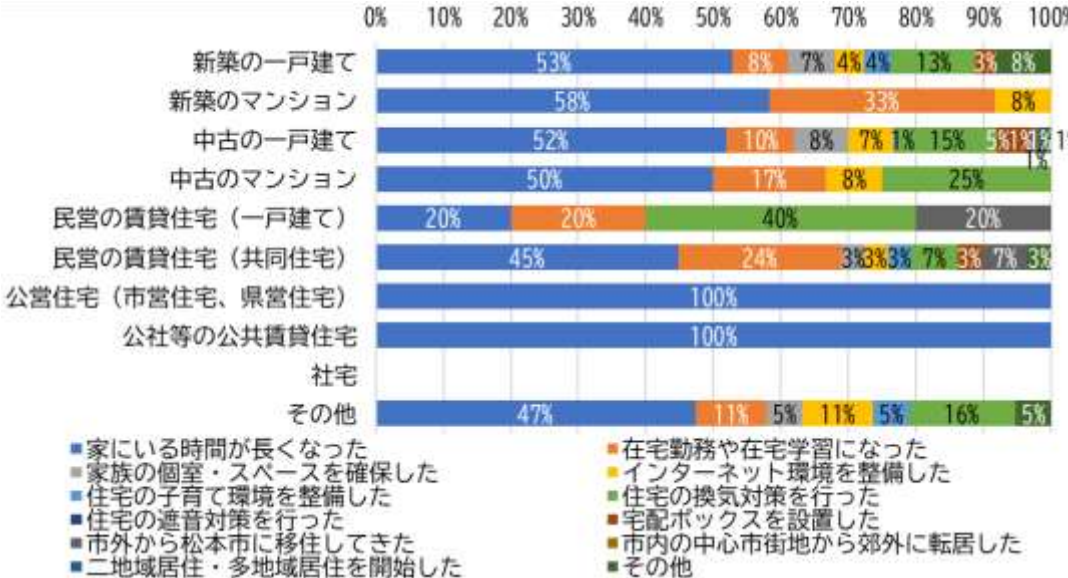
図ー年代別コロナウイルス感染症の影響の内容

地域別でみると、全ての地域で「家にいる時間が長くなった」が最も多くなっているが、「中央部地域」や「中央北部地域」、「東山中部地域」などでは「在宅勤務や在宅学習になった」が2番目に多く、「東山南部地域」や「河西南部地域」、「波田地域」などでは「住宅の喚起対策を行った」が2番目に多くなっている。



図－地域別コロナウイルス感染症の影響の内容

住宅種類別でみると、ほぼ全ての住宅種類で「家にいる時間が長くなった」が最も多くなっているが、「民営の賃貸住宅（一戸建て）」のみ「住宅の喚起対策を行った」が最も多い結果となった。



図－住宅種類別コロナウイルス感染症の影響の内容

問19. 実践したい将来の住まい方や暮らし方

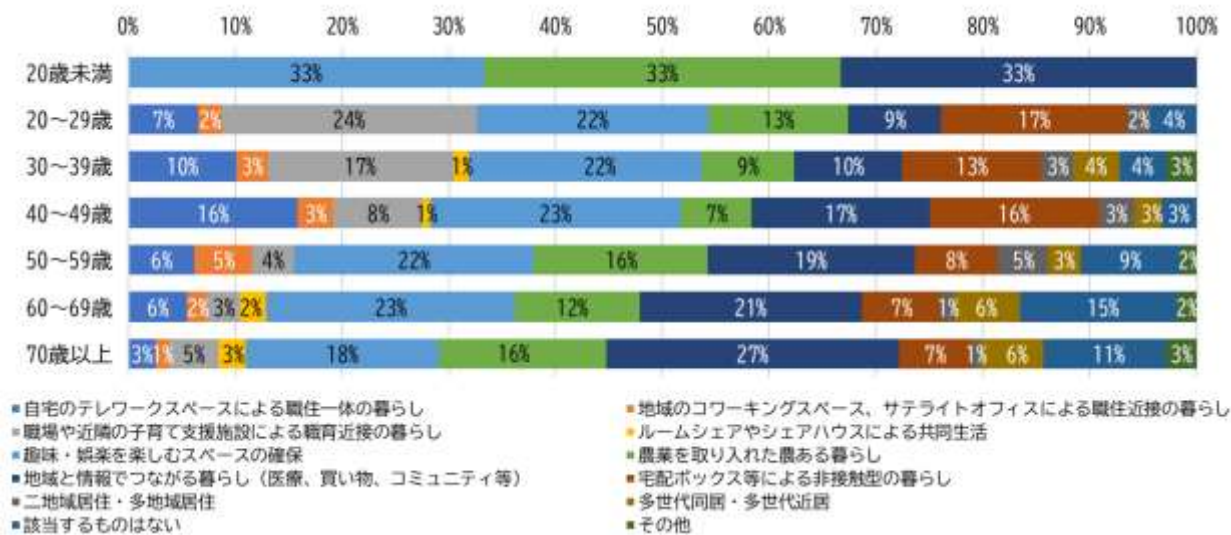
問17で『2 影響はなかった』を選択された方にお伺いします。あなたは、将来の住まい方や暮らし方について、どのようなことを実践したいとお考えですか。[該当するもの3つまでに○]

実践したい将来の住まい方や暮らし方は「趣味・娯楽を楽しむスペースの確保」が最も多く40.9%、次いで「地域と情報でつながる暮らし(医療、買い物、コミュニティ等)」が38.7%、「農業を取り入れた農のある暮らし」は24.3%であった。



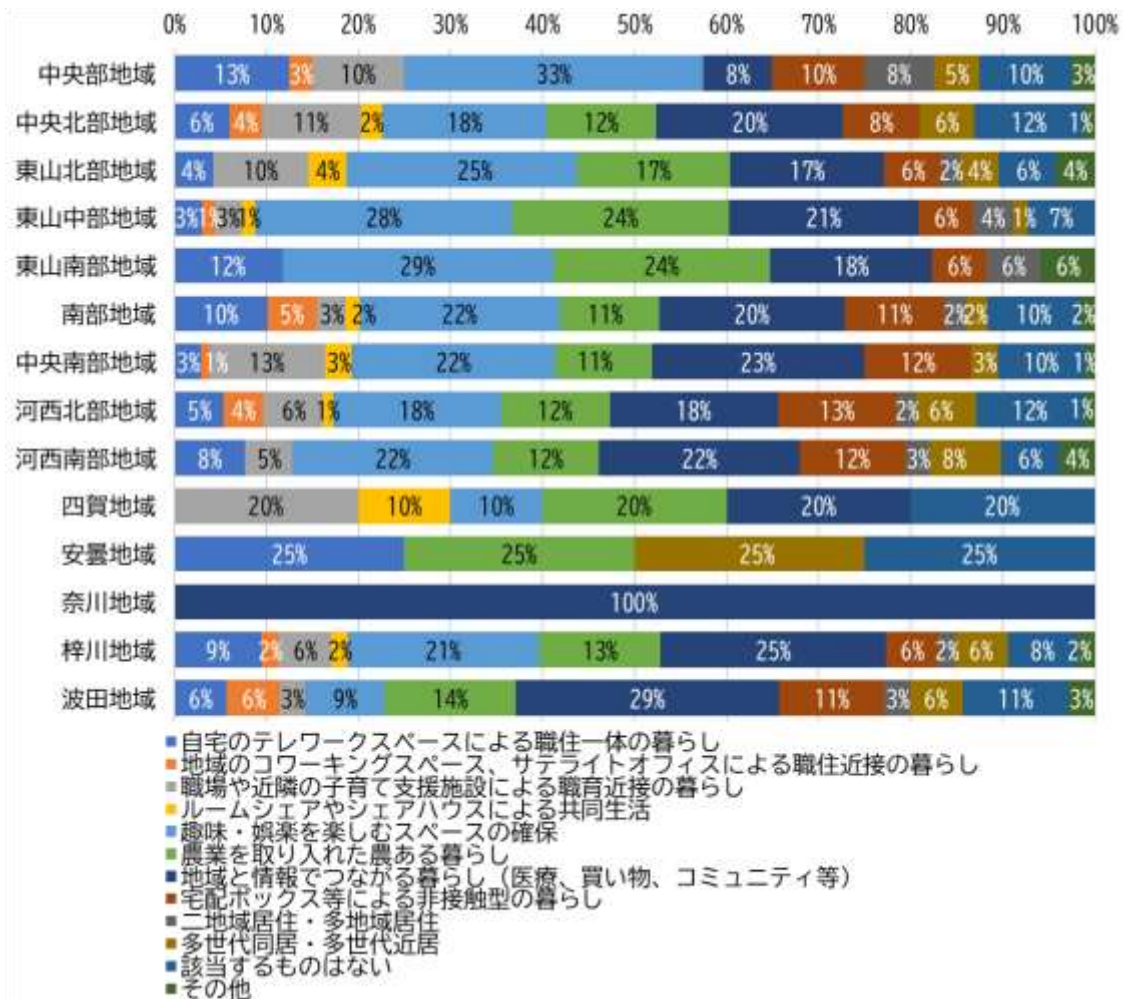
図一 実践したい将来の住まい方や暮らし方

年代別でみると、若い年代ほど（20歳未満を除く）「職場や近隣の子育て支援施設による職育近接の暮らし」、「宅配ボックス等による非接触型の暮らし」の割合が多くなる傾向がみられる。一方、高い年代ほど「地域と情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ）」の割合が多くなる傾向がみられる。



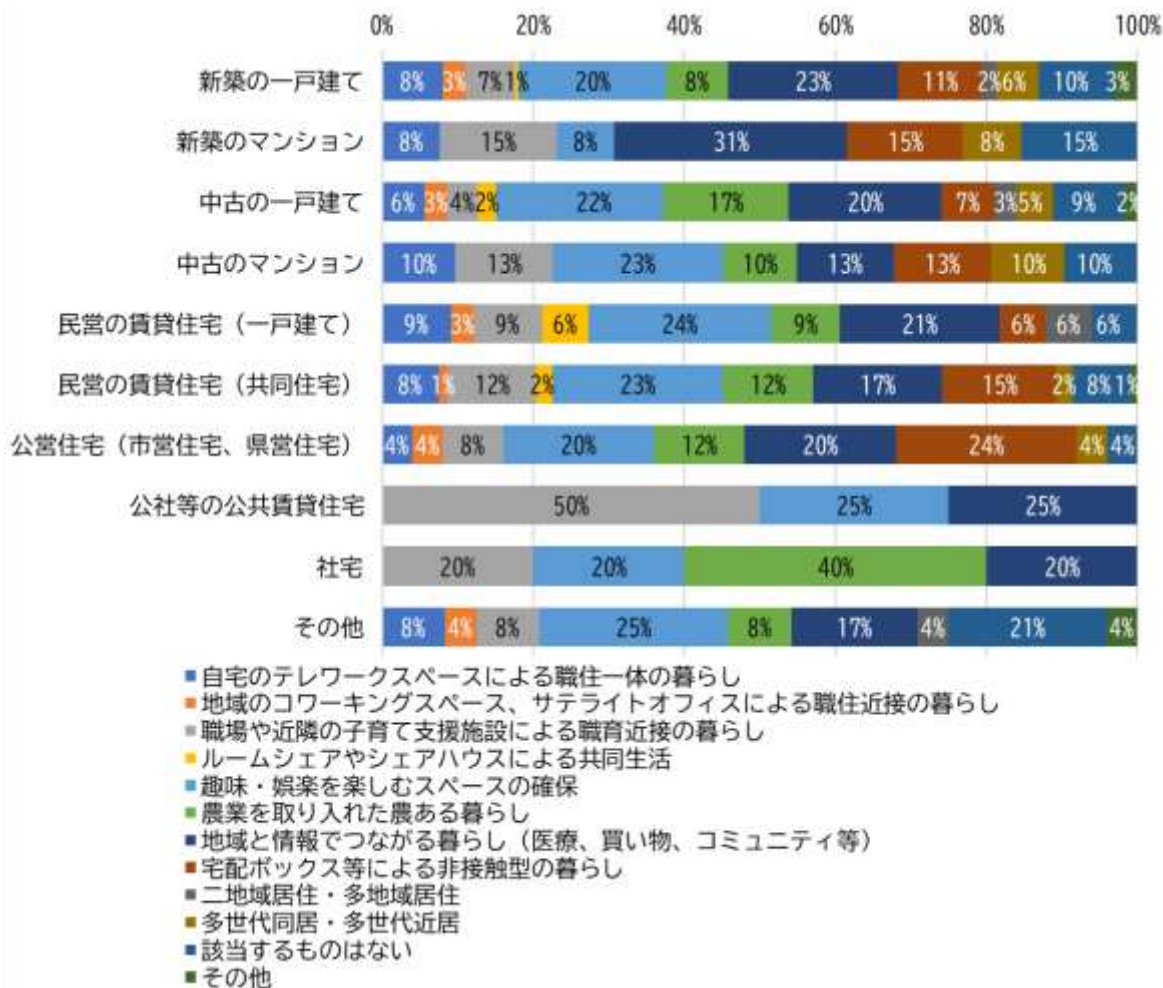
図一 年代別実践したい将来の住まい方や暮らし方

地域別でみると、いずれの地域も「趣味・娯楽を楽しむスペースの確保」と「農業を取り入れた農のある暮らし」、「地域と情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ等）」が多くなっており、特に「中央部地域」は「趣味・娯楽を楽しむスペースの確保」、「波田地域」は「地域と情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ等）」が多い。



図－地域別実践したい将来の住まい方や暮らし方

住宅種類別でみると、「新築の一戸建て」と「新築のマンション」は「地域と情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ等）」、「公社等の公共賃貸住宅」は「職場や近隣の子育て支援施設による職育近接の暮らし」、「社宅」は「農業を取り入れた農ある暮らし」、その他の住宅種類は「趣味・娯楽を楽しむスペースの確保」が最も多くなっている。



図－住宅種類別実践したい将来の住まい方や暮らし方

【住宅の環境対策・省エネ対策・再エネ導入について】

問20. 住宅の環境対策として重視すること

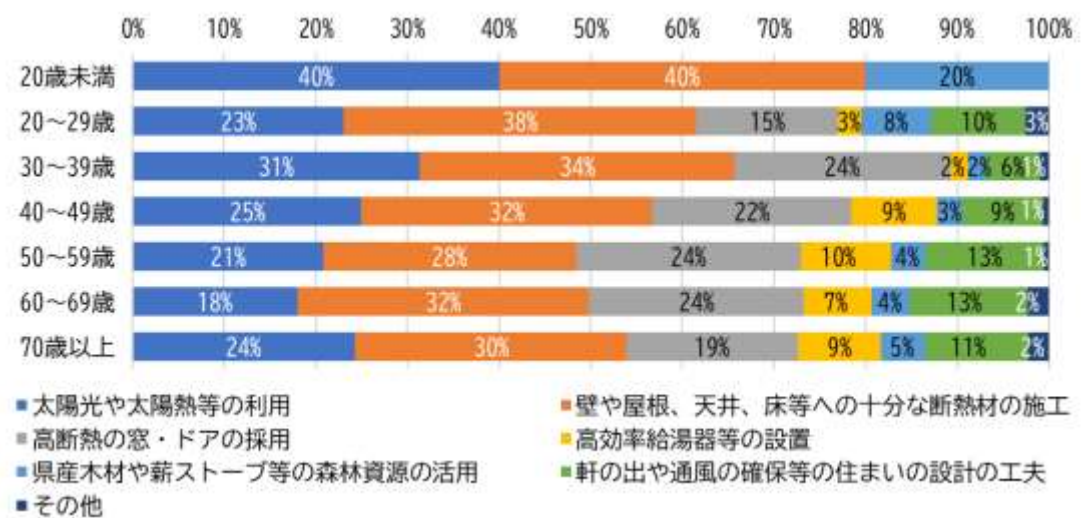
あなたは、住宅の環境対策として、どのようなことを重視しますか。
 [該当するもの2つまでに○]

住宅の環境対策として重視することは、「壁や屋根、天井、床等への十分な断熱材の施工」が最も多く55.9%と過半数を占めており、次いで「太陽光や耐熱材等の利用」が41.6%、「高断熱の窓、ドアの採用」は39.2%であった。



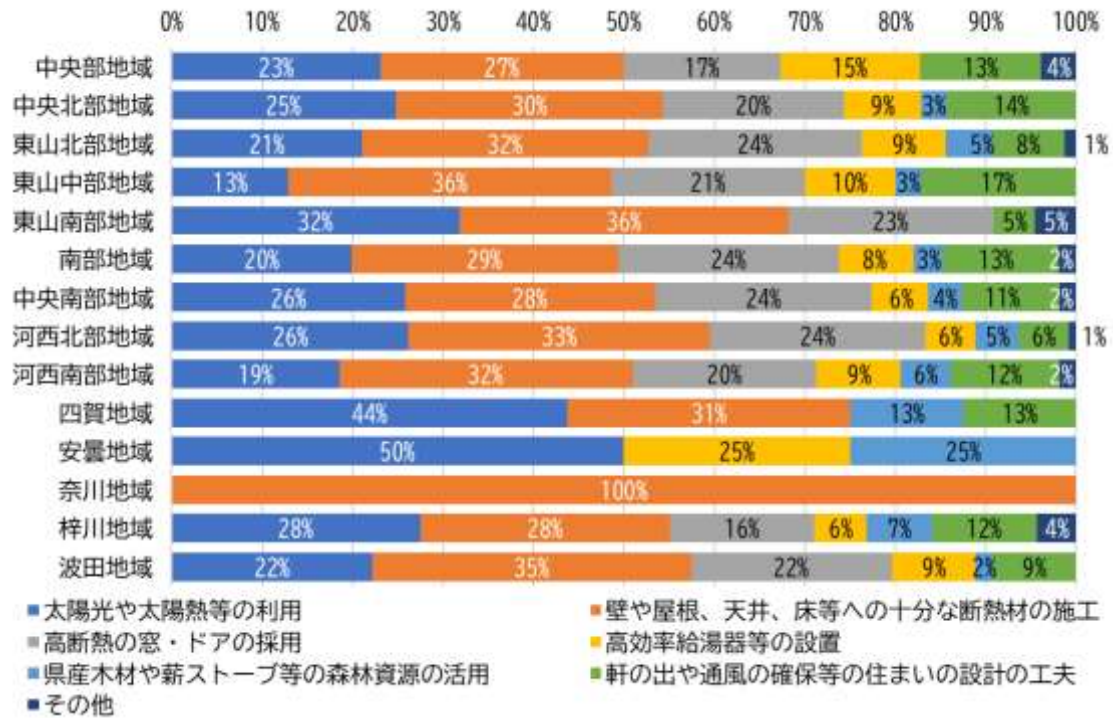
図－住宅の環境対策で重視すること

年代別で見ると、全年代も「太陽光や耐熱材等の利用」、「壁や屋根、天井、床等への十分な断熱材の施工」、「高断熱の窓、ドアの採用」の割合が多くなっており、それら3つで70%を超えている。また、40代以上では「高効率給湯器等の設置」が比較的多い。



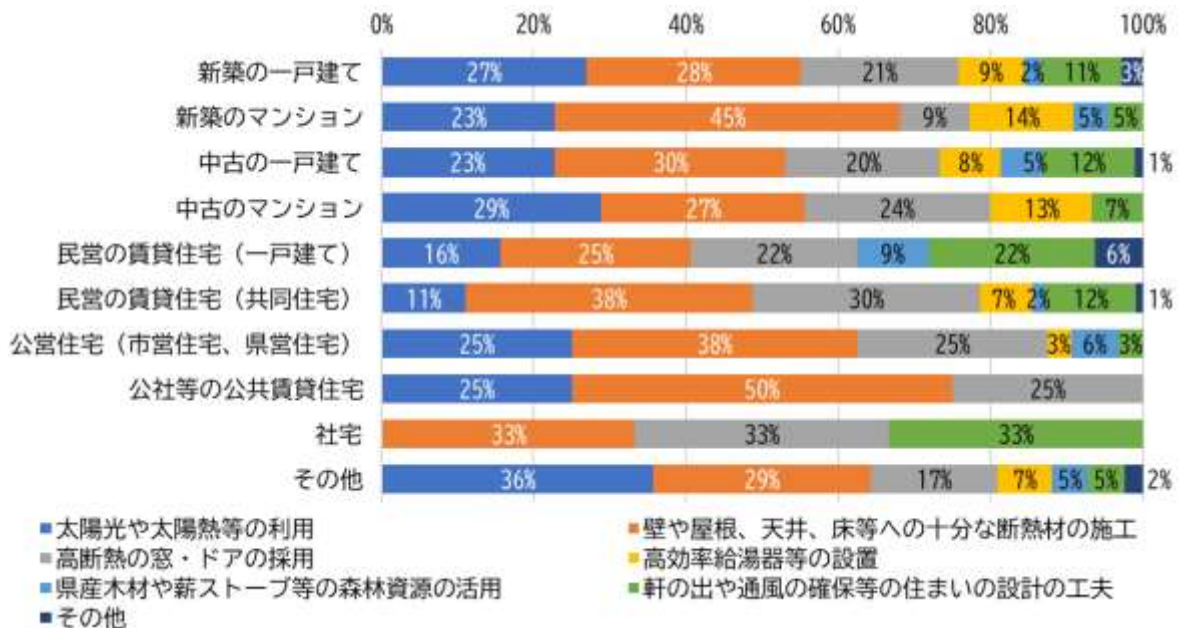
図－年代別住宅の環境対策で重視すること

地域別でみると、ほぼ全ての地域で「太陽光や太陽熱等の利用」、「壁や屋根、天井、床等への十分な断熱材の施工」、「高断熱の窓・ドアの採用」が多くなっており、それら3つで過半数を占めるが、「安曇地域」のみ50%となっている。



図－地域別住宅の環境対策で重視すること

住宅種類別でみると、どの住宅種類も「太陽光や耐熱材等の利用」、「壁や屋根、天井、床等への十分な断熱材の施工」、「高断熱の窓、ドアの採用」が多くなっており、それら3つで過半数を占めている。



図－住宅種類別住宅の環境対策で重視すること

問21. 省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費

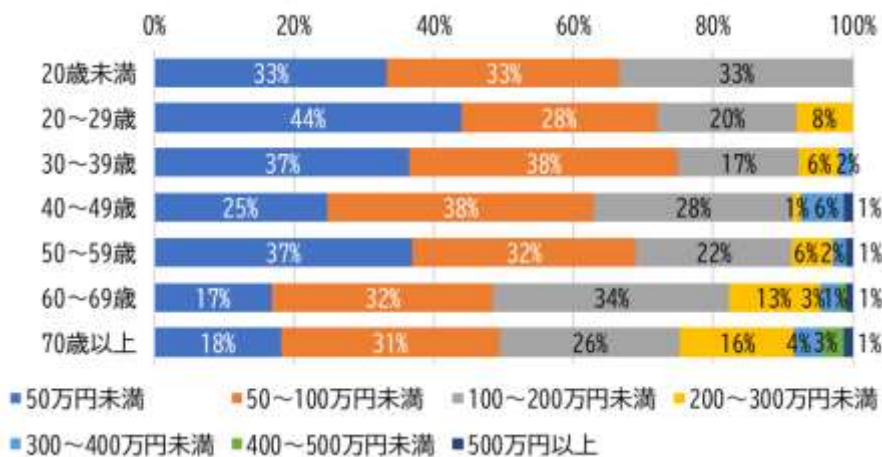
あなたは、住宅の脱炭素化の実現に向けて省エネルギー住宅を建築する場合、光熱費等の削減を見越して、いくらまでなら建設費を上乗せできますか。[該当するもの1つに○]

省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費は「50～100万円未満」が最も多く33.0%、次いで「50万円未満」と「100～200万円」が26.0%であった。



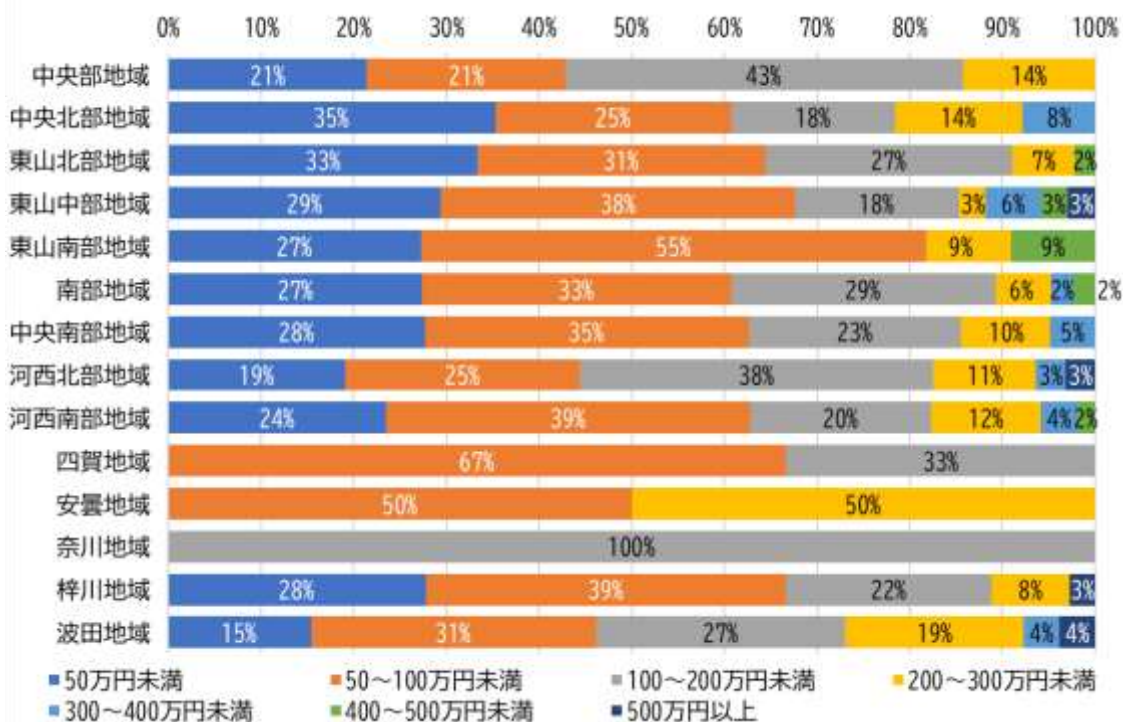
図－省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費

年代別で見ると、50代以下では「50万円未満」と「50～100万円未満」で60%以上を占めているが、60代以上では50%を下回っており、「200～300万円未満」の割合が他の年代と比べて多くなっている。



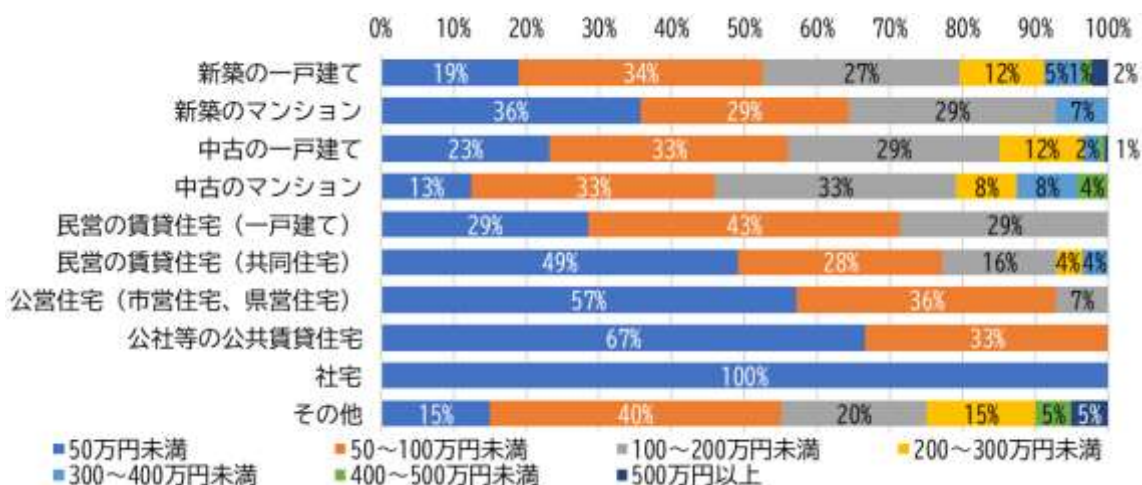
図－年代別省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費

地域別でみると、ほぼ全ての地域で「50万円未満」、「50万～100万円未満」、「100万～200万円未満」の3つで70%以上を占めるが、「安曇地域」のみ50%となっている。また、「中央部地域」と「河西北部地域」では「100万～200万円未満」が比較的多くなっている。



図－地域別省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費

住宅種類別でみると、「新築の一戸建て」、「中古の一戸建て」、「中古のマンション」は「50万円未満」と「50万～100万円未満」で40～60%を占めているが、「民営の賃貸住宅（一戸建て）」、「民営の賃貸住宅（共同住宅）」はそれらで70%以上、「公営住宅（市営住宅、県営住宅）」、「公社等の公共賃貸住宅」はそれらで90%以上を占めている。



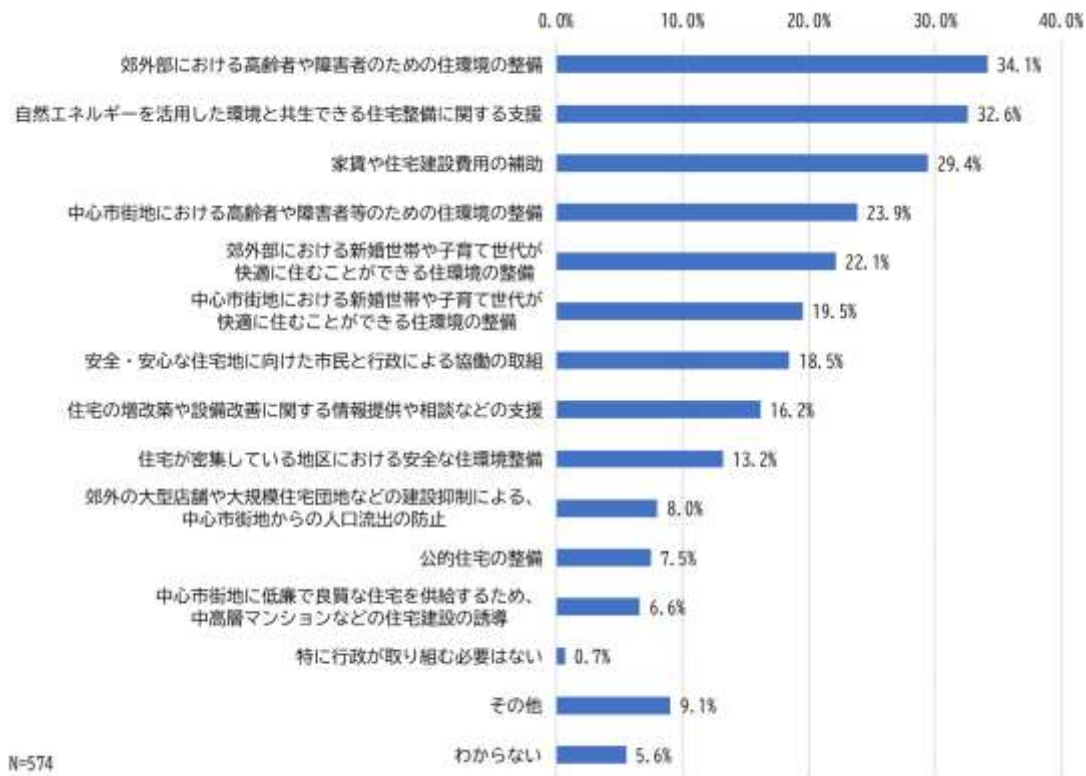
図－住宅種類別省エネルギー住宅建築の際に上乗せできる建設費

【今後の住まいやまちづくりに関する施策について】

問22. 行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策

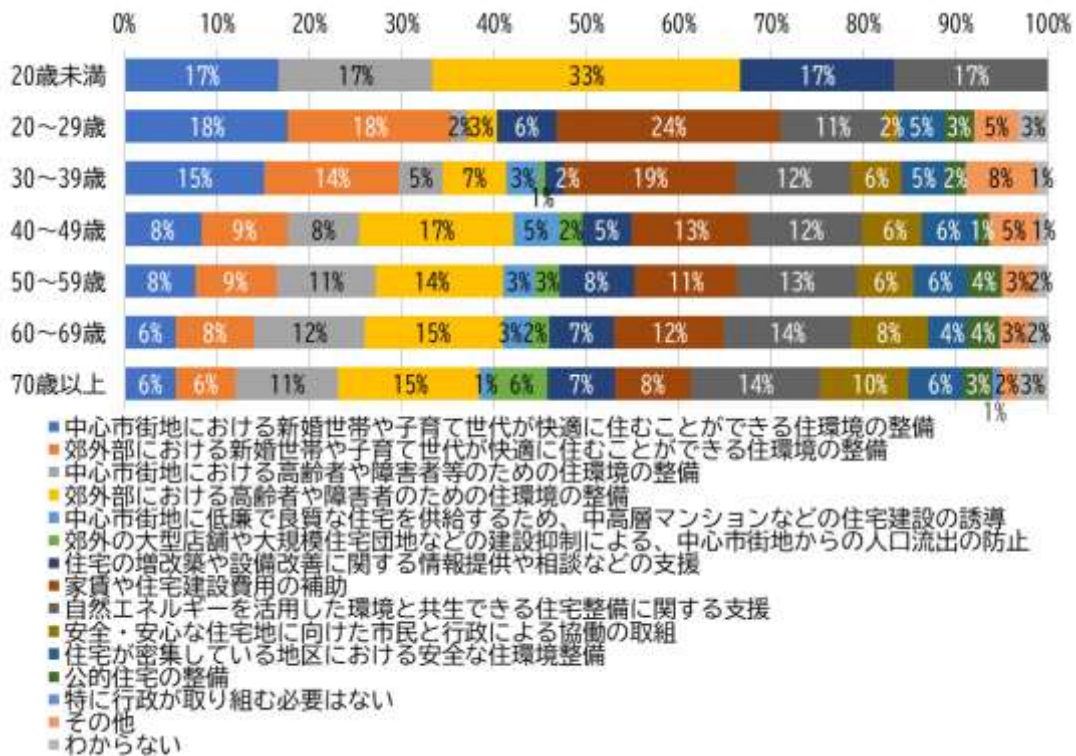
あなたは、今後、行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策として、どのようなものがあると考えますか。[該当するもの3つまでに○]

行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策は、「郊外部における高齢者や障害者のための住環境の整備」が最も多く34.1%、次いで「自然エネルギーを活用した住環境と共生できる住宅整備に関する支援」が32.6%、「家賃や住宅建設費用の補助」は29.4%であった。



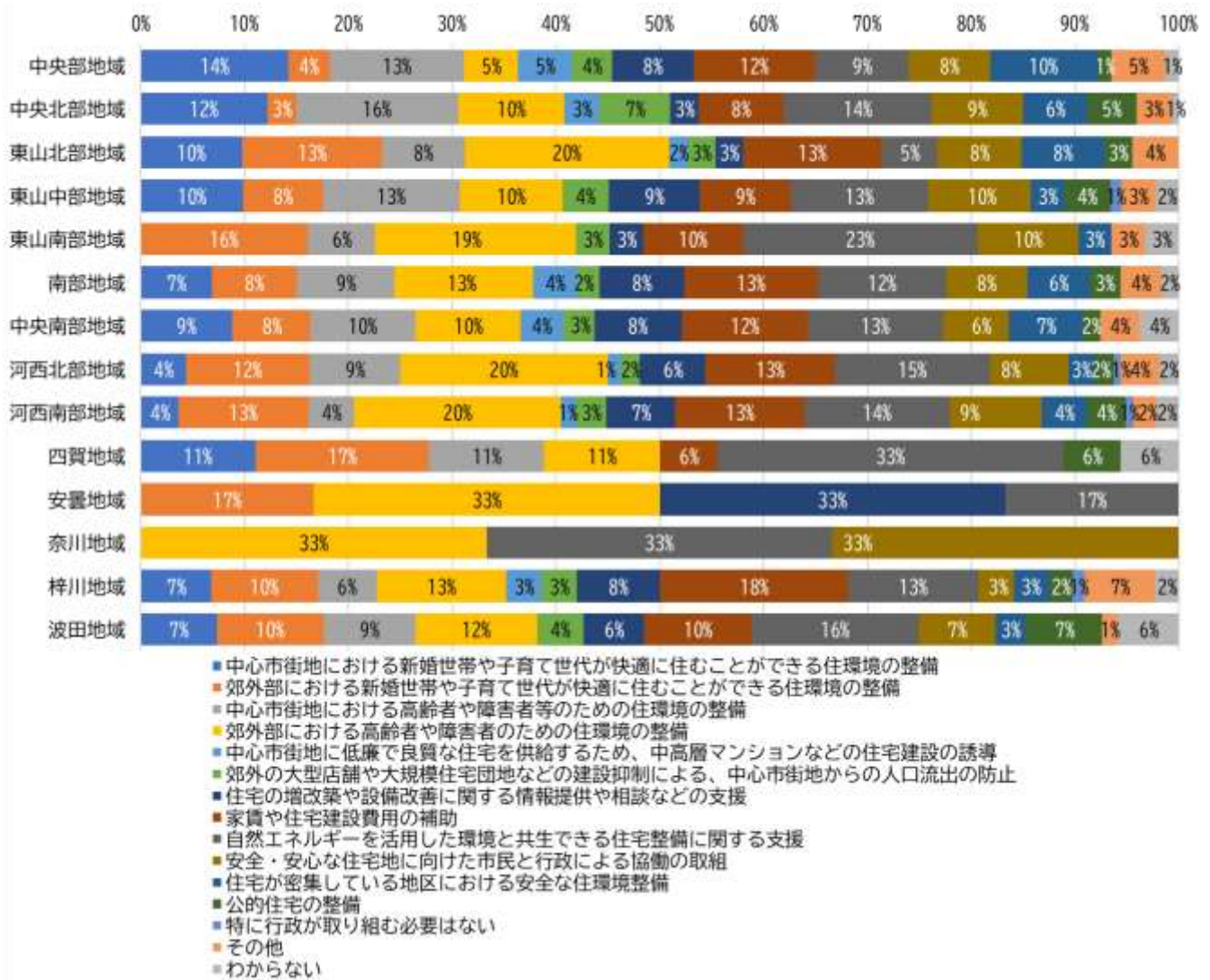
図－行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策

年代別でみると、若い年代（20歳未満を除く）ほど「中心市街地における新婚世帯や子育て世代が快適に住むことができる住環境の整備」、「郊外部における新婚世帯や子育て世代が快適に住むことができる住環境の整備」、「家賃や住宅建設費用の補助」の割合が多い傾向があり、40代以上では「郊外部における高齢者や障害者のための住環境の整備」の割合が多くなっている。



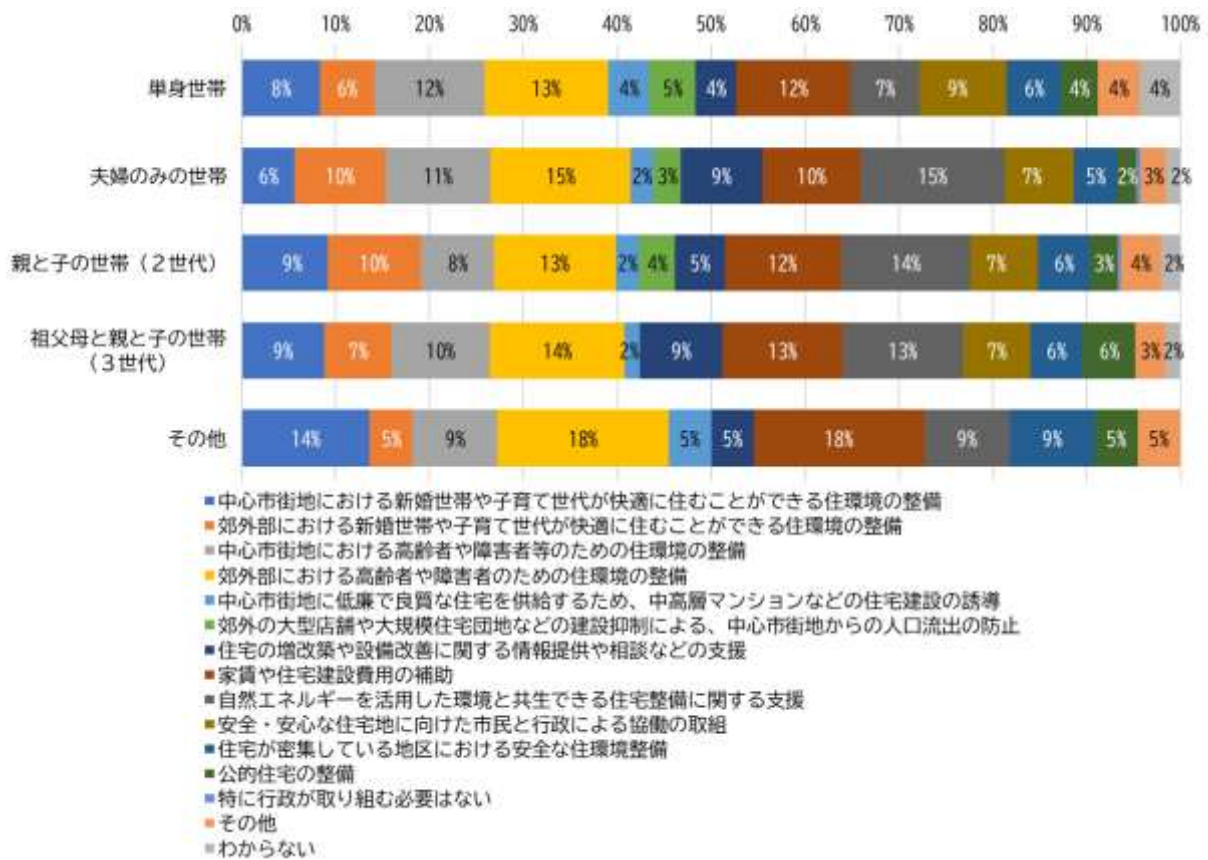
図一 年代別行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策

地域別でみると、いずれの地域も様々な施策が挙げられているが、「東山北部地域」、「東山南部地域」、「河西北部地域」、「河西南部地域」では「郊外部における高齢者や障害者のための住環境の整備」が比較的多くなっている。また、「東山南部地域」、「四賀地域」では「自然エネルギーを活用した環境と共生できる住宅整備に関する支援」が比較的多い。



図－地域別行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策

世帯種類別でみると、世帯の種類によって大きな違いは見られないが、「単身世帯」は他の世帯種類に比べて「自然エネルギーを活用した環境と共生できる住宅整備に関する支援」の割合が少なくなっている。



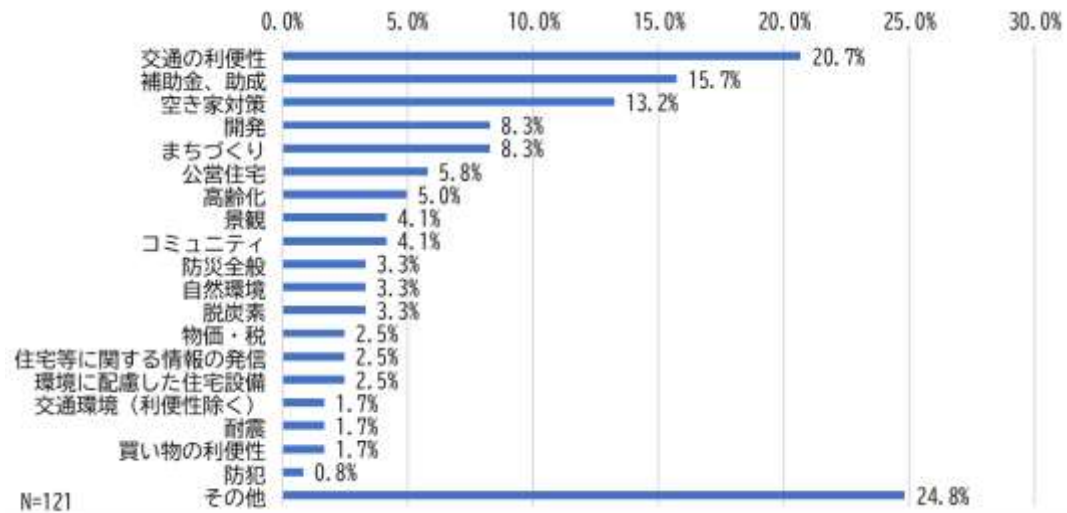
図一 世帯種類別行政が行うべき住まいやまちづくりに関する施策

【自由記入欄】

問23. 住宅施策に関する意見及び要望

その他、松本市の住宅施策に関するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

住宅施策に関する意見及び要望は、「交通の利便性」に関する話題が最も多く20.7%、次いで「補助金、助成」が15.7%、「空き家対策」は13.2%であった。



図一 住宅施策に関する意見及び要望